

松山市埋蔵文化財調査年報 18

平成17年度

2006

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

松山市埋蔵文化財調査年報 18

平成17年度

2006

松山市教育委員会
財團法人松山市生涯学習振興財團
埋蔵文化財センター



卷頭図版1 樺味四反地遺跡13次調査地完掘状況（北より）



卷頭図版 2 来住廬寺32次調査地金堂跡完掘状況（南東より）

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財がありますが、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、松山市教育委員会の指導を得て、開発事業等によって失われようとしている遺跡について、事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、平成17年度に埋蔵文化財センターが新たに合併によって松山市に参入した旧北条市を含めた本市において実施した発掘調査報告、並びに松山市考古館が主体となって開催した展示会、講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものであります。

当該年度の発掘調査では、弥生時代から近世に至る数多くの遺構・遺物を発見しました。特に樽味四反地遺跡13次調査地では、樽味地区において3例目となる大型掘立柱建物跡がみつかり、注目されました。また、来住廃寺32次調査地では、これまで塔基壇と考えられていた遺構が金堂跡であったことが判明し、また全国的に類例をみない軒丸瓦が2種類出土するなど大きな成果がありました。

このような資料や成果が得られましたのも、関係各位の皆様の埋蔵文化財に対するご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げる次第です。今後とも、なお一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本書が、松山市民の皆様をはじめ、多くの方々に埋蔵文化財に対するご理解を深めていただける資料として、ご活用いただければ幸いです。

平成18年10月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団

理事長 中村時広

例　　言

- 本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが、平成17年4月1日から平成18年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果などをまとめた年次報告書である。
- 確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。
- 各調査の報告は、発掘調査担当者が執筆し、編集は水本完児が行った。
- 本書に掲載した写真の大半は、大西朋子が撮影した。
- 位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。
- 遺構は、以下の略号で記した。
SA：柵、柱列　SB：竪穴式住居跡（建物跡）　掘立：掘立柱建物跡　SR：自然流路
SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　SP：柱穴　SX：性格不明遺構
- 各図の方位は、国土座標第4座標系に基づく座標北を基本とする。なお、磁北の場合には方位の上に「磁北」と記入した。
- 刊行組織は、以下のとおりである。（平成18年4月1日現在）

松　山　市　教　育　委　員　会	教　育　長	土居　貴美
事　務　局	局　長	石丸　修
	企　画　官	江戸　通敏
	企　画　官	仙波　和典
	企　画　官	宮内　健二
文化財課	課　長	家久　則雄
	主　幹	西尾　幸則
	主　查	栗田　正芳
	理　事　長	中村　時広
	事　務　局　長	吉岡　一雄
	事　務　局　次　長	丹生谷博一
	調　査　監	杉田　久憲
(財) 松山市生涯学習振興財團	所長兼古跡係長	丹生谷博一
	次長兼管理係長	重松　幹雄
	次長兼調査係長	田城　武志
	学　芸　係　長	大北　冬彦

埋蔵文化財センター組織図					
所長 (兼振長) 丹生谷博一	次長 (兼管理係長) 重松幹雄	管理係	管理係長 (業務) 重松幹雄	管理係長 (業務) 小野範一	本川祐一、西原真衣子
大長 (兼調査係長) 田城武志		調査係	調査係長 (業務) 田城武志	調査係長 (業務) 山之内志郎 橋木達一	宮内恒一、河野史知、相原勝二、 相原秀仁、吉田和浩、加藤次郎、 高花和香、武正直道、山本健一、 小笠原豊治、水本元治、大西朋子
松山市考古館 館長(兼所長) 丹生谷博一		学芸係	学芸係長 大北冬彦	学芸主任 橋木謙一	小丘和紀子、平岡勇、森野寛子、 河野真代、栗田真奈

整理作業協力者（五十音順）

青野茂子・浅井茂之・池内芳美・石川千代美・石丸由利子・猪野美喜子・岩本美保・江島淳子・大野裕子・岡田弥生・岡本邦栄・越智田美紀・金子育代・川添利恵・菅留美・木下奈緒美・木西嘉子・桐間ゆかり・忽那理恵・國田克彦・佐伯利枝・篠森千里・新保恵美子・末光美恵・鈴鹿八恵子・仙波千秋・仙波ミリ子・高尾久子・田崎真理・多知川富美子・玉井順子・戸川安子・中村紫・西川千秋・西本二枝・丹生谷道代・萩野ちよみ・東山里美・平岡直美・福岡志保美・堀眞也・本多智絵・政本和人・松下郁子・松友由美・松本美代子・水口あをい・宮内真弓・村上真由美・森田利恵・矢舗妙子・矢野久子・山下満佐子・山邊進也・渡部英子・渡辺佐代枝

9. 以下の方々より、ご指導・ご協力を賜った。（五十音順・敬称略）

阿部義平（国立歴史民俗博物館）／池川孝文（愛媛県教育委員会事務局文化スポーツ部文化財保護課）／上原真人（京都大学大学院）／内田九州男（愛媛大学）／大本敬久（愛媛県歴史文化博物館）／岡田敏彦（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／岡村道雄（奈良文化財研究所）／片桐京司（文化財建造物保存技術協会）／亀岡佳章（愛媛県生涯学習センター）／木藤たかお（フリーアナウンサー）／清野孝之（文化庁記念物課）／工藤省治（祇部焼春秋窯元）／河野正義（民族芸術学会員）／五味盛重（文化財建造物保存技術協会）／坂本信之（高知県文化財団埋蔵文化財センター）／柴田圭子（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／下條信行（愛媛大学）／高瀬哲郎（佐賀県立名護屋城博物館）／田崎博之（愛媛大学）／田中哲雄（東北芸術工科大学）／富田尚夫（愛媛県歴史文化博物館）／仲川靖（滋賀県安土城郭調査研究所）／中野良一（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／長井數秋（日本考古学协会会员）／名本二六雄（日本考古学协会会员）／菱田哲郎（京都府立大学）／藤澤良祐（爱知学院大学）／前園実知雄（奈良芸術短期大学）／松原弘宣（愛媛大学）／真鍋昭文（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／三浦正幸（広島大学）／本中眞（文化庁記念物課）／山中敏史（奈良文化財研究所）／山本忠尚（天理大学）／吉田広（愛媛大学）／渡邊雅子（愛媛県調理製菓専門学校）

10. ご指導・ご協力を賜りました機関は、以下のとおりである。（五十音順・敬称略）

愛知学院大学／愛媛県教育委員会／愛媛県生涯学習センター／愛媛県歴史文化博物館／株式会社京都科学／株式会社古環境研究所／株式会社パレオ・ラボ／株式会社パリノ・サーヴェイ／株式会社吉田生物研究所／国立大学法人京都大学／高知県文化財団埋蔵文化財センター／国立大学法人愛媛大学／国立大学法人広島大学／財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター／財団法人元興寺文化財研究所／財団法人文化財建造物保存技術協会／佐賀県立名護屋城博物館／滋賀県安土城郭調査研究所／大学共同利用機関法人人間文化研究機構／天理大学／東温市教育委員会／東北芸術工科大学／独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所／祇部焼春秋窯元／奈良芸術短期大学／文化庁

11. 本書の仕様は以下のとおりである。

製版 カラー写真・写真図版一175線

印刷 オフセット印刷

用紙 カラー写真：マットコート、本文：マットカラーHG

製本 アジロ綴じ

本文目次

I 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査概要	2
北条片町遺跡	2
祝谷畠中遺跡 2次調査地	4
松山大学構内遺跡 6次調査地	8
道後湯之町遺跡	12
松山城三之丸跡 4次調査地	14
松山城三之丸跡 5次調査地	20
松山城櫻門跡 1・2・3次調査地	24
松山城本丸登城 4次調査地	28
城の内古墳群 2・4・5号墳	30
松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査	34
松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財確認調査	36
東野古墳群	38
東野森ノ木遺跡 3次調査地	40
東野森ノ木遺跡 4次調査地	42
樽味高木遺跡 11次調査地	46
樽味高木遺跡 12次調査地	48
樽味四反地遺跡 11次調査地	52
樽味四反地遺跡 12次調査地	54
樽味四反地遺跡 13次調査地	56
樽味地区確認調査(A～G区)	60
東石井遺跡 3次調査地	64
菜佐池古墳 3次調査	66
南梅本長広遺跡 2次調査地	68
水泥遺跡 3次調査地	72
南高井遺跡 2次調査地	74
南高井遺跡 3次調査地	76
鷹子新畑遺跡 4次調査地	78
来住町遺跡 14次調査地	80
久米高畑遺跡 65次調査地	84
久米高畑遺跡 66次調査地	88
来住庵寺32次調査地	90
II 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	98
松山市埋蔵文化財確認調査一覧	
松山市埋蔵文化財本格調査一覧	
III 平成17年度 保存処理及び出土遺物整理	125
1. 平成17年度出土遺物整理の概要 2. 保存処理 3. 出土遺物整理 4. 東方町採集品	
IV 平成17年度 普及啓発事業	137
1. 展示活動 2. 教育普及活動 3. 収集・保管活動 4. 広報・出版活動	
5. 施設の利用 6. 資料の貸出・調査 7. 職員研修・会議 8. その他	

挿図・写真目次

巻頭図版1 樽味四反地遺跡13次調査地完掘状況（北より）

巻頭図版2 来住廃寺32次調査地完掘状況（南東より）

I 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査概要

北条片町遺跡	2
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
図2 遺構配置図（縮尺1：150）	
祝谷畠中遺跡 2次調査地	4
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 遺構完掘状況（東より）
図2 調査区位置図（縮尺1：400）	写真2 S D 1 完掘状況（北より）
図3 遺構配置図（縮尺1：60）	
図4 出土遺物実測図（縮尺1：3・1：2）	
松山大学構内遺跡 6次調査地	8
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 古代～中世遺構面完掘状況（東より）
図2 弥生～中世遺構配置図（縮尺1：200）	写真2 S R 1 完掘状況（北より）
図3 出土遺物実測図（縮尺1：2・1：3・1：4）	
道後湯之町遺跡	12
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 調査地全景（北西より）
	写真2 3A区右列検出状況（東より）
松山城三之丸跡 4次調査地	14
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 調査地全景（東より）
図2 トレンチ配置図（縮尺1：800）	写真2 1トレンチ完掘状況（南より）
図3 1トレンチ遺構実測図（縮尺1：150）	写真3 3トレンチ完掘状況（南より）
図4 3トレンチ遺構実測図（縮尺1：150）	写真4 1トレンチSD01遺物出土状況（南東より）
松山城三之丸跡 5次調査地	20
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 調査地全景（北より）
図2 トレンチ配置図（縮尺1：250）	写真2 2トレンチ完掘状況（北東より）
	写真3 1-2トレンチ貯水池北東隅（南西より）
	写真4 3トレンチ完掘状況（北東より）
	写真5 4トレンチ貯水池東岸検出状況 (西より)
松山城櫓門跡 1・2・3次調査地	24
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 完掘状況（2次調査、北より）
図2 遺構配置図（縮尺1：200）	写真2 解体終了状況（3次調査、南より）

松山城本丸登城 4 次調査地	28
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
図2 調査区配置図（縮尺1：500）	
城の内古墳群 2・4・5号墳	30
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 2号墳石室検出状況（南東より）
図2 2号墳石室位置図（縮尺1：200）	写真2 4号墳石室完掘状況（南東より）
図3 4号墳・5号墳石室位置図（縮尺1：200）	写真3 5号墳石室内遺物出土状況（東より）
松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査	34
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 土堀基礎石組検出状況（西より）
図2 土堀基礎石組検出位置図（縮尺1：1,000）	写真2 土堀基礎石組隅角部検出状況（南より）
松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財確認調査	36
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
図2 レンチ配置図（縮尺1：1,500）	
東野古墳群	38
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 9号墳横穴式石室（南より）
	写真2 10号墳横穴式石室（南より）
東野森ノ木遺跡 3次調査地	40
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 遺構完掘状況（北東より）
図2 遺構配置図（縮尺1：400）	写真2 北壁土層（南西より）
東野森ノ木遺跡 4次調査地	42
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 IV区遺構検出状況（西より）
図2 調査区測量図（縮尺1：800）	写真2 IV区遺構完掘状況（西より）
図3 土層柱状模式図（縮尺1：40）	写真3 弥生時代後期後半～終末の住まいSB 401（北より）
図4 SB401測量図（縮尺1：80）	写真4 SB401完掘状況（北東より）
	写真5 VI区遺構検出状況（東より）
	写真6 VI区西壁深掘り土層（北東より）
	写真7 調査作業風景（南東より）
椿味高木遺跡11次調査地	46
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	写真1 遺構完掘状況（西より）
	写真2 遺物出土状況（西より）

樽味高木遺跡12次調査地	48
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 遺構完掘状況（北より）
図2 遺構配置図（縮尺1:200）	写真2 SB17遺物出土状況（北より）
図3 出土遺物実測図（縮尺1:4・1:3・1:2）	
樽味四反地遺跡11次調査地	52
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 遺構検出状況（北東より）
図2 遺構配置図（縮尺1:300）	写真2 遺構完掘状況（西より）
樽味四反地遺跡12次調査地	54
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 西半分完掘状況（東より）
図2 遺構配置図（縮尺1:300）	写真2 東半分完掘状況（北より）
樽味四反地遺跡13次調査地	56
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 SB9完掘状況（北東より）
図2 遺構配置図（縮尺1:200）	写真2 南西部完掘状況（北東より）
図3 A~G~E~B区・土層堆積変化図（縮尺1:20）	写真3 SD2遺物出土状況（北東より）
図4 G区トレンチ及び遺構配置図（縮尺1:250）	（SP-g30）検出状況（東より）
東石井遺跡3次調査地	64
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 遺構完掘状況（南より）
図2 調査区と主要遺構配置図（縮尺1:400）	写真2 SK101遺物出土状況（南より）
葉佐池古墳3次調査	66
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	
図2 調査区と主要遺構配置図（縮尺1:400）	
南梅本長広遺跡2次調査地	68
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 B区遺構完掘状況（北より）
図2 A区遺構配置図（縮尺1:80）	写真2 B区石列と石敷き遺構検出状況
図3 B区遺構配置図（縮尺1:80）	（北西より）
水泥遺跡3次調査地	72
図1 調査地位置図（縮尺1:25,000）	写真1 1区遺構完掘状況（北より）
	写真2 石室完掘状況（南西より）

南高井遺跡 2次調査地	74
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
写真1 2区遺構完掘状況（南より）	
写真2 土坑203遺物出土状況（南より）	
南高井遺跡 3次調査地	76
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
写真1 2C区遺構完掘状況（北より）	
写真2 土坑201遺物出土状況（東より）	
鷹子新畠遺跡 4次調査地	78
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
写真1 SD1検出状況（北東より）	
図2 土層柱状模式図（縮尺縦1：20・横1：40）	
写真2 調査区西半部遺構完掘状況（南東より）	
写真3 SD1完掘状況（東より）	
来住町遺跡14次調査地	80
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
写真1 調査地より来住廃寺跡方面を望む（南西より）	
図2 遺構配置図（縮尺1：200）	
写真2 遺構検出状況（東より）	
図3 出土遺物実測図（縮尺1：3）	
久米高畠遺跡65次調査地	84
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
写真1 正倉院南濠（西より）	
図2 遺構配置図（縮尺1：200）	
図3 正倉院（縮尺1：1,000）	
図4 SD020断面図（縮尺1：50）	
久米高畠遺跡66次調査地	88
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
図2 遺構配置図（縮尺1：100）	
来住廃寺32次調査地	90
図1 調査地位置図（縮尺1：25,000）	
写真1 輸丸瓦A種出土状況（北東より）	
図2 遺構実測図（縮尺1：100）	
写真2 輸丸瓦B種出土状況（南西より）	
図3 瓦積出土状況実測図及び土層断面図（縮尺1：30）	
写真3 確石配置状況（南より）	
図4 上層土層断面図（縮尺1：60）	
II 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	98
図1 平成17年度 松山市埋蔵文化財確認調査による遺跡検出地点位置図	
図2 平成17年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図（縮尺1：75,000）	

III 平成17年度 保存処理及び出土遺物整理	
2. 保存処理	127
写真1 乃万の裏遺跡2次調査地出土刀（処理前）	
写真2 乃万の裏遺跡2次調査地出土刀（処理後）	
写真3 乃万の裏遺跡2次調査地出土器種不明（処理前）	
写真4 乃万の裏遺跡2次調査地出土器種不明（処理後）	
写真5 久米高畠遺跡43次調査地出土刀（処理前）	
写真6 久米高畠遺跡43次調査地出土刀（処理後）	
写真7 松山大学構内遺跡6次調査地出土獸齒（処理前）	
写真8 松山大学構内遺跡6次調査地出土獸齒（処理後）	
3. 出土遺物整理	131
図1 石剣実測図（1）（縮尺1：3）	
図2 石剣実測図（2）（縮尺1：3）	
図3 武器形石製品実測図（縮尺1：3）	
図4 磨製石器実測図（縮尺1：2）	
4. 東方町採集品	136
図1 位置図・遺物実測図（縮尺1：100,000）（縮尺1：3）	
IV 平成17年度 普及啓発事業	
1. 展示活動	138
写真1 巡回展「発掘へんろ」風景	
写真2 速報展「むかし・昔のまつやまと掘る」風景	
写真3 特別展「祈り」風景	
2. 教育普及活動	140
写真4 特別展記念講演会風景	
写真5 企画展基礎講座第2回風景	
写真6 「とことん考古学V」第1回風景	
写真7 「石を磨いて勾玉を作ろう！」風景	
写真8 「ガラス勾玉を作ろうV」風景	
写真9 「伊豫のまほろば探訪V」風景	
写真10 「樽味四反地遺跡12次・13次調査地」見学風景	
写真11 博物館学芸員実習「展示」風景	
写真12 「出前考古学教室」風景	
3. 収集・保管活動	148
写真13 「大連古代ハス」開花風景	

表 目 次

I 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査概要	
表1 基礎計測表	90
II 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料	
表1 平成17年度 松山市埋蔵文化財確認調査一覧	101
表2 平成17年度 本格調査一覧	122
III 平成17年度 保存処理及び出土遺物整理	
2. 保存処理	127
表1 平成17年度金属製品保存処理遺跡名一覧	
表2 平成17年度動物遺骸体保存処理遺跡名一覧	
表3 平成17年度調査出土木製遺物、金属製造物、動・植物遺体一覧	
3. 出土遺物整理	131
表1 石剣一覧	
表2 武器形石製品一覧	
表3 磨製石鏃一覧	
IV 平成17年度 普及啓発事業	
1. 展示活動	138
表1 展示会一覧	
2. 教育普及活動	140
表2 講演会等一覧	
表3 体験講座一覧	
表4 現地説明会一覧	
表5 体験学習一覧（1）～（3）	
表6 職場体験一覧	
表7 出前考古学教室一覧	
4. 広報・出版活動	149
表8 考古館出版物一覧	
表9 調査報告書一覧	
5. 施設の利用	150
表10 施設利用一覧	
6. 資料の貸出・調査	151
表11 資料貸出一覧	
表12 資料調査一覧	
7. 職員研修・会議	153
表13 職員研修・会議一覧	
8. その他	153
表14 平成17年度 考古館月別入館者数調（平成17年4月1日～18年3月31日）	

I 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査概要

北条片町遺跡

所在地 松山市北条560番1の一部
 期間 平成17年8月1日～同年9月30日
 面積 317.83m²
 担当 相原浩二・山之内志郎



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市道北条鴻之坂線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は、風早平野北部の標高約2.1～2.2mの地点に立地する。旧北条市域では、これまでの発掘調査によって丘陵部を中心に縄文時代から中世にかけての遺跡が存在していることが明らかになっているが、平野部では一部において確認されているに過ぎない。このことから、同時代の集落関連遺構の広がりと構造解明を主目的として調査を行った。調査にあたっては、北から1区・2区とし、2画面に分けて調査を実施した。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層灰色土（耕作土）、第Ⅱ層橙色土（床土）、第Ⅲ層灰白色土（旧耕作土）、第Ⅳ層灰橙色土、第Ⅴ層黄灰色土、第Ⅵ層橙色砂質土（地山）、第Ⅶ層灰色砂質土（地山）である。遺構は第Ⅵ層上面で検出し、土坑7基、溝5条、柱穴87基、性格不明遺構3基がある。これらの遺構のうち、明確に時期比定できるものはSK1などがあり、13世紀代の遺構である。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品がある。

SK1は1区中央付近に位置する。平面形態は不整形を呈し、断面形態は長軸方向で二段の逆台形状を呈する。規模は長軸1.1m、短軸0.83m、深さ16cmを測る。埋土は3層に分かれ、第1層灰色砂質土、第2層褐色土、第3層炭混じりの灰褐色土である。土坑内より土師器皿が出土している。時期は出土遺物より13世紀代と考えられる。

SD1は1区中央のB2～C3区に位置する。東西方向に伸び、中央付近で二股に分かれ調査区外へ続く。規模は検出長3.2m、上場幅0.15～0.28m、深さ2～6cmを測り、断面形態は皿状を呈する。埋土は灰褐色土の單一層である。遺物は出土していない。時期は、SK1第3層と同埋土のため13世紀代と考えられる。

小結 今回の調査では、風早平野における中世の遺構と弥生時代～中世の遺物を確認することができた。遺構では、狭小な調査区のわりに柱穴を多く検出したにもかかわらず、掘立柱建物を復元できる配置での検出はなかったが、今後周辺地域で確認される可能性は高いといえるであろう。また遺物では、SK3内より土鍊1点が出土している。本調査地は標高2m余の低地に立地しており、現海岸線まで約700mの位置にあるため、当該地域に生活した人々の生業の実態を知る上で重要な資料である。今後は周辺域における調査によって更に中世集落の構造とその変遷の解明に努めたい。（山之内）

北条片町道路



図2 道構配置図

祝谷畠中遺跡 2次調査地

所在地 松山市祝谷2丁目263番6
 期 間 平成17年11月11日～同年11月18日
 面 積 210.11m²の内61.4m²
 担 当 河野史知・小笠原善治



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No.55・56・57北代・緑台・土居窪遺物包含地』内における個人住宅建設に伴う事前調査である。調査地周辺では、永谷川左岸域に祝谷アイ遺跡、祝谷丸山遺跡、祝谷大地ヶ田遺跡、祝谷本村遺跡、祝谷畠中遺跡、土居窪遺跡、永谷川右岸域には祝谷六丁場遺跡、祝谷西山遺跡など、これまでに数多くの発掘調査が行われており、主に弥生時代の集落跡が検出されている。特に北西約700mの祝谷六丁場遺跡では丘陵部から弥生時代中期の埋納された平行銅剣が出土し、南西約70mの祝谷畠中遺跡では弥生時代前期末から中期中葉頃の環濠などが検出されており、松山平野でも注目される重要な地域である。

遺構・遺物 調査地は河岸段丘上の標高約47mに立地する。調査以前は宅地であった。

基本土層は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層浅黄色砂質土、第Ⅲ層灰褐色～明褐色砂質土(土師器・瓦器片を含む)、第Ⅳ層褐色砂質土(土師器・瓦器片を含む)、第Ⅴ層明黄褐色土(地山土)であり、旧地形は東から西へ緩傾斜している。遺構には、溝3条、柱穴6基がある。遺物は、第Ⅳ層内や遺構内から土師器・瓦器・陶磁器・鉄器が出土した。また、第Ⅳ層やSD1から弥生時代や古墳時代の土器などが出土していることから、調査地周辺にこの頃の集落が存在していたことが窺える。

SD1は丘陵でも裾部に近い緩傾斜面を直線的に縱断する断面V字形の溝であり、検出長12.5m(試掘トレンチまで含む)、上場幅4.62～4.80m、深さ48～155cmを測る。断面形態はV字状を呈し、形状から人為的に掘られた可能性がある。下層からは砂層や、溝床付近には粘土層が堆積しており、この部分は水の作用を受けていたことが判る。遺物は上層から下層にかけて土師器の楕・壺・鍋、瓦器の楕の小片、窯壁の一部、鐵釘などが出土し、下層の粘土層からは炭化材の小片が混入する。出土した遺物の特徴から、12世紀後半頃の短期間に溝が埋没したと考えられる。西側約40m地点に位置する祝谷畠中遺跡では東西方向に延びる古代末から中世頃の溝を数条検出しており、位置関係や出土遺物などから6a区で検出したSR03につながる可能性をもつ。

小結 今回の調査では、古代末から中世にかけての集落を構成する遺構や遺物などを検出し、当時の集落構造を解明する資料が得られた。SD3やSP1・2・5・6などは、埋土からSD1の上層が埋没する頃の集落関連遺構と考えられ、これらの遺構の検出によりSD1と係わりをもつ集落が周辺に存在していたことが窺える。今後は、本調査地の西側に広がる祝谷畠中遺跡への集落の広がりを視野に入れて、SD1の性格や丘陵の緩傾斜面に存在する集落構造を検討する必要がある。(河野)

祝谷畠中遺跡2次調査地

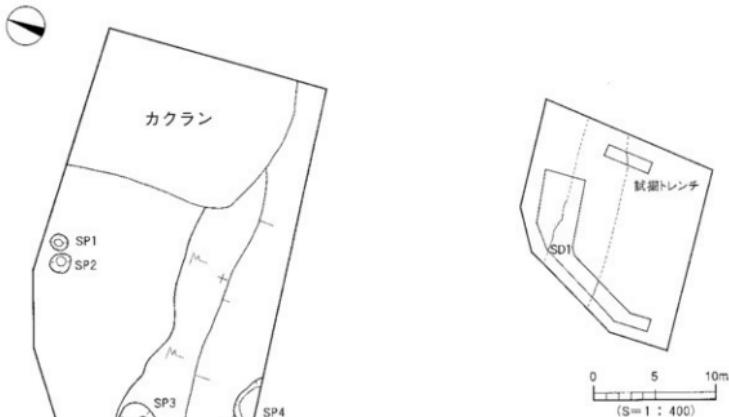
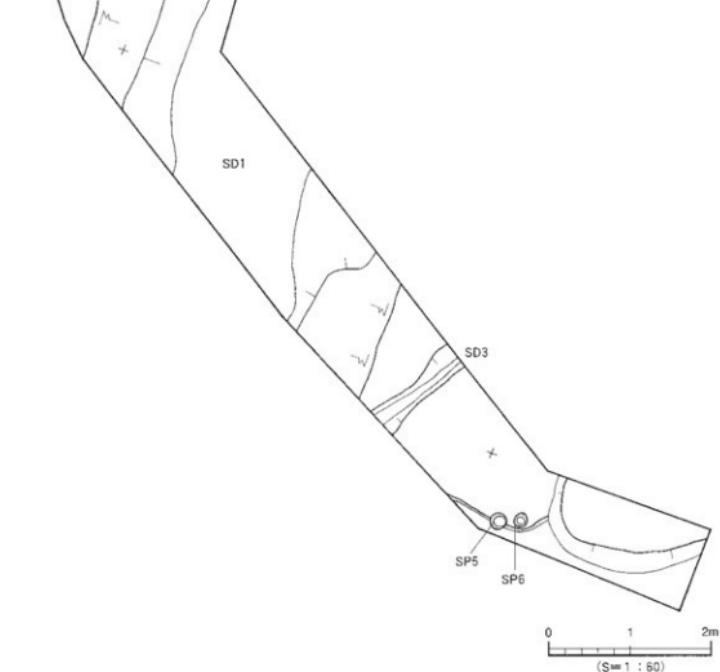


図2 調査区位置図

図3 造構配置図



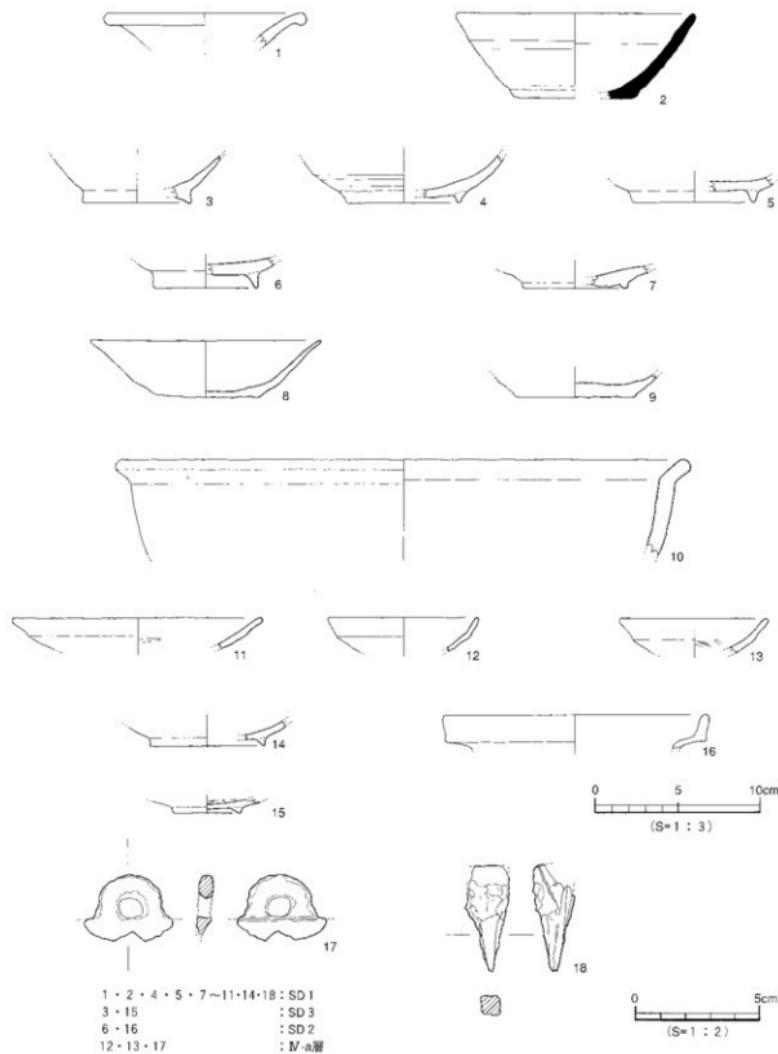


図 4 出土遺物実測図



写真1 遺構完掘状況（東より）



写真2 SD 1 完掘状況（北より）

松山大学構内遺跡 6次調査地

所在地 松山市文京町4番地10の一部
 期 間 平成17年3月1日～同年6月30日
 面 積 1,234.80m²
 担 当 武正良浩・相原浩二・山之内志郎



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No67 橋又(元練兵場)遺物包含地(文京遺跡)」内における校舎新築に伴う事前発掘調査である。調査地は、松山平野の中央部、標高約26.9mの地点に位置している。松山大学構内においては、これまでに5次にわたる発掘調査（試掘調査を含む）が行われ、主に弥生時代から中世における集落関連遺構が確認されている。このことから、同時代における集落関連遺構の広がりと構造解明を主目的として調査を行った。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（旧耕作土）、第Ⅲ層明褐色土、第Ⅳ～Ⅵ層黄灰色土、第Ⅶ層橙灰色土、第Ⅷ層灰褐色土（遺物包含層）、第Ⅸ層橙灰色土、第Ⅹ層灰褐色土（遺物包含層）、第Ⅺ層黄色微砂質土ほか（地山）である。主な遺構は、掘立柱建物跡1棟、土坑61基、溝5条、自然流路1条、柱穴88基がある。主な出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石製品、鉄製品などがある。遺構の検出にあたっては、中世以降の遺構から検出を行い、次に古代、最後に弥生時代の遺構面へ順次調査を行った。以下、弥生時代と古代～中世の主な遺構と遺物について概略を記す。

弥生時代遺構面では、自然流路1条、土坑13基、溝2条、柱穴11基、性格不明遺構10基を検出した。SR1は調査区西側を南北方向に流れる。規模は長さ22.40m、幅20.60m、深さ0.96mを測る。出土遺物は縄文土器、弥生土器、土製品、石製品などが大量に出土した。埋没時期は、弥生時代後期末葉と推定される。

古代～中世遺構面では、掘立柱建物跡1棟、土坑31基、溝1条、柱穴15基を検出した。掘立1は調査区西側で検出した。2間×5間の南北棟で、柱穴の規模は直径0.24～0.30m、深さ0.26～0.48mを測り、平面形態は円形または梢円形である。埋土は灰色土の單一層である。遺物は土師器片と種子が出土しており、時期は11～12世紀前後と考えられる。そのほか特筆すべきものとして、SK15から土師器壺とともに皇朝十二錢の「富壽神寶」3点が出土したほか、石帶（丸輪）が包含層から1点、表探で1点出土している。

小結 今回の調査では、主に弥生時代中期後半～後期末と古代末～近世の遺構と遺物を検出した。弥生時代には、大量の遺物が出土しているにもかかわらず今回の調査区では堅穴式住居が確認されなかったため、集落地の縁辺部の可能性が高いといえるであろう。また古代においては、包含層資料ではあるものの石帶が出土していることは、周辺地で役所に関連する遺構が存在する傍証といえるであろう。（山之内）

松山大学構内遺跡 6次調査地

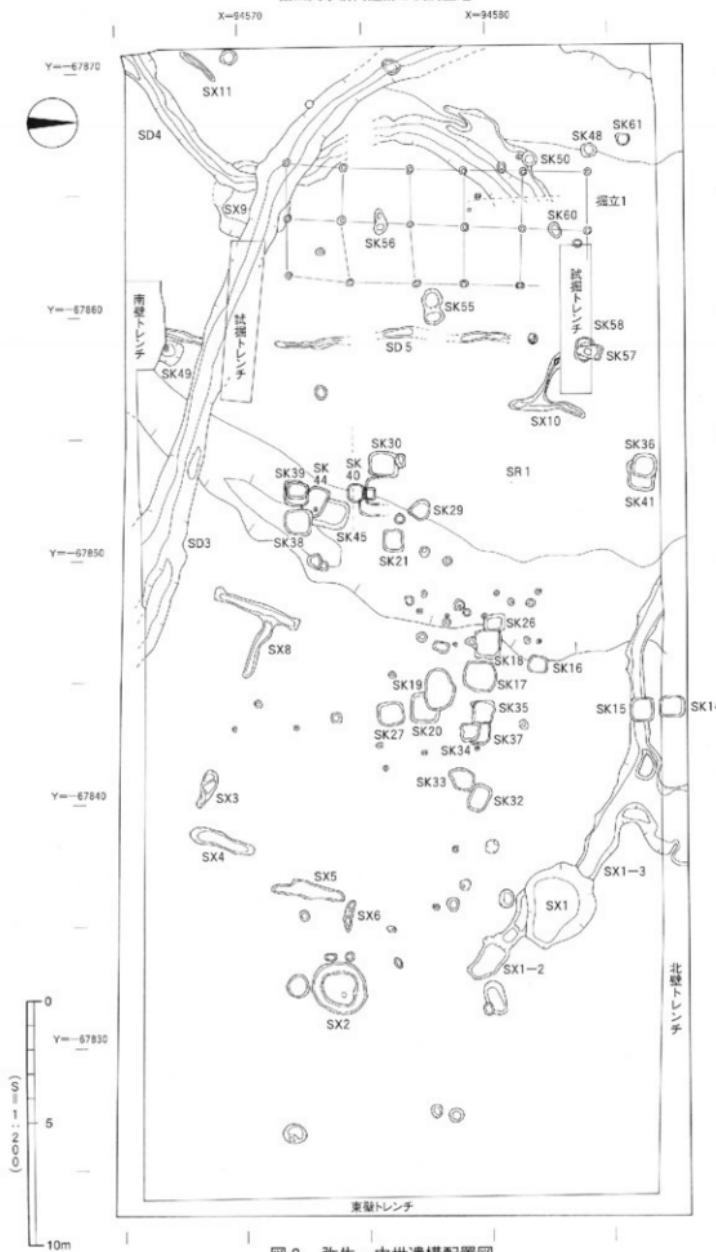


図2 弥生～中世遺構配置図

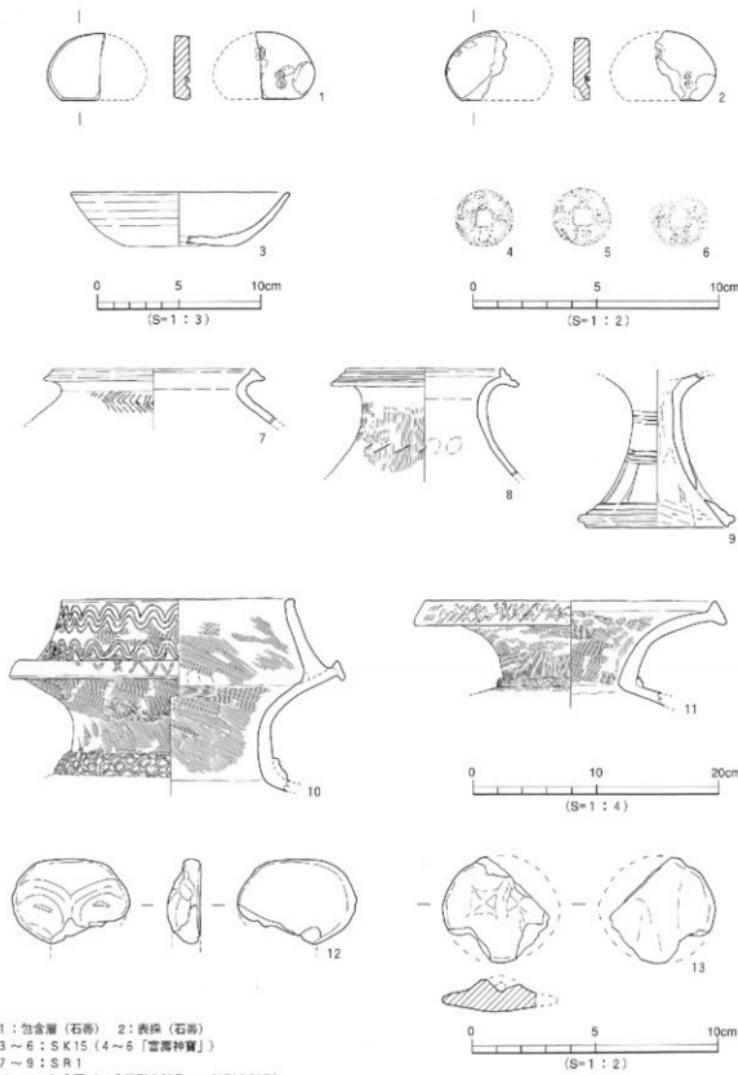


図3 出土遺物実測図



写真1 古代～中世遺構面完掘状況（東より）



写真2 SR1 完掘状況（北より）

どうごゆのまち
道後湯之町遺跡

所在地 松山市道後湯之町875-9外
期間 平成17年6月1日～同年7月29日
面積 193.7m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道道後42号線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。本調査地は松山平野の北東部、丘陵に挟まれた谷部の標高39.2mに立地し、調査以前はホテル、飲食店、駐車場に利用されていた。周辺では、湯築城址、湯之町廃寺、道後鷺谷遺跡、道後冠山遺跡、道後姫塚遺跡など縄文時代晚期から中世までの遺跡が数多く存在している。また、西側には文京遺跡、松山大学構内遺跡があり、調査地一帯は道後城北遺跡群と称される周知の遺跡地帯である。

遺構・遺物 調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成上、第Ⅱ層耕作上、第Ⅲ層灰褐色土、第Ⅳ層緑灰色土、第Ⅴ層黄褐色土である。第Ⅰ層は近現代の造成に伴う客土で、地表下0.6～1.9mまで開発が行われている。第Ⅰ-1層真砂土、コンクリート、アスファルト、炭、第Ⅰ-2層バラス、第Ⅰ-3層真砂土（黄褐色土混入）、第Ⅰ-4層コンクリート基礎、第Ⅰ-5層黄褐色土、黒褐色土、バラス、第Ⅰ-6層黒褐色土、灰色砂、黄褐色土に分層される。第Ⅱ層は水田耕作に伴う客土で1区、2区に堆積する。第Ⅱ-1層暗青灰色土（層厚10～20cm）、第Ⅱ-2層青灰色土（層厚10～30cm）に分層される。第Ⅲ層は灰褐色土（層厚10～30cm）で3B区に堆積する。15～16世紀代の須恵器、土師器、陶磁器が出土する。第Ⅳ層は緑灰色土（層厚20～40cm）で3A区の南西部と3B区に堆積する。15～16世紀代の須恵器、土師器、陶磁器が出土する。第Ⅴ層は黄褐色土で3A区、3B区の東部と1区の北部に堆積する。基盤層の岩盤である。本調査で検出した遺構は石列1基、自然流路2条である。遺物は第Ⅲ、Ⅳ層中から須恵器、土師器、陶磁器、石器が出土した。SR2からは縄文土器（晚期）、弥生土器、須恵器が出土し、SR1からは主に15・16世紀代の土師器、陶磁器が出土した。

小結 今回の調査では、縄文時代から中近世の遺構や遺物を確認した。縄文時代から古代の遺構は検出されなかったが、SR2から縄文時代晚期から古代の遺物が出土した。

SR2の埋土は灰色砂や黒色粘質土が堆積しており水流は少なく澱んだ状態であったと考えられる。中近世の遺構はSR1・2と石列がある。SR1・2は埋土に砂や小礫が含まれることから水流があつたものと考えられ、その後、15～16世紀に流路が埋まり土壤化が進み、調査地周辺部では地面が形成されたものと考えられる。石列はSR1が埋まつた後、構築されており溝の可能性が考えられたが、調査により対面する石列は検出されなかったため、形状や性格は不明である。今回の調査では、湯築城址に関連する遺構は確認されなかった。（相原）



写真1 調査地全景（北西より）

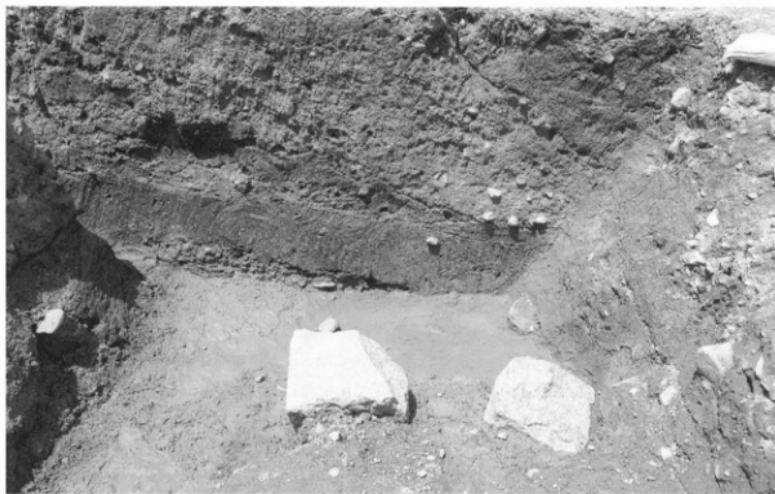


写真2 3A区石列検出状況（東より）

松山城三之丸跡 4次調査地

所在地 松山市堀之内（市営野球場跡地）

期間 平成16年10月1日～平成17年3月31日

平成17年4月25日～同年10月25日

面積 約540m²

担当 岸見泰宏・中山菊乃（文化財課）



図1 調査位置図

経過 本調査は松山市の「城山公園（堀之内地区）整備事業」にともなう確認調査である。松山市では平成13年度より国庫補助を受け、堀之内に遺存する遺構群の範囲・性格・内容を把握することを目的とした「確認調査」を実施している。なお、この調査は松山市教育委員会文化財課が都市整備部公園緑地課の依頼をうけ実施している。

今回の調査では、平成16年度に解体の終了した市営野球場跡地において、①土地区割に関連することの確認であること、②庭球場スタンド及び野球場スタンドの解体終了後、修復が予定されている土壙の構造を解明することの2点を目的とした。

遺物・遺構 【1トレチ】平成16年度三之丸跡3次調査で確認された南北石組溝および馬場の延長部にあたる。現地表面下約60cmまでは現代の造成土層が続き、直下が近世の遺構面であった。東西道路（石組溝1条）、南北石組溝1条（SD02）、東西石組溝1条（SD03）等が確認された。

東西道路は南側に石組側溝（SD01）を持ち、検出長19.8mを測る。一部で細砂を叩き締めた道路面を確認した。SD01の石組は1段ないし2段が残存しており、高さは最大50cmを測る。南側石組には、築石がほとんど残されていなかったが、裏込めに使われたと思われる栗石が出土している。埋土からは完形の桟瓦が多数出土しており、屋敷地となる南側には土塀が建っていたと思われる。

SD02は幅60cm、検出長3.3mを測る。東側石組は根石のみが残存しており、築石は最大でも15cm角程度と小振りであった。西側石組は幅30cm程度、高さ15cm程度の築石で構築されており、面を若干西側に傾斜させている。

SD03はSD02の西側で確認されたもので、検出長は8mを測る。北側にのみ石組が残存していた。溝内部には多量の瓦が堆積しており、これを除去すると石組が検出された。北側石組は30～40cm角程度の築石で構築されており、1段のみが残存していた。

東西道路の内部では、少なくとも12基以上の土坑が確認された。すべて廐棄土坑と考えられるが、特筆すべき2基について取り上げる。SK01は、東西7.5m南北2.5m深さ55cmを測る。埋土には大量の瓦と焦土・炭が含まれ、瓦の総量は土よりも多い。瓦のほとんどは表面に雲母を大量に含むことから、19世紀以降のものと考えられる。SK02は東西2.3m南北1.3m深さ57cmを測る。埋土上層は砂質土と細砂が同心円弧状に堆積しており遺物はほとんど含まれていなかったが、下層は炭、遺物、食器遺体を多量に含む黒色土であった。下層からは、焜炉、焰烙、椀などと共に多量のカワラケが出土しており、「一」「五」等墨書きを持つものも多数含まれていた。また、高台内に「与州松山」銘を持つ端反り口縁の鉢が出土しており、これは19世紀に東温市西岡窯で生産されたものと考えられる。

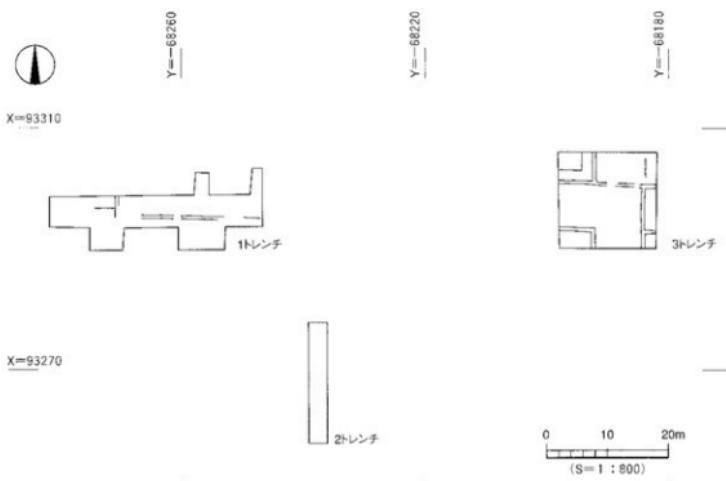


図2 トレンチ配置図

【2トレンチ】 野球場外野中央部に南北に設定した。今回の調査目的である土地区画に関する遺構が確認されなかったため、遺構検出と区画化に留め調査を終了した。溝、上坑等が検出された。

【3トレンチ】 三之丸跡3次調査で確認された南北道路と1トレンチで確認された東西道路の延長部にあたる。現地表下約60cmまで近現代のかく乱が及んでおり、直下が江戸期の遺構面である。東西道路（石組側溝2条）、南北道路（石組溝2条）、貯水池（SX01）等が確認された。

東西道路は検出長15.5m、幅7.5mを測り、南北に石組側溝（SD01・SD02）を持つ。交差点西部で粒子の細かい淡黄色砂層の広がりを確認しており、これが道路面と考えられる。北側側溝であるSD01は、幅50cm～60cm、深さ40cmを測る。北側の石組は、残存状況が悪く築石は一部しか残されていない。南側石組も北側と同様残存状況が悪く、築石はほとんど残存していなかった。残存している築石は北面よりも小振りで、やや乱雑に組まれている。南側側溝となるSD02は、道路交差部を横断しておらず、南北道路東側と西側に向う部分に分かれている。SD02東側は検出長1.6m、幅60cm、深さ40cmを測る。南北共に残存状況は悪く、築石はほとんど残されていなかった。SD02西側については、検出長5.9m、幅60cm、深さ70cmを測る。北面は幅30～50cm、高さ20～40cmの大型の石と、幅・高さ共に20cm程度の小振りな石の2種で構築されており、石組の高さは40cm程度である。南面は、築石が3石しか残されていなかった。

南北道路は、検出長15.5m、幅7.5mを測り、東西に石組側溝を持つ。西側側溝となるSD03は、東西道路を横断しておらず、南北に分かれている。SD03北側は1段のみ残されていた。SD03南側は検出長3.2m、幅60cm、深さ50cmを測る。築石は東西面合わせて4石しか残されていない。東側側溝となるSD04は、東西道路を横断しているが、SD01との交差部北側には築石が置かれ、塞がれている。検出長14.8m、幅50cmを測り、深さは最大60cmである。SD04東側石組は、幅30～55cm、高さ20～40cmの築石が1段組まれた箇所と幅・高さ10～20cm程度の小さな石で2～3段組まれた

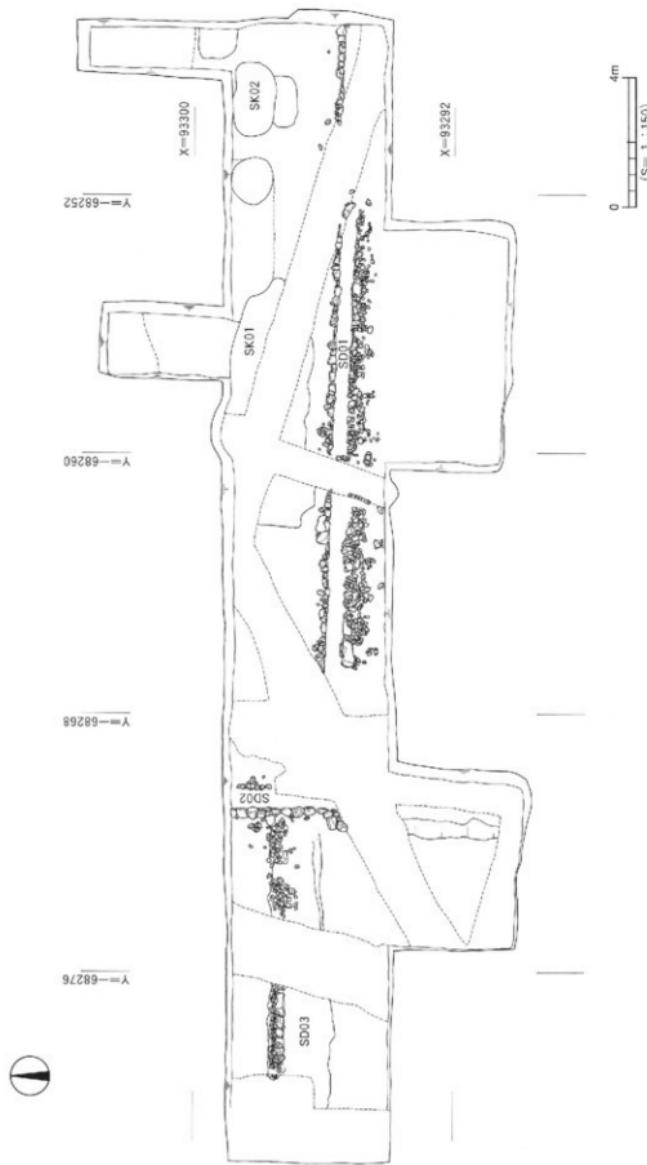


図 3 1 トレンチ遺構実測図



図4 3トレンチ遺構実測図

(S=1:150)

箇所が存在する。西側石組も同様の特徴を持っている。

貯水池は交差点北西の屋敷地内で確認した。東西3.8m、南北2.8mを検出した。岸壁部分は幅・高さ40cm程度の自然石で組まれておらず、道路と並行して直角に折れている。池内部からは、岸壁に使用されているものと同様の石が大量に出土しており、その分布は岸壁に近づくほど多くなる。埋土は橙色粘土一層のみであり、短時間で埋め立てられたことがわかる。直下には暗灰色粘土が堆積していたが、この粘土層から貯水池と推定した。

1トレンチと同様3トレンチでも道路内で多数の土坑が検出された。いずれも19世紀半ばの遺物を包含しており、多量の炭を含む。このことから全てが廃棄土坑と考えられる。

まとめ 目的①については、東西道路と南北道路が確認された。これまでの調査成果とあわせ、徐々に三之丸の区割りが明らかになりつつある。今回確認された南北道路はN-0°37'40"-Eを取り、東西道路はN-92°03'16"-Eであることから、東西方向の方が真北からのブレが大きい。今後の調査の中で、さらに検証を進めたい。目的②については、スタンド建設に伴うかく乱が激しく、関連する遺構は見つかなかった。次に、1トレンチSK01やSD03の遺物出土状況は建物撤去時に生じた瓦を一括廃棄したと想像できる。出土した遺物はすべて19世紀半ばまでと比定できるが、明治初期に江戸期の建物を撤去した際の廃棄土坑である可能性がある。（岸見）



写真1 調査地全景（東より）

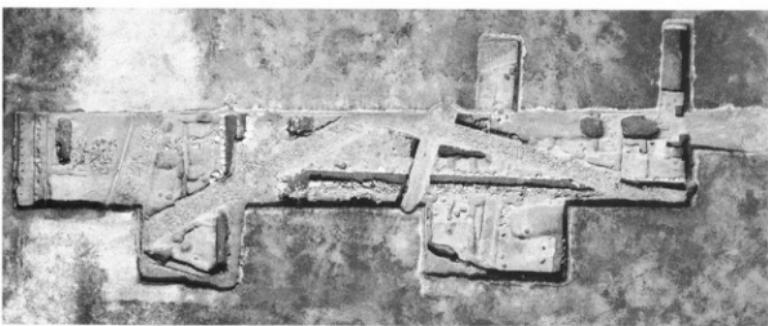


写真2 1トレンチ完掘状況（南より）



写真3 3トレンチ完掘状況（南より）



写真4 1トレンチSD01遺物出土状況（南東より）

松山城三之丸跡 5次調査地

所在地 松山市堀之内（弓道場跡地）
 期 間 平成18年1月4日～同年3月29日
 面 積 約185m²
 担 当 岸見泰宏・大庭美鈴・山中菊乃（文化財課）



図1 調査位置図

経過 本調査は、4次調査と同様、松山市の「城山公園（堀之内地区）整備事業」にともなう確認調査である。今回の調査では、①土地区割に関する遺構を確認すること、②庭球場スタンド及び野球場スタンドの解体終了後、修復が予定されている土壘の構造を解明することの2点を目的とした。また、本調査地は絵図資料により貯水池が存在していたことが想定されたため、貯水池の構造解明についても主たる目的としている。

遺物・遺構 【貯水池】本調査で確認された貯水池の東岸は石積によって護岸されている。その総延長は44mと考えられる。3トレンチを除くすべての検出箇所で石積の下部に直径10～15cmの桐木が確認されており、築石も幅50cm高さ20cm程度で揃っていることや、積み方に顕著な差が見られないことから、同一構造物でかつ同時期に構築された可能性が高い。一方、3トレンチで確認された南北方向の石積は、他の検出箇所の桐木を結んだ軸線に対し、67cm東に偏っており、積み方についても比較的築石同士に隙間が開いているため、構築時期が異なる可能性や異なる遺構である可能性もある。桐木を結んだ軸線は、N-1°28'~E方向を向いているが、この軸線の延長上には3次調査2トレンチで検出された「杉馬場」の東限（SD01）があり、4次調査1トレンチSD02の中軸もこの軸線と合致する。文久期の絵図に描かれた貯水池と杉馬場は同じ幅であり、絵図がある程度正確に描かれていることが実証された。北岸は、東岸と異なり石積ではなく、木組による地業で護岸されていた。構造は池内に面する部分に木杭を打って、池の外側に直径8cm程度の丸木を積み上げて土留めをしている。さらに土留めの北側にはジグザグに杭を打ち、土の流出を防いでいる。地業に利用された杭の直径は6cm程度であった。文久期の絵図では、貯水池北岸は緑色で描かれており、道路部分とは異なる。貯水池北側には杉馬場が存在するが、その境界は緑地あるいは土塁等で区切られていたため、護岸は石積ではなく土留めであったのだろう。また、3トレンチでは、貯水池内の水を南堀へ排水するための排水口を2基確認した。排水口1は現在も南堀へ貫通しており、排水機能を有している。このため、外側はコンクリートによって開われており、5本の土管が接続されていた。排水口2については土壘を貫通しておらず、現代のかく乱土と石によって塞がれた状態で検出された。排水口2の内部は矢穴を持つ築石で構築されており、レーザー測距儀で計測したところ約27mまで南に続いていることが確認された。排水口1から南堀までの距離は約28mであることから、排水口2についても江戸期には南堀へと通じていたと考えられる。

【土壘】2トレンチでは、現況の土壘地表下約30cmから1.5m程度の厚みで版築土が検出された。版築土内からは、19世紀中頃までの遺物が多数出土しており、幕末以降に土壘が盛り直されたことが

松山城三之丸跡 5 次調査地

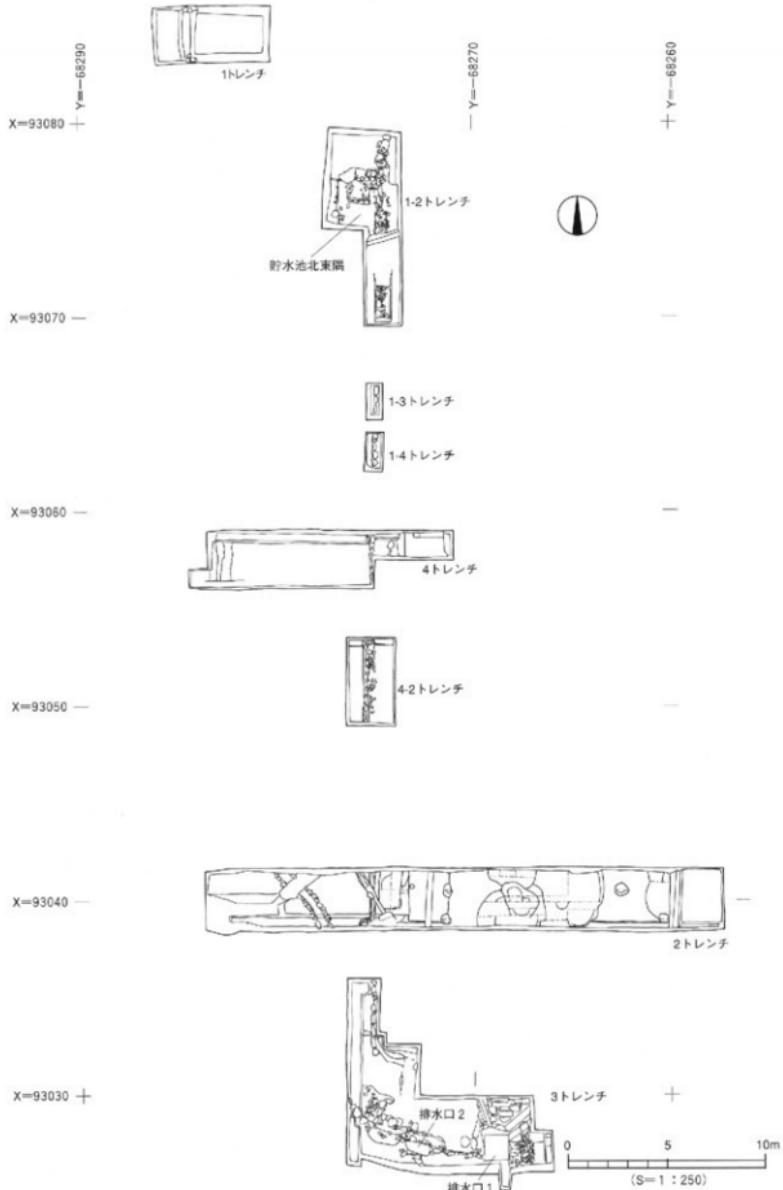


図2 トレンチ配置図

わかった。この層の直下には灰色粘土が水平に堆積しており、これは貯水池の沈殿土層と考えられる。このことから、貯水池埋没以後、土壌が東側に延長されたことがわかった。これを二次土壌とする。

二次土壌の西端下層からは、非常にもりい砂礫層が東下がりの斜め方向に堆積していることが確認された。この砂礫層の下層には非常に粒子が細かく堅く締まった灰色シルト層が堆積している。このシルト層が築造当初の土壌（一次土壌）の構築土と考えられる。砂礫層は、この一次土壌の崩落土であろう。2トレンチでは、二次土壌の堆積は確認されず、垂直に削平された一次土壌の端部が確認された。2、4トレンチ双方ともに土壌端部は削平されており、土留め等の地業は確認されなかつものの、貯水池の埋土である灰色粘土は土壌に近づくほど薄くなっている。砂粒の混入が多くなる。ここから、地業が成されていなかった可能性も考えられる。

まとめ 前述の通り、今回確認された貯水池東岸から杉馬場東の区画溝の軸線がN-1°28''-Eを探ることが明らかになった。三之丸3・4次調査で確認された、南北道路がN-0°37'40''-Eを探り、東西道路がN-92°03'16''-Eを探る。このようにこれまでに明らかになった区割り軸は不統一で、いずれも真北とはならない。こうしたブレは、基準とした遺構や調査区がほぼ全てかく乱を受けていることや、検出された遺構が19世紀に残存していたものであり、構築年代を明確に出来ないことなどの問題に起因している可能性も捨てきれないが、今後他の地区の調査を続ける中で統一された区割り基準を明確にしたい。（岸見）



写真1 調査地全景（北より）



写真2 2トレンチ完掘状況（北東より）



写真3
1-2トレンチ貯水池
北東隅（南西より）



写真4
3トレンチ完掘状況
(北東より)



写真5
4トレンチ貯水池東岸
検出状況(西より)

松山城櫓門跡1・2・3次調査地

所在地	松山市丸之内
期 間	1次：平成17年2月21日～同年3月30日
	2次：平成17年4月25日～同年7月27日
	3次：平成17年10月2日～同年12月27日
面 積	1次：約220m ² 、2次：約120m ²
	3次：約135m ²
担 当	楠寛輝・山中菊之（文化財課）



図1 調査位置図

経過 松山城は、平成13年3月24日に発生した芸予地震や同年6月の大雨により大きな被害を受けた。そのため、松山市では被害の状況把握に努めるとともに、「史跡松山城跡災害復旧検討委員会（現在は「史跡松山城跡整備検討委員会」に改称）」を立ち上げ、その復旧に向けた整備方針を検討し、被害の著しかった二之丸南石垣、翼櫓跡石垣及び櫓門跡北石垣の復旧、並びに本丸周辺で複数発生した陥没の復旧を行うこと等を決めた。それを受け、平成13年度より国庫補助を受けて二之丸南石垣及び翼櫓跡石垣の復旧工事を4ヶ年かけて実施したが、引き続き平成17年度より2ヶ年をかけて櫓門跡北石垣の復旧工事を実施することに伴い、事前の埋蔵文化財確認調査（1次：平成16年度、2次：平成17年度）と解体に伴う確認調査（3次：平成17年度）を実施した。

櫓門は、大手登城道を黒門から進み、次の梅門を抜けた先に存在する。建物等は残っていないが、北側には上下2段、南側には1段の石垣が現存しており、絵図や明治初期に撮影された写真から櫓門であったことが分かっている。規模も松山城の中で最大のものであり、櫓門が大手登城道と二之丸とを合わせて防御する、非常に重要なものであったことを示している。今まで発掘調査がなされたことはなく、また櫓門の廃絶時期についてははっきりしないが、前述の明治初期の写真が現存していることから、この頃まで存在していたことは確かである。

遺構・遺物 1次調査：解体工事により部分的に破壊される北石垣上面における櫓の礎石及び東石等の確認を目的とした平面的な調査と、復旧工事の際の勾配の参考とする目的とした石垣根石部分4ヶ所でのトレンチ調査を実施した。その結果、石垣上面の調査では櫓の礎石や東石をほぼ完全な形で確認し、上段では全面に渡って南北7間半×東西2間半、下段では南端から南北3間×東西2間の櫓が存在していたことを確認した。もちろんこれらの櫓は南の門の上にも続いていたと考えられ、南北はこれ以上の規模を持っていた可能性が高い。櫓の内部と外部で床面の構造が全く異なっていたことも分かった。櫓の内部では礎石や東石の上面やや下のレベルで栗石が面的に確認できる状態だが、外部では同じレベルでも三和土（黄褐色粘質土）が厚く堆積している。櫓内部については水が石垣内部へ浸透する心配がなく、また上に床を張る関係で栗石が露出したままでも問題がない一方、櫓の外部については石段を含め当时屋外で、石垣内部への水の浸透を防ぐとともに、石垣上面を地表面として利用する必要があったため、三和土を張って整地したものと考えられる。なお、礎石や東石の上に堆積している櫓の廃絶時に堆積したと考えられる明黄褐色粘質土やその上の腐葉土には、かなりの瓦が含まれていたが、これらは19世紀のものが中心で、陶磁器についても多少は出土しているが、瓦と同時期あるいはそれ以降の近現代のものが中心であった。また、トレンチ調査では、全てのトレン

チにおいて根石を確認した。調整のための少量の小礫を伴う場合もあるが、基本的には全て地山を根切りして直接根石が据えられていた。櫓門周辺は近現代のかく乱や造成が著しく、根石の確認された深さはトレーンチによって大きく異なり、現在の地表面から75~155cm下であった。

2次調査：1次調査を受けて、櫓門の全容把握を目的として、残る南石垣上面、階段推定地、及び門部分についてトレーンチ調査を実施した。その結果、1次調査とは様相が大きく異なり、近代以降のかく乱が著しく、櫓の礎石または東石と考えうる石材は3石しか確認できなかった。最も南で確認された石材は、石材の上面が平滑で大きさも一般的な東石より大きく、北石垣での調査成果から考えても礎石の可能性があるが、これから東に続く礎石や抜き取りを確認することができず、構の規模を確定するには至らなかった。なお、この石が櫓南壁の礎石と考えた場合の櫓の規模については、北の門の上も含めて南北8間以上×東西3間半と考えられ、そのまま1次調査で確認された北石垣下段の櫓と繋がっていたものと考えられる。その他の造構については遺物等から考えて全て近現代のもので、一部の上坑は東石の抜き取りの可能性が十分考えられるものの断定は難しい。ただ、近代以降二之丸が病院として機能していたことを具体的に示すアンプル等の医療廃棄物がまとまって見つかった土坑や、石垣東側の現代の大規模な石垣の改修痕跡（石垣改修痕跡1）は、松山城の近現代の歴史を考える上で興味深い。なお、この石垣改修痕跡1に入っている裏込は割石が主体であり、西側で見られる江戸期の裏込が拳大の円礎（河床礎）が主体であることは対照的であった。なお階段推定地及び門部分のトレーンチ調査では、近現代のかく乱が著しく、それらの痕跡を確認することはできなかった。

3次調査：石垣復旧工事を実施するに当たり、積み上げのための基礎データとして、その内部構造や孕みの原因を把握することを目的に、解体と並行して確認調査を実施した。その結果、石材については、石材同士の接し方が非常に悪く、詰石も化粧として加えられているものがほとんどであった。その控についても全て栗石で介石等はほとんどなかった。石材を据えた後に栗石を敷き詰め、それらの上に次の石材を据えているわけであり、施工をたいへん急いでいたことが分かる。また、孕みの大きい部分の裏込には、水と一緒に流されてきた大量の土砂が堆積していた。石垣内部は、しっかりした地山は最下部だけで、その上に地山の代替としての強度の低い砂岩角礫層（城山の地山に包含）があり、それより上は全て栗石であった。これら調査成果から、地震が致命傷を与えたのは事実だとしても、石垣全体について施工が悪かったところに、石垣上面に存在した櫓が明治以降に撤去され、雨水が石垣内に流入するようになり、石垣内部から外に向けて繰り返し大きな圧力がかかったことが、石垣の孕みの根本的な原因であることが明らかとなった。なお、この施工の悪さは突貫（＝手抜き）工事とも換言できるのかもしれないが、近世城郭の多くは基本的に突貫工事であると言っても過言ではなく、当時は最も多くの近世城郭が築かれた時期であることも考慮すると、その原因が熟練した技術者が不足し、経験の浅い技術者が工事を指揮したことによる可能性も考慮する必要がある。また、北石垣の南東隅角部については、絵図や右積み技法から後世の拡幅の可能性が指摘されていたが、地山東側の砂岩角礫層の存在によりそれが確実となった。遺物は、ノミが1点出土したことが注目されるものの、全体としては非常に少なく、石垣の構築や改修の年代を示すものはなかった。

小結 以上のよう、これら3回の確認調査を通じ、不明な点の多かった櫓門の具体像に迫る重要な手掛かりを得るとともに、石垣の孕みの原因を把握することもできた。今後は、これらの成果を生かし、「文化財の保存」と「安全の確保」の両立した石垣の積み上げを行うことが課題である。（楠）

松山城櫓門跡 1・2・3次調査地

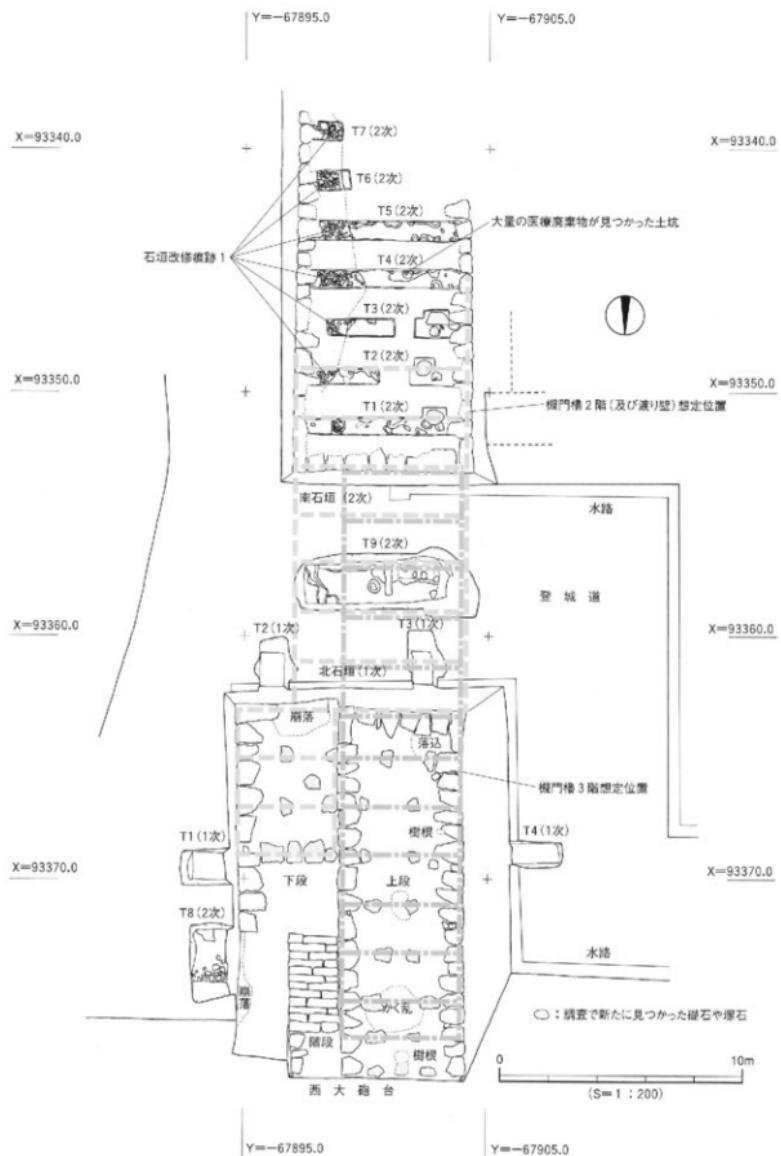


図2 遺構配置図



写真1 完掘状況
(2次調査、北より)



写真2 解体終了状況 (3次調査、南より)

まつやまじょうほんまる と じょう
松山城本丸登城 4 次調査地

所在地 松山市丸之内
期間 平成17年12月5日～同年12月18日
面積 約50m²
担当 武田尊子（文化財課）



図1 調査位置図

経過 松山城揚木戸門跡から本丸跡の登城道は、全面コンクリート舗装により史跡の景観が阻害され、その舗装も至るところに亀裂が生じて通行に支障が出ていた。今回登城道の整備工事に伴い、城として機能していた時期の登城道の道幅や排水施設の存在を把握するため確認調査を実施した。調査は、工事範囲にトレンチを6本（①～⑥トレンチ）設定した（図2）。

遺構・遺物 ①～⑥トレンチのうち、複数のトレンチから共通する斑状の土層を2層確認した。1層は、明黄褐色の砂質シルト層で、白色、黒色、黄褐色の斑と少量の砂岩小礫を含み、もう1層は、にぶい黄橙色の砂質シルト層で黄橙色の斑がある。この2層は上下層で、⑤トレンチの土層断面では、にぶい黄橙色の砂質シルト層を補うように明黄褐色の砂質シルト層が堆積し、この2層によって平坦面が形成されていた。のことから、この2層が登城道の造成土層と考える。

そのほか、①トレンチでは、造成土層は検出できなかったものの、トレンチの南北端で成形された岩盤を検出した。南端は岩盤をU字に掘り、その岸に礫をのせた溝を検出した。現在、これらの岸の礫は揚木戸門跡から大手門跡間の道端に並ぶ石列であるため、この範囲には道の南側に側溝があったことが明らかになった。石垣の間に位置するトレンチ北端では、岩盤を石垣方向に向かって削り込み、その部分に拳大の礫を充填する。礫間には粗い砂質土が堆積する。この遺構は、石垣からの雨水を排水する機能と、石垣を押さえる機能をもつと考える。

出土遺物は、戦後の改修時の土層から出土しており、おおよそが平瓦片である。また、僅かだが④トレンチより染付片等も出土している。

小結 今回調査した6本のトレンチのうち、往時の道幅、側溝の確認ができたのは、揚木戸門跡から筒井門までに設定した①、②、③トレンチである。筒井門から本丸跡までに設定した④、⑤、⑥トレンチに関しては造成土層を検出したものの、現在の側溝や改修によって攪乱され、道幅や側溝の有無を十分に把握できなかった。（武田）

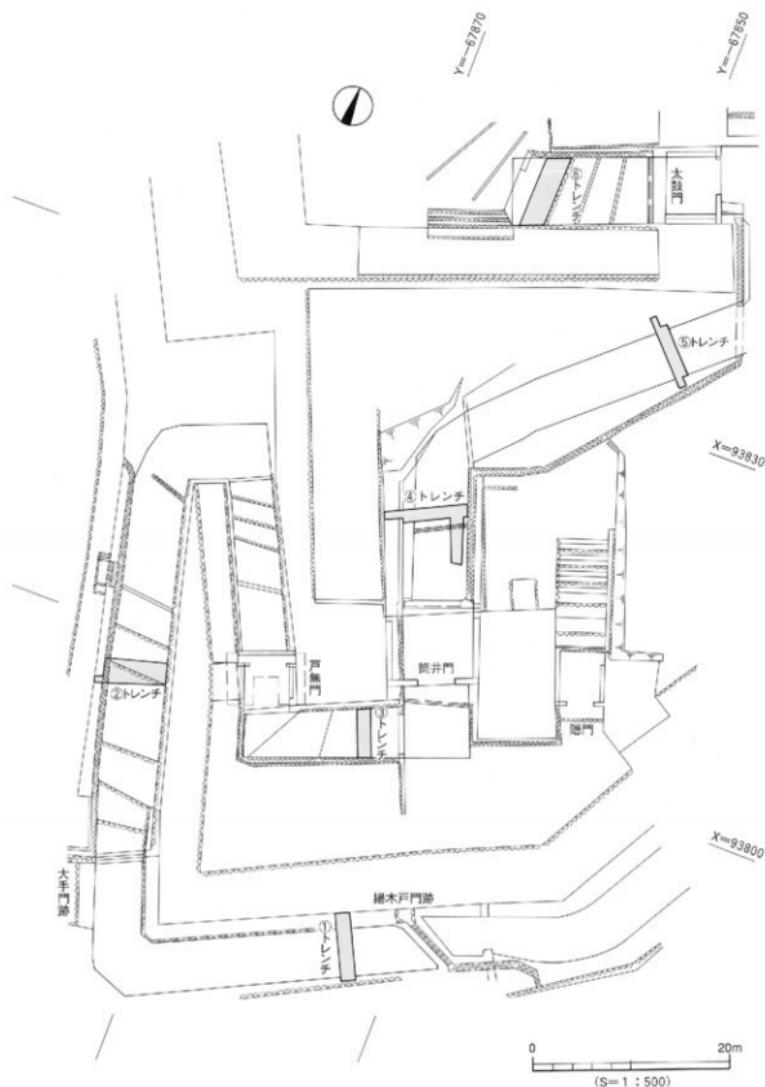


図2 調査区配置図

しろうち
城の内古墳群2・4・5号墳

所在地 松山市丸之内
期間 平成17年4月25日～同年9月30日
面積 約80m²
担当 武田尊子（文化財課）



図1 調査位置図

経過 この調査は史跡松山城跡保存整備事業のうち、県庁裏登城道の整備工事に伴い国庫補助を受けて実施した。調査着手前に整備工事の範囲を踏査した結果、道の斜面数箇所にて古墳の石室らしき石列を確認した。そこで、既に登城道に向かって石室が開口している2号墳と石列を対象に調査を実施した。すると、2号墳のほかに古墳が2基存在することが明らかになった。今回明らかになったものを、城の内古墳群のなかで「4号墳」、「5号墳」と呼ぶ（図2、図3）。

遺構・遺物 2号墳の石室は、主軸をN=67°-Wにとり、現状は、長軸1.5m、短軸0.65m、高さ約0.8mである。木根によって石室全体が南西に傾き、天井部の礫はおおよそ原位置を留めていない。天井部には、長さ約1mの結晶片岩や柱状の流紋岩等を石室に架け、その石材間には0.4～0.6m程度の川原石を充填する。壁体はおもに角のとれた川原石を用い、基底部には礫の長側面を並べ、それより上は小口積みで7段程度積んでいる。礫の幅は0.1～0.4m程度である。床面には、貼床層と石室が木根に破壊された際の崩落土層の2層が堆積している。床面直上に礫等は残っていない。2号墳の墳丘には、石室を起点に2本のトレーナーを設定した。2本とも樹木の攪乱により墳裾のラインは検出できなかったが、墳丘を切り、登り石垣に並行する排水溝を境に、石室側と石垣側で岩盤の高さや土層がまったく異なることから、排水溝付近に墳裾があると判断した。そうすると、2号墳は直径約6.5mの円墳に復元できる。石室は墳丘に墓壙を掘り込み構築している。遺物は石室内の崩落土層から出土した。須恵器（提瓶、短頸壺、短頸壺の蓋、坏蓋）各1点、刀子1点、ガラス小玉約20点、碧玉製管玉4点である。出土した須恵器の時期はおおよそ6世紀後半である。

4号墳は石室を登城道に切られ、道の斜面に石室の横断面が露出していた。墳丘と考えられる地形の高まりは残っていない。石室は、主軸をN=39°-Wにとり、現状は長軸2.5m、短軸1.1m、高さ約1.2mである。壁体は主に砂岩の角礫を用い、基底には幅約0.3～0.6mの礫の長側面を並べ、それより上は幅約0.1～0.3mの礫を小口積みする。石室の幅（短軸）や壁体の積み方から横穴式石室と考える。石室内の崩落土は5層に分かれる。床面である岩盤上に礫等は残っていない。石室の検出面から上位は、中世の遺物を含む土層に切られ、石室天井部や墳丘は残っていない。墓壙は岩盤を掘り込んで構築している。出土遺物は、石室内の崩落土層から須恵器（台付鉢、坏身）、土師質上器（皿）などの完形品が各1点、鉄釘約36点が出土した。須恵器の時期は7世紀前半、鉄釘は形態から近世以降のものと考える。

5号墳は木根の下にあった石室側壁の一部が登城道の斜面に露出していた。また、斜面には円墳と考えられる地形の高まりが残っていた。石室は、主軸をN=95°-Wにとり、現状は長軸2.35m、短軸

城の内古墳群2・4・5号墳

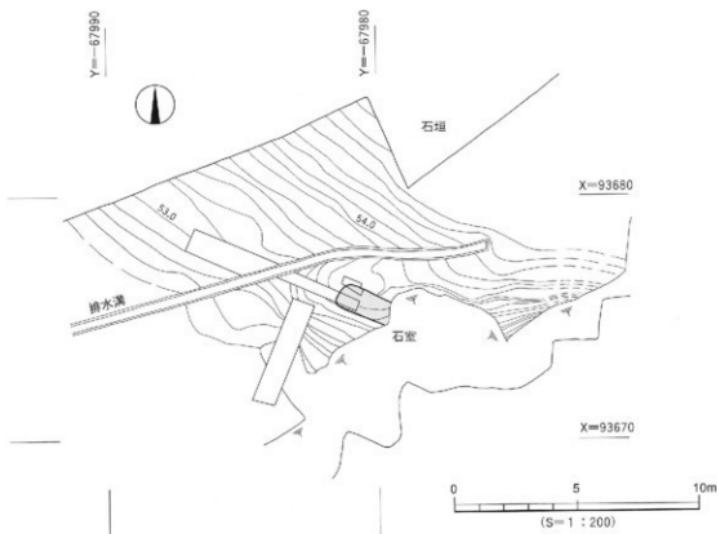


図2 2号墳石室位置図

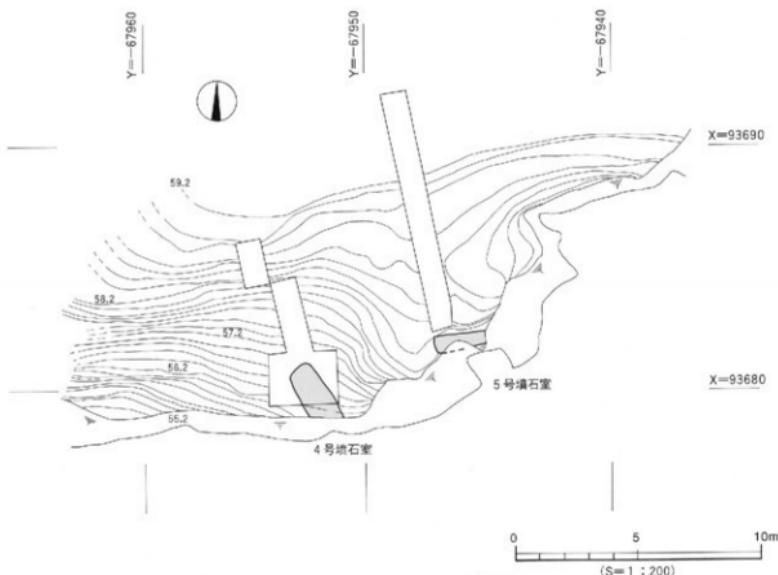


図3 4号墳・5号墳石室位置図

0.62m、高さ0.56mである。石室の形態は不明である。天井部は残っていない。壁体は角のとれた約0.1~0.3m大の川原石をランダムに積む。石室は、墳丘を造る過程のなかで構築されている。床面には棺台と思われる礎が4つ残存する。墳丘は、トレンチの土層観察から墳丘の土層を確認したものとの、周溝等の遺構は確認できなかった。土層から5号墳は直径約11.5mの円墳と考える。出土遺物は、石室の奥壁の床面直上から完形の須恵器（広口壺、短頸壺）各1点が出土した。それらの須恵器の時期は6世紀前半と考える。

小 結 今回の調査では、県府裏登城道斜面におおよそ6~7世紀にかけての3基の古墳が存在することを明らかにできた。当初これらの古墳は同時期もしくは近い時期に営まれたのではないかと予想していたが、出土遺物からみると6世紀前半、後半、7世紀前半とそれぞれ時期が異なっており、およそ時期的な重なりがない。

石室の形態は3基とも全体形が残っておらず、特に2、5号墳の石室は横穴式石室か竪穴式石室かを断定できない。しかし、2、5号墳は石室短軸が0.65m程度で、人の肩幅が0.4m前後であることを考えると、棺の幅とほぼ同サイズの窮屈な石室であり、また出土須恵器が年代的にまとまっていることから、追葬がおこなわれたとは考えにくい。今後さらに検討したい。（武田）



写真1 2号墳石室検出状況（南東より）



写真2 4号墳石室完掘状況（南東より）



写真3 5号墳石室内遺物出土状況（東より）

松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査

所在地 松山市丸之内

期間 平成16年11月18日～同年12月22日

面積 40m²

担当 楠寛輝・山中菊之（文化財課）



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山城東雲口登城道の整備工事に伴う埋蔵文化財試掘調査である。現在の東雲口登城道は、東側山裾に存在する東雲神社を登り口として中腹の長者ヶ平へと通じているが、当初の登り口は現在のロープウェイ駅舎付近と想定されている。これは、ロープウェイの建設により登城道の一部が通行できなくなったことに伴い、一部を東雲神社所有地へと付け替えられたためと考えられる。なお、整備工事は登城道全体に対して行われるが、本調査はこのうち東雲神社所有地のみを対象としている。調査地の標高は46～56m程度で、調査地には、絵図等から東雲神社が幕末にこの地に建設された際に築かれた土壙の存在が想定され、事前の踏査でも土壙基礎の石組がわずかに露出していたことから、これらを踏まえた9本のトレチを設定し試掘調査を実施した。

遺構・遺物 基本層位は、第Ⅰ層：腐葉土や現代の整地層、第Ⅱ層：真砂土、第Ⅲ層：灰黄色粘質土（近現代の造成土）、第Ⅳ層：明黄褐色粘質土（近世の造成土）で、石組の上に明黄褐色粘質土の土壙が部分的に遺存していた。土壙基礎の石組は、現存する東雲神社の土壙を北端とし、部分的に後世のかく乱等で破壊されているものの、南北約36m、東西68m以上を確認した。石質は松山城内の石垣等と同様に花崗岩である。積み方は切込ハギで、たいへん精緻に加工されており、この時代の石積技法の特徴をよく示しているものと考えられる。幅は天端で約50cm、高さは外側：約110cm、内側：約40cmで、その標高は、石組の天端（現況地表面）のように表記すると、西端：約54.5m（約55.6m）、隅角部：約46.3m（46.4m）、北端：約46.7m（46.8m）となっており、西に行くにつれて登城道の付け替えに伴い大規模な造成を行ったことがわかる。南北石組を中心に外側に向けてかなりの孕み出しが見受けられるのも、この造成によるところが大きいと考えられる。また、南北石組の隅角部に近接して、排水口（幅：約30cm、高さ：約22cm〔抉り部 幅：約15cm、深さ：約12cm〕）が1基確認されたが、この排水口に繋がる水路は近現代のかく乱等もあり確認できなかった。遺物は、第Ⅲ層中から、土壙に葺かれ、土壙の廃絶とともに廃棄されたと考えられる大量の瓦が出土した。大方は19世紀のものであり、この土壙が東雲神社の建設に伴い築かれたとする想定とも矛盾しない。

小結 今回の調査では、当初の想定どおり、東雲神社の建設に伴い築かれた土壙基礎の石組が良好な状態で確認された。これにより、当初の東雲神社の社域を確定することができたとともに、そこに使われた石材への精緻な加工等から、藩財政の逼迫した幕末にもかかわらず、藩祖を祀る東雲神社の建設に対して松山藩が並々ならぬ決意を持って取り組んだことが伺える。なお、今回確認された石組は東雲口登城道の整備に伴い地下に保存される。今後はその活用策が課題である。（楠）

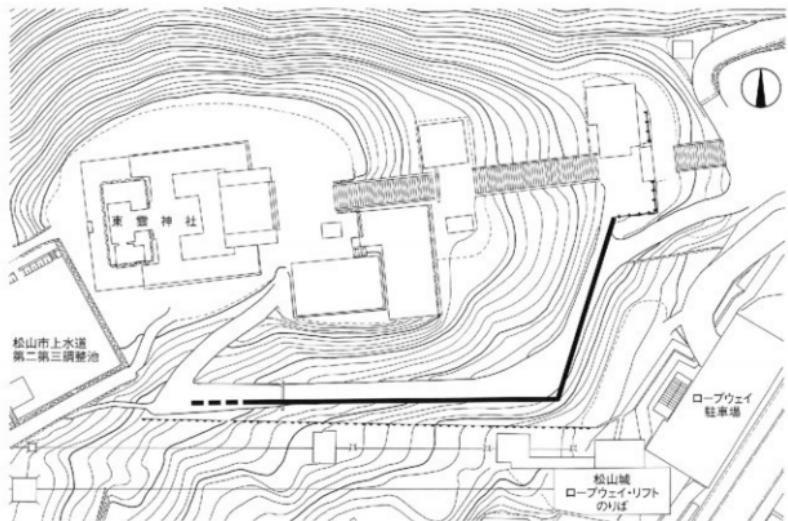


図2 土堀基礎石組検出位置図 ($S = 1 : 1,000$)



写真1 土堀基礎石組検出状況（西より）



写真2 土堀基礎石組隅角部検出状況（南より）

松山城東雲口登城道整備工事に伴う埋蔵文化財確認調査

所在地 松山市丸之内

期間 平成16年8月20日～同年10月15日

面積 約91m²

担当 岸見泰宏（文化財課）



図1 調査位置図

経過 松山城本丸へ登る車両通行可能な管理道は県庁口1本しかなく、災害時における緊急車両の通行や日常の維持管理に支障を来たしている。このため、史跡松山城跡の永年に渡る保存管理を行うため、複数の管理道路の確保は急務と考えられた。平成13年度より策定中の「史跡松山城跡保全管理計画」の中でも東雲口登城道の整備は最優先課題として挙げられており、平成16年度中の完成を目指し整備工事が行われることとなった。このため、工事に先立ち埋蔵文化財の確認調査を実施した。

なお、工事は基本的に盛土施工であるため、施工範囲全面の調査は行わず、土層による遺構面の確認を基本として調査を行った。

調査概要 1～5トレンチについては人力にて掘削し土層を確認した。4トレンチを除く全てのトレンチにおいて近現代の造成土の直下から、弥生土器を含む黒褐色土層が確認された。黒褐色土層には混入物がほとんど含まれず、斜面上方となる道路北側から南側に向けて傾斜して堆積しており、自然堆積と考えられる。弥生土器はいずれも小片であり、近世の遺物は出土しなかった。4トレンチは、調査開始以前より砂岩岩盤が露出しており、検出作業をおこなったが、有意な痕跡は確認されなかった。

6・7トレンチは重機による掘削を行い、6トレンチは登城道から長者ヶ平に向かた傾斜地を断ち割るように設定した。①砂岩碎石による造成土層、②シルト質の造成土層、③弥生土器・須恵器を含む砂岩細粒と橙色土粒が混る黒褐色土層が確認された。①・②については遺物が出土しなかったため、年代決定できない。また、③については混入物が多く見られることから一次堆積とは認定しがたいため、古墳時代以降の造成土層と考えられる。7トレンチは、北側のNHK城山放送所に向かう擁壁を断ち割る形で設定したが、擁壁構築前の表土が確認されたのみで、有意な堆積は確認できなかった。

まとめ 本調査においては、近世の遺構・遺物が全く確認されなかった。現在の東雲口登城道が江戸期のものではない可能性と、江戸期のものがすでに流出、削平されている可能性が挙げられる。絵図によれば、勝山東麓には本丸へと登る登城道が存在していたと考えられるが、現在の東雲口登城道全体において近代以降の削平と改変が激しいことが明らかになったため、現在のものが近世の登城道を反映しているのかを明らかにすることは困難と考えられる。

史跡松山城跡内ではこれまで弥生時代の遺構は確認されていないが、史跡外にあたる東麓の東雲神社遺跡では、弥生時代中期の遺構が確認されている。1～3トレンチで確認された黒褐色土層は、長者ヶ平から南麓に向けた傾斜と平行に堆積しており、長者ヶ平からの流入土と考えてよい。長者ヶ平の平坦地部分にまで弥生時代の遺構分布が広がる可能性が高いと思われる。（岸見）

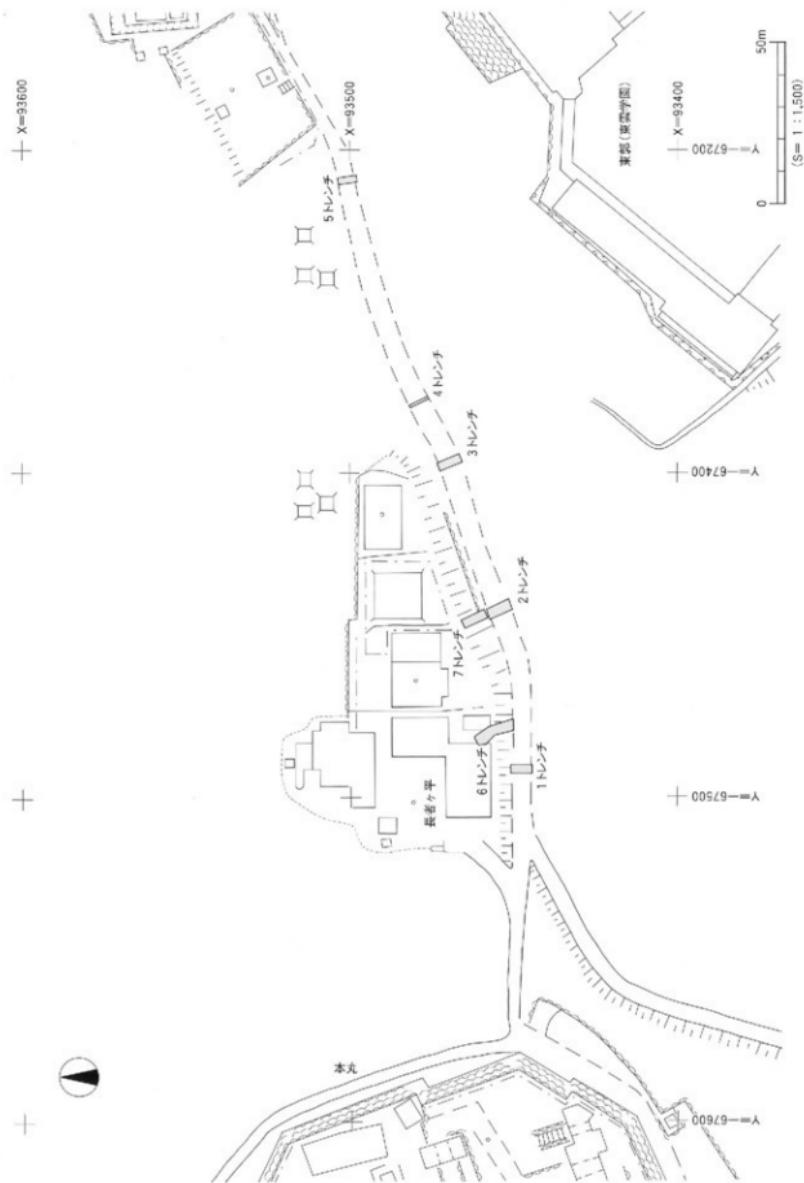


図2 トレンチ配置図

ひがしの
東野古墳群

所在地 松山市東野3丁目乙1番1~5外
期 間 平成17年2月7日~同年7月6日
面 積 740m²
担 当 栗田茂敏・吉岡和哉



図1 調査位置図

経過 調査地は、石手川左岸の開析谷出口付近、標高85m~112mの高龜山系南西支脈の麓に位置しており、同丘陵上には東野古墳群として、東野1号墳~8号墳が登録されている。民間の土砂採取を目的とする確認願に基づいた試掘調査の結果、総面積9,000m²にわたる丘陵南東裾部の2箇所において新たに2基の古墳の検出をみたため、それぞれ9号墳・10号墳として本格調査を実施した。

遺構・遺物 9号墳は、地表面での標高96~92mの、北東から南西へ下る斜面で検出された。墳丘全体にわたり削平されており、調査前の観察では墳丘状の盛り上がりを認めることはできなかった。墳丘盛土も、主体部西から南西の地山が下がる部分に僅かに残存しているのみである。地山整形の痕跡は、主体部北から東方にかけての2~4m離れた斜面に浅い溝状、あるいは傾斜の変換点として円弧状に微妙に残っている。このことから、本来は直径8m前後の円墳であったものと考えられる。主体部は南北方向に長軸をとる横穴式石室である。削平されているため、残りのよい奥壁近辺でも基底石から2段分程度の遺存で、加えて調査区斜面上方から下方へ走る排水暗渠の設営時に、東側壁の大部分が抜かれ、また床面の一部も溝状に破壊されていた。そのほか、石室玄門部より手前や前庭部についても、現代の段カットにより破壊され消滅している。現況での石室規模は、残存長3.5m、幅1.2m、残存高0.5mを測る。残存プランから判断すると、無袖型の横穴式石室と考えられる。床面には、拳大からそれよりもやや大きめの川原石を敷きつめている。礎床下面には地山面に粘土を貼ってレベル調整をしており、特に石室中ほどから玄門部側は地山レベルが低いので20cm以上の貼り床をしている部分がある。墓坑は、石室東側壁、奥壁から西側壁の奥寄りまでは掘削しているが、西側壁の手前部分は地山レベルが本来低いため、墓坑を掘削することなく、地山面に石材を据え、封土を積み上げながらの築造となっている。盛り土のごく一部での残存というのはこの西側壁南西裏の部分にあたる。遺物は、須恵器蓋坏2点のみの出土であった。

10号墳は、標高115~110mの南へ下る斜面、対象地の最も高所に位置する部分で検出された。この調査区においても、調査前の観察では古墳の存在するような墳丘の盛り上がりは認められなかった。竹根による擾乱や果樹園耕作に伴う擾乱と思われる穴が隨所にみられたが、古墳に伴う地山整形の痕跡は認められず、墳形、墳丘規模については不詳である。9号墳同様、横穴式石室を主体部としているが、奥壁の一部とこれに組み合う北東側壁の一部、床面奥壁寄りの一部が残存しているのみであった。石室は確認できる範囲で、残存長3.0mを測る。うち玄室長1.5m、幅1.4mとなっている。奥壁最下段のいわゆる腰石は、扁平な砂岩の割石を立てて用いているのが特徴である。玄室には拳大の川原石を床面施設として敷いていたが、擾乱されており、遺物の出土はみられなかった。南西側壁の遺存が悪く、



写真1 9号墳横穴式石室（南より）



写真2 10号墳横穴式石室（南より）

また基底石の抜き痕も不明確なので、石室のプランは必ずしも明確ではないが、北東側壁の抜き痕や一石残った基底石からみると、羨道部は玄室よりも約20cm幅が狭くなっている。プランは両袖型と考えられるので、軸で折り返せば羨道幅約1.0m程度になる。したがって不明確ながら、全長約3.0m、玄室長1.5m、幅1.4m、羨道長1.5m、幅1.0m程度の石室に復元できよう。

小 結 今回の調査では2基の横穴式石室を主体部とする古墳が調査された。9号墳は直径8m内外の小規模な円墳で、無袖、小型の横穴式石室といった石室形態・規模の特徴、および出土した須恵器坏から7世紀前半から中頃の古墳である。10号墳はこれよりもなお遺存状況が悪く、墳丘形態・規模ともに不詳で、石室の破壊も進んでおり、石室に伴う遺物の出土もないで詳細な築造年代は明らかではない。しかし、平面プランが、 $1.4 \times 1.5\text{m}$ の方形に近い玄室を持つ両袖型の小型石室であると考えられることが、腰石に扁平な板状の石材を立てて用いていることなどから判断すると、これも9号墳同様、終末期の古墳と見て大過なかろう。近隣の東野中畦遺跡で調査された2基も同様の時期の古墳である。周辺の丘陵の麓に近い部分にはこれらのような未知の終末期古墳が相当数存在するものと考えられる。（栗田）

東野森ノ木遺跡3次調査地

所在地 松山市東野1丁目甲43番1外
 期 間 平成17年3月1日～同年4月19日
 面 積 233.98m²
 担 当 加島次郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は松山市道樟味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。対象地は2004（平成16）年6月に松山市都市整備部道路建設課が松山市教育委員会事務局文化財課に対して埋蔵文化財確認調査願いを提出していた箇所に含まれる。さらに、本対象地の北東と南西の隣接地は、平成16年度上半期に東野森ノ木遺跡として本格調査が実施され、弥生時代中・後期、古代、中世の遺構と遺物が確認され、当該期の遺構が対象地に広く分布していることが判明している。これらのことから、本対象地にまで埋蔵文化財は広がっている蓋然性が高いと判断されたことを受けて、本格調査を実施する運びとなった。対象地は松山平野北東部を流れる石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、標高は46mを測り、以前は宅地であった。

遺構・遺物 本調査の基本層位はⅠ層造成土・現耕作土（層厚95～105cm）、Ⅱ層褐色灰色粘質土（層厚20cm）、である。対象地の南と東は現代坑により遺構面を形成するⅡ層上面は削られ、局部的に遺跡が消失していることが調査により判明している。先述した現代坑や地境塀の構築等によって本来は遺存していた可能性が高い遺物包含層は全て消失しており、確認するには至らなかった。

検出遺構には土坑8基、性格不明遺構1基、柱穴17基があり、遺構の多くはⅡ層上面で確認できたものである。なお、Ⅱ層上面の地形測量を実施したところ標高45.2～45.1mを測るが、これは先述したように、現代坑等の構築に伴う土地開発の影響によるものと考えられ、旧地形を復元する上では留意すべきデータとなる。以下では、主要遺構をとりあげてその概要を述べておきたい。

SK108は調査区の西半部中央に位置する古墳時代前期の土坑である。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.66m、現存する深さ0.3mを測る。埋土は鉄分の沈着がみられた黒色土(N 1.5/0)である。遺物には壺と甕があり、いずれも大型の破片が折り重なって出土したものである。壺については、接合した結果、縦半分に復元できることから、本来は完形品を横位に据え置いた状況を復元することも可能である。この場合、本土坑に遺棄する前まで本資料は完形品であったことが前提となろう。この仮定に立脚するならば、少なくとも甕については単なる廃棄ではなく、完形品を横位に据え置く「埋置」の可能性が高いものと推察できる。一方、甕は全体の4/5が遺存することから、その遺存及び出土状況が甕と異なる可能性のあることを指摘しておきたい。

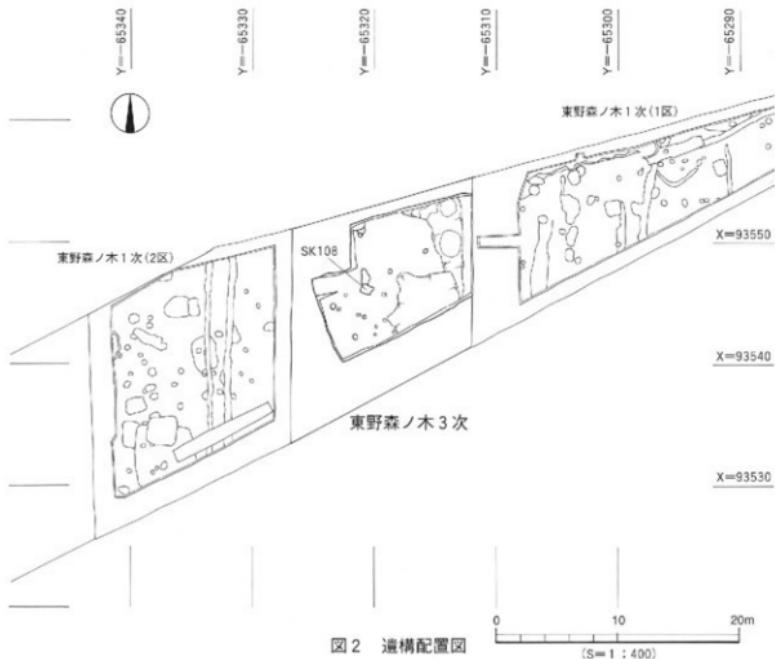
小結 今回の調査では古墳時代前期に構築された土坑を含む生活関連遺構を確認することができた。これにより、当該期には古墳時代前期の遺跡が本調査地に存在していたことが明らかとなった。接合作業を経た遺物の検討を通して、本遺構において土師器を用いて埋置の執行された可能性を指摘した。このことは本遺構の機能と性格を復元する上で重要な指摘のひとつとなる。また、本調査地を



写真1 遺構完掘状況（北東より）



写真2 北壁土層（南西より）



含む周辺、とくに微高地北東部には生活関連遺構がさらに広がっている可能性が考えられる。過去に実施された東野森ノ木遺跡と同遺跡2次調査地からは当該期の竪穴式住居跡が未検出であったことを考え合わせると、少なくとも当該期の居住域は、道路工事対象地のさらに北側に展開していた可能性が高まつたといえよう。これらのことは当時の地形と景観を復元する上で興味深く、現在進行中の室内調査に活用・反映させていく所存である。（加島）

ひがしの もり の さ
東野森ノ木遺跡 4次調査地

所在地 松山市東野1丁目甲55-6外
 期間 平成17年4月19日～同年11月30日
 面積 1,694m²
 担当 加島次郎



図1 調査位置図

経過 本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。対象地は2004(平成16)年6月に松山市都市整備部道路建設課が松山市教育委員会事務局文化財課に対して埋蔵文化財確認調査願いを提出していた箇所に含まれる。さらに、南西の隣接地は、平成16年度に東野森ノ木遺跡2次調査地として本格調査が実施されており、弥生時代中・後期の遺構と遺物が確認され、当該期の遺構が対象地に分布していることが判明している。平成16年6月下旬に本対象地の一部に対して試掘調査を実施したところ、竪穴式住居跡・土坑・柱穴を検出したことから、埋蔵文化財の存在する事が明らかとなり、本格調査を実施する運びとなった。対象地は松山平野北東部を流れる石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、標高は48m前後を測り、以前は宅地ほかであった。なお、本対象地以東は、平成14年度に実施した試掘調査により、旧地形は落ち込み、河川堆積物が厚く堆積し、



図2 調査区測量図



写真 1 IV区遺構検出状況（西より）



写真 2 IV区遺構完掘状況（西より）



写真 3 弥生時代後期後半～終末の住まいSB401
(北より)



写真 4 SB401完掘状況（北東より）



写真 5 VI区遺構検出状況（東より）



写真 6 VI区西壁深掘り土層（北東より）



写真 7 調査作業風景（南東より）

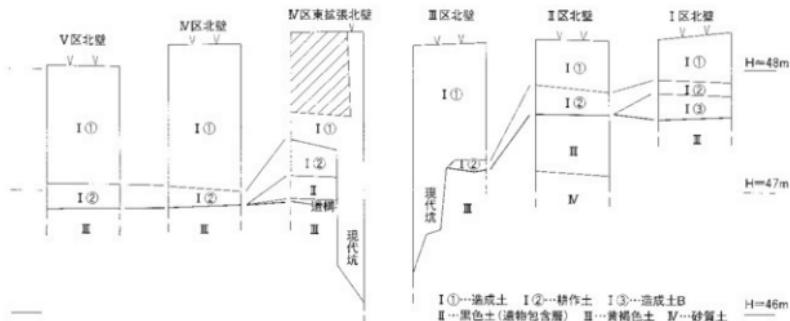


図3 土層柱状模式図 (S=1:40)

安定した遺構面は形成されておらず、埋蔵文化財が存在しないものと判断されている。したがって、本対象地が本格調査対象地の最北東部に該当することから、石手川中流域南岸の微高地における当時の居住域北東限を確認（確定）することに重点をおきながら今回の調査をおこなった。

対象地は便宜上I～VI区に区分し、調査は最北東部のI区から順に開始した。土地所有者移転に伴う書類上の手続き、既存建物・建物基礎等の解体と撤去等々から、本格調査が一時中断することが余儀なくなり、最終的に調査（野外調査）が完了したのは、平成17年11月末のことである。

遺構・遺物 本調査の基本層位はI①層（厚17～50cm）、I②層（厚5～15cm）、I③層（厚10cm）、II層（黒色土）、III層（黄褐色土）である。このうち、II層は弥生土器、土師器、須恵器を含む遺物包含層で、出土遺物より本層は古墳時代後期～古代までに堆積した可能性が高いと考えられる。検出遺構には竪穴式住居跡3棟、溝4条、土坑16基、性格不明9基、柱穴170基があり、これらの遺構はIII層上面にて確認した。なお、本層上面は地表下0.3～0.5mを測る。III層では現代建物の建設に伴って、土地開発が地表下2.5mまで及ぶ箇所が広く認められた。ここでは遺跡構築面をなすIII層上面が大きく削られており、遺跡は消失していたことが確認されている。以下では、時代別に主要遺構をとりあげてその概要を述べておきたい。

〔縄文時代〕 SK401：対象地中央に設けたIV区の北東寄りに位置する貯藏穴である。土坑の平面形態は不整隅九長方形を指向し、規模は長幅1.5m、短幅1.1m、確認面からの深さは17cmを測る。埋土は粘性に欠けてバサバサした質感の黒色土を基調とする。調査時には僅かな色調の違いから四層に細分可能であった。横断面形態は床面が平坦をなす箱形を呈し、遺物は下層と上層から縄文土器が疊とともに数点出土した。縄文土器には深鉢と浅鉢があり、浅鉢の遺存は良好である。出土遺物と埋土の知見より、本遺構の帰属時期は縄文時代晩期と考えられる。

〔弥生時代〕 SB401：IV区東半部とIV区東拡張に位置する円形に復元される竪穴式住居跡である。規模は復元直径10m、確認面からの深さは48cmを測る。住居内の周縁部には、地山削り出しと貼床により幅1mのいわゆる「ベッド状遺構」が造りつけられる。住居内埋土は四層に大別でき、遺物は埋土下層の③層から出土する傾向がみられた。遺物には弥生土器、疊、管玉、土製品があり、主体は弥生土器で、破片と小片に限られる。接合関係を試みたところ、わずか数点が接合できたに留まり、

完形近くにまで復元できるものはない。このことから、遺物は完形の状態ではなく、破片や碎片の状態で住居内へ投棄されたことが復元できる。IV区東擴張では住居埋土の精査初期時に、完形品の菅玉1点が出土している。この点を積極的に評価して、本住居では廃絶時の遺物投棄過程において、完形品の菅玉を用いた儀礼行為の執行された可能性があることを指摘しておきたい。住居埋土が水平堆積であることを考慮し、儀礼の執行に際して住居は人為的に埋め戻されたものと理解しておきたい。住居の廃絶時期は弥生時代後期後半～終末である。

〔中世〕SK601：対象地南西端に設けたIV区で検出された土坑である。平面形態は隅丸方形状を呈し、規模は一辺0.7m、

深さは20cmを測り、埋土は灰褐色土の单一である。遺物は埋土の中位から羽釜の小片が出土した。
小 結 今回の調査では繩文時代晚期・弥生時代後期後半～終末・中世に構築された生活関連遺構を確認し、対象地には当該期の遺跡、すなわち複合遺跡が広く展開することが明らかとなった。さらにIV区とIV区東拡張では弥生時代後期後半～終末の竪穴式住居跡3棟が検出されたことから、対象地のやや西寄りで弥生時代の居住域の北東限を確定することができた。

さて、この市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は3年に及び、あらたに5遺跡14地点の調査を通じて、3,000を数える生活関連遺構を検出し、出土遺物はコンテナ200箱以上と膨大な量である。この一連の調査により愛媛大学農学部北東側の微高地には情報量豊かな遺跡が数多く存在することが判明した。一帯は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地外に該当することから、包蔵地の見直しを含む早急かつ適切な対応が埋蔵文化財行政に求められることを指摘しておく。（加島）

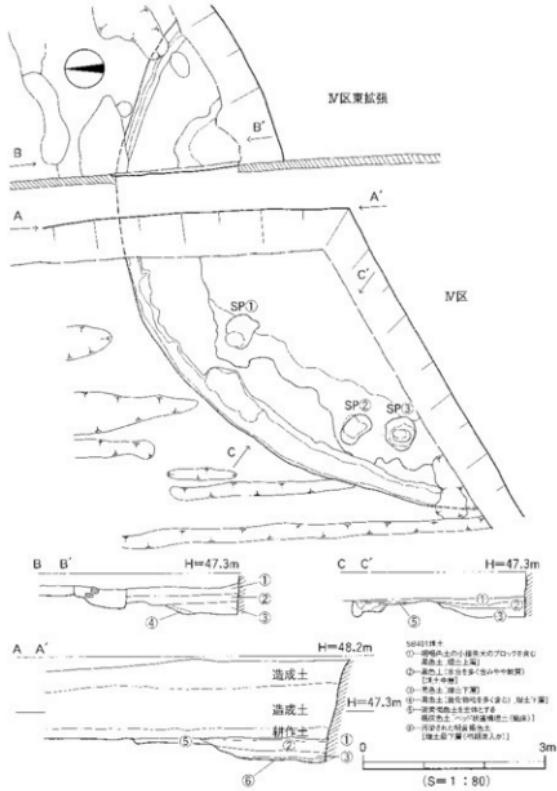


図4 SB401測量図

たるみたかぎ

樽味高木遺跡11次調査地

所在地 松山市樽味2丁目85番6外
期間 平成17年2月1日～同年7月29日
面積 1,278m²
担当 高尾和長・加島次郎



図1 調査地位図

経過 本調査は、松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山平野を西流する石手川中流域の左岸に位置し、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No.81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。試掘調査からは土坑、柱穴などの遺構を検出し、さらに包含層からは遺物が出土したことから、集落関連遺構の広がりと、古環境復元のための基礎データを得ることを主目的として、本格調査を実施した。

遺構・遺物 調査では、4層の土層を確認した。I①層は造成土である。調査区全域で検出した。I②層は灰褐色土（水田耕作土）調査区全域で検出した。II層は黄褐色土（水田床土）調査区全域で検出した。III層は4層に分層できる。III①層は褐灰色土（10YR4/1）、III②層は灰黃褐色土（10YR4/2）、III③層は黒褐色土（7.5YR3/2）、III④は黒褐色土（7.5YR3/2）に赤褐色土（5YR4/6）粒混じり。IV層は赤褐色土（2.5YR4/6）であり調査区全域で検出した。IV層上面が遺構検出面となる。

検出した主な遺構は、竪穴式住居址19棟（SB101～117、201・202）、土坑5基（SK101～104・201）、溝1条（SD201）、性格不明遺構2基（SX101・102）、柱穴535基である。遺物は遺構と包含層から確認されている。その遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、軟質土器、石器がある。遺構の帰属時期は、弥生時代後期～中世に大別でき、古墳時代前半に帰属する遺構が多い。

小結 注目される遺構には、竪穴式住居址、遺物には、軟質土器と出作・市場型土器が上げられる。

遺構：弥生時代後期では、主柱穴間を巡る小溝（SB105）と張り出し部（SB102）を持つ竪穴式住居址、古墳時代前半では、住居址を区切る小溝（SB107）が注目される。

SB105は、平面形態が円形で高床部を持ち、6本の主柱穴間を幅10～38cmの小溝が巡る。SB102は、平面形態が方形で北側に長方形状の張り出し部を持つ。SB107は、平面形態が長方形で、内部施設に主柱穴2基、炉、小溝を持つ。小溝は主柱穴2本の外側に住居を短軸方向に平行に区切るように2本検出した。

遺物：出土遺物には上師器、須恵器、軟質土器、石製品がある。その中で、SB101からは軟質土器、土師器の楕形土器の完形品が出土し、SB109からは軟質土器、須恵器の出作・市場型土器の壺形土器が出土した。出土した軟質土器と出作・市場型土器は、松山平野の中でも出土例の少ない貴重なものである。これら、検出した遺構と出土遺物からは、調査地周辺が弥生時代後期～古墳時代前半にかけて松山平野の主要な遺跡と考えられ、今後の調査と整理によってより各時代の集落の範囲を明確にしていきたい。（高尾）

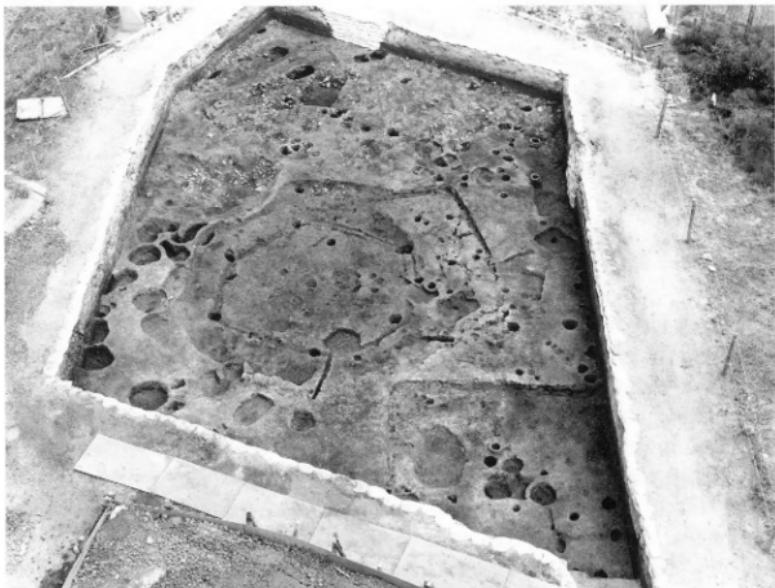


写真1 遺構完掘状況（西より）



写真2 遺物出土状況（西より）

たるみたかぎ

樽味高木遺跡12次調査地

所在地 松山市樽味4丁目247番の一部
期間 平成17年6月1日～同年9月2日
面積 1,071m²の内517m²
担当 河野史知・小笠原善治



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No81樽味遺物包含地』内における宅地造成に伴う事前調査である。調査地周辺では、これまでに数多くの発掘調査が行われており、愛媛大学農学部構内の樽味遺跡（1～6次調査）、北東の樽味立派遺跡（1～3次調査）、南の樽味四反地遺跡（1～11次調査）、樽味高木遺跡（1～11次調査）などの調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての拠点的な集落であることが解明されつつある。特に南約100mには、弥生時代後期末から古墳時代初頭の大型掘立柱建物址2棟を検出した樽味四反地遺跡の6次調査地と8次調査地があり、松山平野でも注目される重要な地域である。調査地は東西に2分し、平成16年度は西側（樽味高木遺跡10次調査地）を調査し、平成17年度は東側（樽味高木遺跡12次調査地）の調査を行った。

遺構・遺物 調査地は、松山平野の北東部に位置し、石手川の氾濫により形成された扇状地の扇尖付近に立地し、標高は約39mを測る。調査以前は水田であった。

基本層序は、第Ⅰ層灰色土（近現代の耕作層）、第Ⅱ層黄褐色土（近現代の床土）、第Ⅲ層鈍い黄橙色砂質土（土師器・陶磁器・瓦を含む）、第Ⅳ層黒褐色土（古墳時代の遺物を含む）、第Ⅴ層明褐色土（地山土で遺構の検出面）、第Ⅵ層は暗褐色砂礫である。調査では弥生時代～近世の遺構や遺物を検出した。遺構は、弥生時代の竪穴式住居址5棟、周溝1条、土坑2基、古墳時代の竪穴式住居址14棟、掘立柱建物址6棟、溝1条、土坑6基、柱穴、性格不明遺構1基、古代の性格不明遺構1基（SX1）、中世の土坑1基（SK7）、近世の掘立柱建物址1棟（掘立3）、溝8条（SD1～7・9）、土坑2基（SK5・6）、柱穴を検出した。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器・鉄器・装飾品・錢貨・獸骨・獸齒が出土した。

【弥生時代】SB17の床面から出土した高杯や甕などは、後世の削平を受け上半が欠失しているが、一括性の高い遺物である。SB6から出土した磨製石鎌2点は、在地の緑色片岩製の石材であることから、当地にて製作されたことが想定できる。また、サヌカイト製の打製石鎌や石庖丁状の収穫具に加えサヌカイト剥片なども少量ではあるが出土しており、この住居内で製作された可能性をもつ。周溝1は東側半分がSB12やSB15により削平を受け全容は不明であるが、平面形態は楕円形でも隅丸方形に近いものと想定する。周溝内から出土した遺物は、甕や壺など日常用の土器の破片などで一括投棄などの祭祀行為はみとめられなかった。

【古墳時代】全城において竪穴式住居址や掘立柱建物址を検出しており、安定して調査地周辺に該期における集落の展開が窺える。特に微高地がやや高くなる南側に集中しており、SB10～16・18・19の9棟が切り合って検出された。これらの住居址は古墳時代中期後半から後期にかけてのもので密度

が濃く、この間に継続的に当地やその周辺で居住していたと考える。SB12の北壁で検出した焼土は電施設の残存で、壁体の外側への張り出しが煙道施設と考える。

【古代】SX1は埋土や出土遺物から、東隣の樽味高木遺跡6次調査地の鍛冶関連遺構を検出した8世紀頃の段落ち造構のつながりであり、西端部が検出できた。

【中世】SK7からは人頭大の礫のほかに炭や焼土を浮いた状態で検出しているが、造構内で焼かれた痕跡はなく、別の場所で焼かれてSK7に入れたことが考えられる。骨は未検出であったが、土廣墓の可能性をもち、上位から検出した礫は墓標施設が崩落したことが窺える。

【近世】SD1～4は南北方向に平行して延び、東西方向のSD5～7・9に直角方向であり、溝の形状や位置関係などから農耕に伴う溝と考える。SK5の基底面からは鍔状の鉄製品が出土し、その上層に人頭大の礫を検出する。この鍔は桶棺に使われていたことも考えられ、桶棺墓の可能性をもつ。掘立3の出現により、周辺に近世集落の存在が窺える。

小 結 今回の調査では、弥生時代中期から後期頃、古墳時代中期から後期の竪穴式住居址や掘立柱建物址を主体とした集落を形成する造構や遺物と、古代から近世頃の集落関連造構を検出し、当時の集落構造を解明する資料が得られた。今後の整理課題として、当地における古墳時代中期から後期にかけての詳細な集落構造や規模を未整理遺物などの整理作業を進めながら検討する必要がある。（河野）



図2 遺構配置図

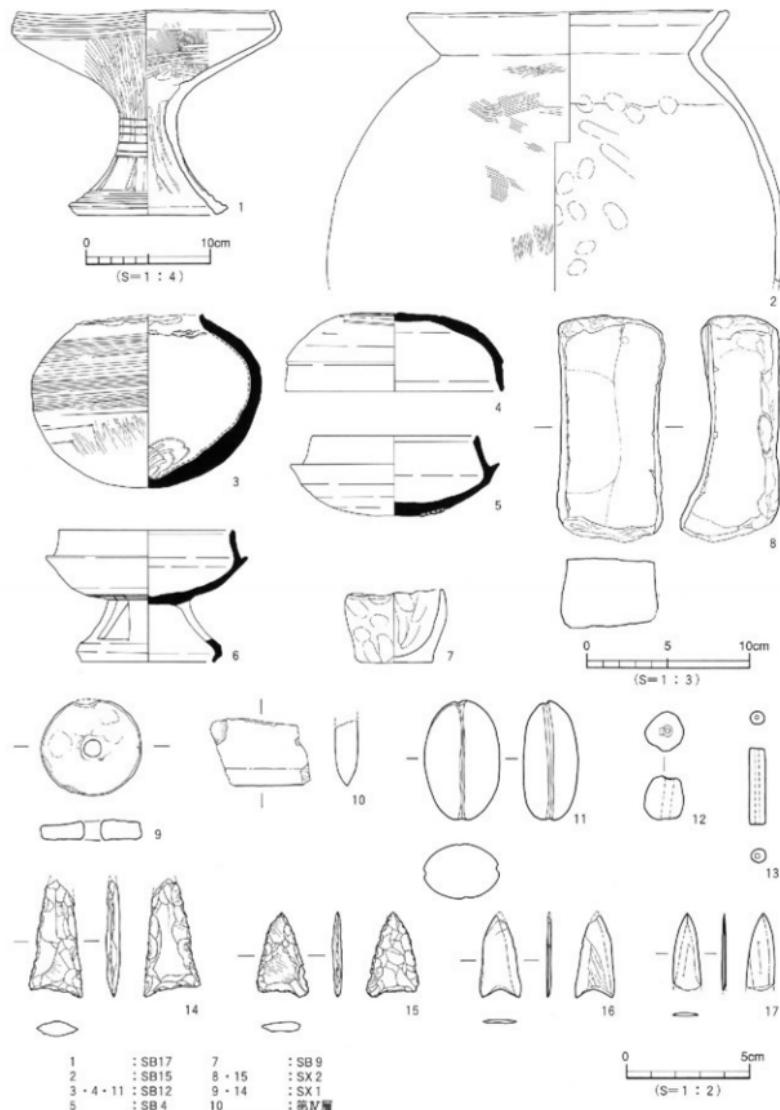


図3 出土遺物実測図



写真1 遺構完掘状況（北より）

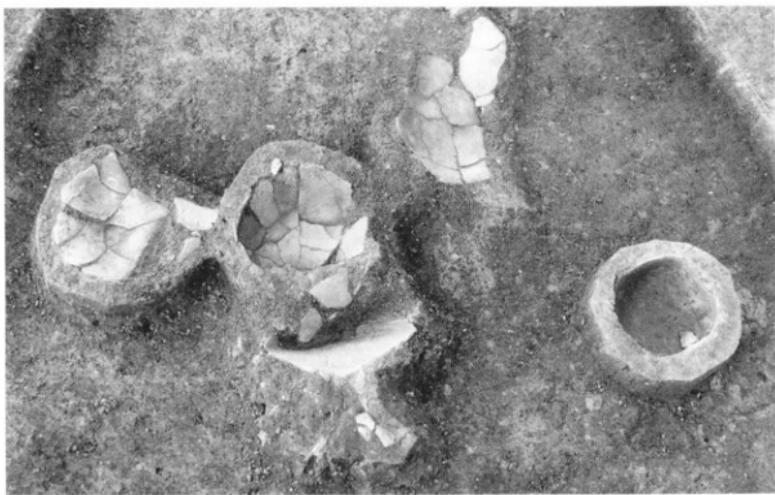


写真2 SB17遺物出土状況（北より）

樽味四反地遺跡11次調査地

所在地 松山市樽味4丁目226番1外
 期 間 平成17年3月16日～同年3月31日
 面 積 37.25m²
 担 当 加島次郎



図1 調査位置図

経過 本調査は松山市道樽味溝辺線道路改良工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「No81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野北東部を流れる石手川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、以前は宅地であった。周辺における既往の調査では、主に弥生時代前末・中期後葉～後期中葉・後期終末・古墳時代中期前葉・中期末～後期・古代・中世の生活関連遺構が広く展開することに加えて、古墳時代初頭に当平野を統括していたとみられる大首長の特殊建物群が存在することが新たに確認されるなど、特筆すべき調査知見が相次いで得られている。昨年度には弥生時代中～後期と古墳時代中期前半の竪穴式住居跡の精査過程において、住まいの廃絶時に執行された「うつわ」を用いての埋め戻しを伴う儀礼行為の一端が確認され、野外調査におけるあらたな視点を提示するに至っている。

遺構・遺物 本調査の基本層位はⅠ層造成土・現耕作土（層厚37～45cm）、Ⅱ①層黒色土（層厚8～17cm）、Ⅱ②層黒色土（炭化物包含。層厚8～10cm）、Ⅲ層黄褐色土（層厚15cm以上）である。このうち、Ⅱ層は弥生土器、土師器、須恵器を含む遺物包含層で、出土遺物と近接する既往の調査知見より本層は古墳時代後期～古代までに堆積した可能性が高いと考えられる。検出遺構には溝1条と柱穴7基があり、これらの遺構はⅡ①層上面から構築されていたことを確認している。なお、調査では遺構埋土とⅡ層との識別が平面的には困難であったことからⅡ層の掘り下げを人力にて行ない、Ⅲ層上面にてあらためて精査を試みてから遺構の輪郭を確定した上で調査を進めている。因みに、Ⅲ層上面の地形測量を実施したところ標高37.7～37.6mを測り、本調査地の旧地形が平坦に近いものであったことが判明している。以下では、主要遺構のひとつである古墳時代後期～古代以降に構築された101号溝（SD101）をとりあげてその概要を述べておきたい。

SD101は調査区北半部に位置する円形周溝状の遺構で、遺構の北側は調査区外へ続く。検出面における規模は幅43～35cm、深さ41cmを測る。復元すると、直径4.4mを測る円形と想定される。埋土は三層に大別され、上層は炭化物粒を含む黒色土、中層は黒色土、下層は褐色粘質土を含む黒色土である。埋土の断面観察から、この溝は北東方向からの流れ込みによる自然埋没の可能性が高いものと考えられる。なお、溝の断面形は一部で二段掘りを呈するところもあり、溝の機能を考える上で興味深い。出土遺物には弥生土器（甕・壺・高杯）と土師器（高杯）とがあり、いずれも破片資料である。

これらの遺物は、溝が機能した段階に直接伴う可能性は低く、溝の埋没過程で北東方向から流れ込んだ土に包含されていたものとみられ、遺構の帰属時期を特定するには充分な資料ではないと判断される。しがって、溝の帰属時期については構築された面がその判断材料となる。すなわちⅡ①層上面

であることから、溝は少なくとも古墳時代後期～古代以降に帰属する可能性が考えられるのである。

小 結 今回の調査では古墳時代後期～古代以降に構築された生活関連遺構を確認することができた点が最大の成果となり、当該期の遺跡が本調査地まで広がっていたことが明らかとなった。ただし、竪穴式住居跡が未検出であった点は、少なくとも当該期では本調査地が居住域として利用されていないことを示唆するものであり、土地利用を復元する上では興味深い知見となる。検出遺構のうち、SD 101については、単に出土遺物だけでなく遺構構築面と総合することにより帰属時期を特定できた。これは現在進行中の室内調査において必要不可欠な観点であり、参考にすべきことである。（加島）



写真1 遺構検出状況（北東より）



写真2 遺構完掘状況（西より）

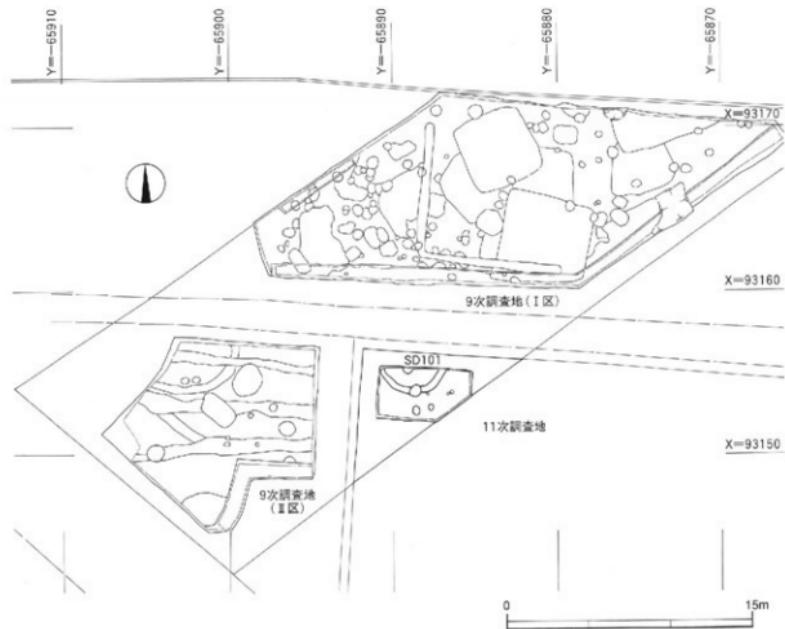


図2 遺構配置図

たるみしだんじ

樽味四反地遺跡12次調査地

所在地 松山市樽味4丁目228番3
期間 平成17年10月17日～同年12月26日
面積 201m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査位置図

経過 本調査は、樽味地区における重要遺跡確認調査である。調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財保有地の「No81樽味遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上標高39.2mに立地し、調査以前は既存宅地であった。周辺では、樽味四反地遺跡6次調査地（平成10年度調査）と同8次調査地（15年度調査）から弥生時代終末から古墳時代初頭に時期比定される大型建物址をはじめ、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されており、本調査地は8次調査地の南側に隣接する。

遺構・遺物 基本層位は第I層造成土、第II層耕作土（層厚5～10cm）、第III層灰褐色土（層厚10～15cm）、第IV層暗灰褐色土（層厚10～15cm）、第V層黒褐色土（層厚10～15cm）、第VI層黒色土（層厚15～20cm）、第VII層黄色土（遺構検出面）である。検出遺構や出土遺物から、第IV層は古代、第V層は古墳時代、第VI層は弥生時代後期までに堆積したものと考えられる。検出した遺構は、竪穴式住居址1棟、掘立柱建物址1棟、溝1条、土坑2基、ピット49基である。遺構の時期は弥生時代と古墳時代とに大別される。遺物は遺構及び包含層中から弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器、玉類（白玉）のほか、分銅形土製品2点、軟質土器片が出土した。以下では、注目すべき遺構をとりあげて概要を説明する。

弥生時代中期：SK1は調査区南西隅で検出した円形土坑で東側は掘立1柱穴に切られ、南側は調査区外に続く。規模は東西長3.4m、南北検出長3.2m、深さ20～25cmを測る。断面形態は逆台形状を呈するが、西側壁体は比較的緩やかに立ち上がる。遺物は埋土中より、弥生土器、石器のほか分銅形土製品が1点出土した。

古墳時代後期：SB1は調査区東側で検出した方形住居址で西側は掘立1柱穴に切られる。規模は東西長7.80m、南北長6.40m、壁高は26～32cmを測る。SB1は建替が施された住居址であり、建替前（構築時）の規模は東西長6.80m、南北長5.90m、壁高10～14cmを測る。住居址内からは土師器、須恵器、石器、鉄器のほか滑石製の白玉や軟質土器片が出土した。

小結 今回の調査では、弥生時代中期から古代までの遺構、遺物を確認することができた。

弥生時代から古墳時代かけては、調査地周辺において多数の集落関連遺構や遺物が確認されており、今回の調査結果は該期の集落が調査地南方に展開していることを示唆するものとなった。また、包含層中からではあるが、完形に近い土師器が出土しており、古代においても当地に集落が經營されていたことを物語る資料である。（相原）



写真1 西半分完掘状況（東より）



写真2 東半分完掘状況（北より）

たるみしざんじ

樽味四反地遺跡13次調査地

所在地 松山市樽味4丁目231番1
期間 平成17年11月1日～平成18年3月30日
面積 820m²
担当 宮内慎一・相原秀仁



図1 調査位置図

経過 本調査は、樽味地区における重要遺跡確認調査である。本調査地は松山平野の北東部、石手川の氾濫に起因する扇状地上標高39.2mに立地し、調査以前は水田であった。周辺では、樽味四反地遺跡6次調査地（平成10年度調査）と同8次調査地（15年度調査）から弥生時代終末から古墳時代初頭に時期比定される大型建物址をはじめ、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されており、本調査地は6次調査地の西側に隣接する。

遺構・遺物 基本層位は第I層造成土、第II層耕作土、第III層灰色土、第IV層灰褐色土、第V層暗灰褐色土、第VI層黒褐色土、第VII層黒色土、第VIII層黄色土（遺構検出面）、第IX層黄褐色土である。検出遺構や出土遺物から、第IV層は古代、第V層は古墳時代から古代、第VI層は古墳時代、第VII層は弥生時代後期までに堆積したものと考えられる。検出した遺構は、竪穴式住居址11棟、大型建物址1棟、掘立柱建物址1棟、溝7条、土坑10基、ピット320基である。遺構の時期は弥生時代と古墳時代とに大別される。遺物は遺構及び包含層中から弥生土器、上師器、須恵器、陶磁器、瓦、石器、鐵器、玉類（白玉）、軟質土器のほか、分銅形土製品1点、絵画（先刻）土器3点、種子、動物依存体（骨）が出土した。

弥生時代前期：SK 4は調査区中央部北寄りで検出した方形土坑で、規模は一辺1.0～1.1m、深さ30cmを測る。断面形態は逆台形状を呈するが、西側壁体は一部袋状となる。埋土は粘性の強い黒色土單層である。遺物は埋土中より弥生土器片と少量の炭化物が出土した。

弥生時代中期：SD 2は調査区中央部で検出した北東～南西方向の溝である。SD 2は樽味四反地遺跡6次調査（平成10年度調査）検出の溝SD001の延長部分である。溝中央部はSB 9（古墳時代中期後半）に切られ、溝東端部及び西端は調査区外に続く。規模は幅0.80～1.50m、深さ5～30cmを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は3層に分層され、上層は褐色土、下層は黒色土と黒褐色土（黄色土混入）の2層である。調査区西壁の土層観察により、掘り直し（再掘削）が施された溝であることが判明した。下層からは弥生時代中期後半に時期比定される土器片径10～20cmの大円錐が出土し、上層からは弥生時代末から古墳時代初頭の土器片が出土した。このうち、下層出土品には分銅形土製品が1点含まれる。これらのことから、SD 2は弥生時代中期後半に掘削され、溝が埋没した後、弥生時代末頃に同じ位置で再度、掘削されたものと考えられる。

弥生時代後期：SB 2は調査区南東部で検出した方形住居址で東側はSB10（古墳中期前半）に切られ、北側は大型建物址柱穴に切られている。規模は東西長5.00m、南北長4.50m、壁高は20～25cmを測る。埋土は2層に分層され、上層は黒色土、下層は黒色土（黄色土混入）である。住居址床面中

央部にて炉址を検出した。平面形態は梢円形を呈し、長径1.25m、短径0.90m、深さ20cmを測る。遺物は埋土中より弥生上器片が出土した。

古墳時代前期：大型建物址は調査区南西部で検出した。南北6間（10.6m）、東西5間（9.6m）を測る縦柱建物址で、建物方位は真北よりやや西に振っている。建物を構成する柱穴の一部はSB4（弥生時代後期後半）、SB2（弥生時代末）の壁体を切り、SB3（古墳時代中期後半）掘り下げ後の床面にて検出された。建物西側及び南側は調査区外に続く。調査では36基の柱穴を検出した。側柱を構成する柱穴は平面形態が隅丸長方形を呈しており、さらに建物東側と西側の側柱は東西に長い長方形、建物北側と南側の側柱は南北に長い長方形を呈している。規模は径90～120cm、深さ45～55cmを測る。なお、柱穴は建物内側部分がテラス状となっており、柱抜き取りの際の掘り方ではないかと推測される。柱穴の埋土は黒褐色土（黄色土混入）である。2基の柱穴で柱痕を検出した。柱痕規模は径20cm前後である。一方、東柱を構成する柱穴は、平面形態が円形～梢円形を呈しており、規模は径35～45cm、深さ25～45cmを測る。柱穴の埋土は黒色土（黄色土混入）である。1基の柱穴で柱痕を検出した。柱痕規模は径15cmである。遺物は20基の柱穴内から弥生上器片、土師器片が出土した。とりわけ、壺形土器の胴部片（タタキ調整あり）が数多く出土している。

古墳時代中期：SB9は調査区北側で検出した住居址でSB11と重複し、住居址南側は溝SD2を切っている。調査当初は1棟の住居として埋土の掘り下げや遺物の取り上げをおこなっていたが、調査終盤になり建替が施された住居であることが判明した。建替前の平面形態は、東西にやや長い長方形を呈し、規模は東西長8.5m、南北長6.4m、深さ10～20cmを測る。埋土は2層に分層され、上層は黒褐色土、下層は黒褐色土（黄色土混入）である。主柱穴は4本と考えられ、柱穴の平面形態は梢円形を呈し、規模は径50～60cm、深さ30～40cmを測り、柱穴掘り方埋土は黒褐色土（黄色土混入）である。建替は北側への拡張と考えられ、南北長が建替前よりも約1m長くなっている。建替後の住居址埋土は黒褐色土である。住居址床面北西部と南西部にて、幅0.70cm、長さ2m前後、深さ25～30cmの溝状遺構を検出した。溝埋土は黒褐色土である。このほか、床面にて大小10数基のピットを検出した。ピット埋土には黒褐色土と黒褐色土（黄色土混入）の2種類がある。建替前及び建替後の住居址北壁付近には、50×60cmの範囲に焼土塊を検出したが、おそらく竈の残骸ではないかと推測される。遺物は住居址南東部の埋土中位付近から、ほぼ完形の須恵器环身が2点と埋土中より土師器片や須恵器片、白玉（滑石製）、紡錘車が出土した。また、埋土中より分銅形土製品が1点出土した。

小 結 今回の調査では、弥生時代から古墳時代までの遺構、遺物を確認することができた。弥生時代では前期の上坑が検出されたことから、前期集落が樽味地区西部域に存在する可能性を示す資料である。中期では、溝SD2があげられる。樽味四反地遺跡6次調査（平成10年度調査）で検出した溝SD001の延長部であるが、今回の調査で、溝が弥生時代中期後半に掘削され、弥生時代末に再掘削されたことが新たに判明した。古墳時代では前期の大型建物址が注目される遺構である。今回検出した大型建物址は、樽味四反地遺跡6次調査地（平成10年度調査）、同8次調査地（平成15年度調査）に継ぎ樽味地区において3例目となる。3棟が同時期に併存していたか、時期を隔てて存在していたかは今後の議論の焦点となる。古墳時代中期では、9棟の竪穴式住居址を検出した。このうち、SB9は一辺8mを超える大型住居址である。本住居址は平野内では最大規模のものである。住居内からは軟質土器片や非陶器系須恵器片が出土しており、波米系の人々にかかる住居の可能性も考えられる。本住居址を含め、古墳時代における渡来人とその関係を追及する必要がある。（相原）

樽味四反地遺跡13次調査地

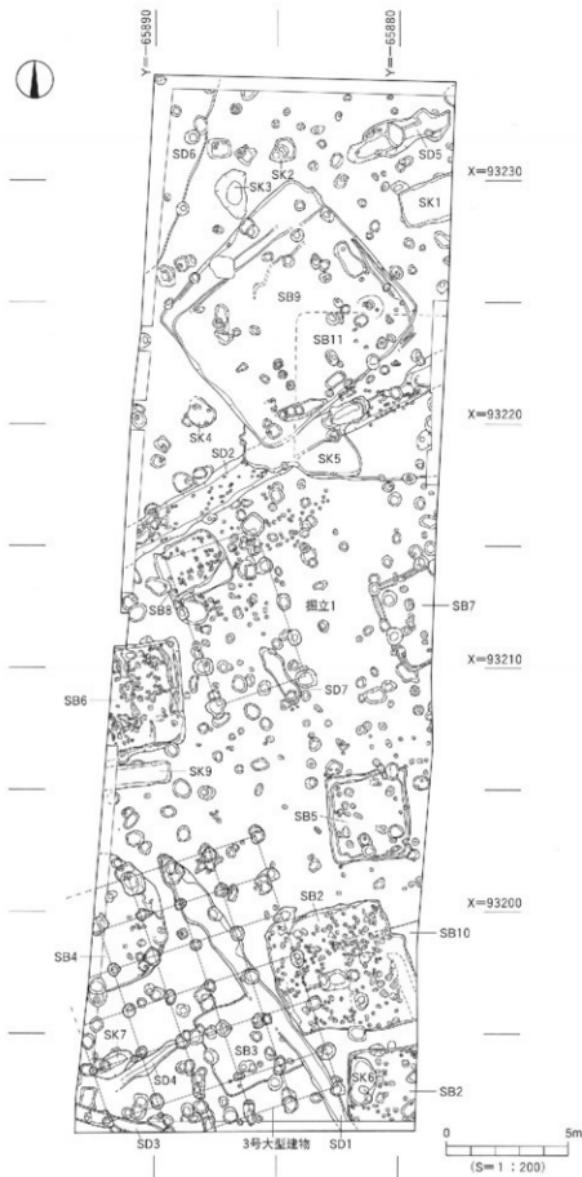


図2 遺構配置図



写真1 SB 9 完掘状況（北東より）



写真2 南西部完掘状況（北東より）



写真3 SD 2 遺物出土状況（北東より）

たるみちく
樽味地区確認調査（A～G区）

所在地 松山市樽味4丁目228-4の一部、外6筆
期間 平成16年3月1日～平成17年11月14日
(15年度：A～C区、16年度：D～F区、
17年度：G区)
面積 約180m² (全7調査区合計)
担当 田城武志(A～D区)・西村直人(E～G区)
(文化財課)



図1 調査位置図

経過 平成10年及び平成15年、樽味四反地遺跡6次・8次調査地において、弥生時代終末から古墳時代前期初頭にかけての2棟の「大型掘立柱建物跡」が検出された。そこで、この件につき文化庁、愛媛県教育委員会及び有識者に遺跡の学術的評価、及び今後の調査方針について指導を仰いだところ、「極めて重要な遺構であるため、周辺における継続的な調査が必要である」との指摘があった。これを受けて文化財課では、平成15年度より国庫補助を受け、遺跡群の広がり等を明らかにすることを目的とした、「埋蔵文化財取扱いのための事前確認調査（重要遺跡確認調査）」を実施することとなった。なお、調査箇所は全6箇所であり、それぞれ調査時期順にA～Gの区名を冠し、方法はトレンチ調査に拠った。各トレンチは全区にわたり通し番号を付した。

遺構・遺物 調査地は、石手川による扇状地の低位段丘面上に立地し、周辺では主に弥生時代中期後葉から中世にかけての遺跡が数多く確認されている。中でも前述した2棟の「大型掘立柱建物跡」は、当地における求心的な権力の存在を示唆するものとして注目を浴びており、それを裏付けるかのように、韓半島との関連を示す遺物や儀礼及び祭祀的な遺物等も數多く出土している。

基本層序は、少差こそあるものの、全区を通じ、概ね上部より第1層：耕作土、第II層：床土、第III層：灰黄褐色土、第IV層：黒褐色土、第V層：黑色土、第VI層：にぶい黄橙色～褐色土の6層である。この内、遺物包含層は第III～V層で、出土遺物より、第III層は中世以降、第IV層は古墳時代後期～古代頃、第V層は弥生時代中期後葉～古墳時代後期頃を中心とした堆積層と考えられる。

遺跡群の範囲確認が目的であることから、原則的に遺構検出に止めたため、遺構内の遺物は概ね未検出であるが、包含層との比較から、埋土が灰色の遺構は中世以降の遺構、黒褐色の遺構は古墳時代後期～古代、黒色の遺構は弥生時代～古墳時代中期頃にはほぼ比定すると考えられる。

【A区】第IV層、第VI層が確認されたものの、いずれの上面においても遺構は検出されなかった。第V層は確認されなかった。遺物は第IV層から僅かに土器小片を数点出土したもの、小片ばかりであったため、詳細な時期の比定は困難であった。

【B区】第IV層の上面において遺構は検出されず、僅かに上面から少量の土器小片を出土したのみであった。第VI層上面において黒褐色土を埋土とする南北に延びる幅130cm、深さ32cmの溝状遺構を確認したが、遺物は出土しなかった。また、第V層は確認されなかった。

【C区】第IV層、第V層の上面では遺構は検出されなかったものの、下層の第VI層において遺構を検出した。T 3東部において溝1条、西部において竪穴住居址1棟、T 4北部において真北方向に並ぶ柱穴3基、溝2条を確認した。竪穴住居址のほぼ中央部からは焼土等を検出した。埋土はT 3の弥生時

樽味地区確認調査（A～G区）



図2 調査区位置と周辺調査地

代後期の複合口縁壺が出土した黒色埋土の溝以外は黒褐色であった。

【D区】造構は第IV層上面において検出された。T 5において、東西方向の溝1条、土坑1基、柱穴5基、T 6において東西方向の溝2条、柱穴3基、T 7において東西方向の溝1条を確認した。全体として造構の遺存状況は、西に多く、東に少ない。区内全トレンチにおいて検出された溝は一連のものと考えられ、埋土は黒色を呈し、最大幅150cm、最深70~80cmを測る。埋土中より弥生時代後期の土器を出土した。

【E区】造構は第IV層上面において検出された。T 8において柱穴を3基、T 9において柱穴を1基、T 10において柱穴を5基、住居址を2基検出した。造構埋土はT 10の2基の柱穴(SP-e07, SP-e08)が黒褐色である以外は、黒色ものである。遺物は包含層より弥生土器（中期後葉～）、土師器、須恵器、中世土器、石製品が出土した。

【F区】造構は第VI層上面において検出された。T 11において柱穴を8基、土坑を1基、住居址を2基、溝を1条検出した。また、T 12において柱穴を12基、溝を1条、T 13において柱穴を3基、溝を1条、住居址を1基検出した。中でも、T 11及びT 12で検出された溝は、樽味四反地遺跡6次調査で検出された溝に連続するものである。遺物包含層は第III～V層が認められ、遺物は包含層より弥生土器、土師器、須恵器、軟質土器、サヌカイトの未製品等が出土した。詳細については、「樽味四反地遺跡13次調査地」の報告を参照して頂きたい。

【G区】造構は第IV層上面及び第VI層上面において検出された。T 14において、住居址1棟、溝1条、柱穴20基、T 15において、柱穴3基（第IV層）、柱穴6基（第VI層）、T 16において、柱穴1基

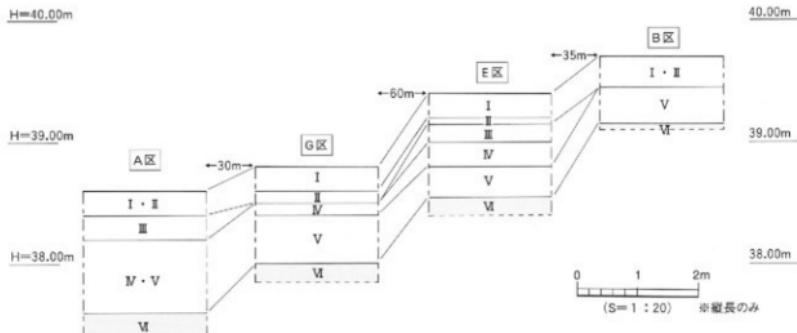


図3 A~G~E~B区 土層堆積変化図

(第IV層)、柱穴4基、溝2条(第VI層)を検出した。主な遺構としては、黒褐色埋土のSP-g 06・10・17が挙げられ、いずれも径約70~100cmの平面隅丸方形の大型柱穴である。遺物は、包含層より弥生土器、土師器、須恵器が出土した。また、T16のSP-g 30は平面隅丸方形の径約130cmの大遺構であるが、恐らくその位置関係から、樽味四反地遺跡8次調査で確認された「大型掘立柱建物跡」の北西隅の柱穴と考えられる。遺物は、包含層より弥生土器、土師器、須恵器が出土した。

小 結 3ヶ年にわたる調査により、次のような成果が得られた。第一には、以前から大型掘立柱建物跡の西側では遺構密度が希薄になることが指摘されていたが、A区の調査によって、より明確となったこと。第二には、樽味高木遺跡2次調査及び樽味四反地遺跡6次調査において高密度で検出された住居址がB区及びE区の東側においては検出されなかったことから、この辺りが密集地の東限となる可能性があること。第三には、G区で検出された、ほぼ東西方向に直線状に並ぶ平面隅丸方形の3基の大型柱穴は、別の大型掘立柱建物跡の可能性を示唆するものであること。今後は、周辺において詳細な調査をする機会を得て、更なる検討を進めていく必要がある。(西村)

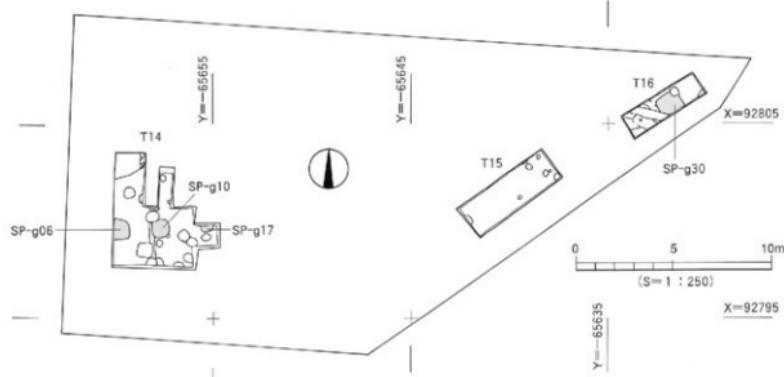


図4 G区トレンチ及び遺構配置図



写真1 G区トレンチ14遺構検出状況(東より)



写真2 G区トレンチ16遺構検出状況(西より)



写真3 G区トレンチ16大型掘立柱建物址柱穴
(SP-g30) 検出状況(東より)

ひがしいし い
東石井遺跡 3次調査地

所在地 松山市東石井5丁目295番 外
期間 平成18年1月23日～同年2月9日
(野外調査)
面積 90.14m²
担当 高尾和長・加島次郎



図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地「No119 西石井遺物包含地」内における宅地開発に伴う事前の発掘調査である。包蔵地内では、西石井荒神堂遺跡1～3次調査地、石井幼稚園遺跡1・2次調査地などがあり、弥生時代から中世にかけての遺構や遺物が多数検出されている。

遺構・遺物 調査地は、松山平野南部、石手川の支流である小野川と重信川の支流である内川の氾濫に起因する扇状地上に立地し、標高は20.90mを測る。調査以前は水田として使用されていた。

基本層位は、7層の上層を確認した。I層は灰色土である。調査区全域で検出した。II①層は褐灰色土調査区全域で検出した。II②層は明赤褐色土に褐灰色土が混じる。調査区全域で検出した。III層は明黄褐色土である。I区南西からII区、III区全域で検出した。IV層はにぶい黄褐色土に黒褐色土ツブ混じりである。調査区全域で検出した。IV層上面が遺構検出面となる。V層はにぶい黄褐色砂質土 I区の南壁深堀トレチとII区北壁トレチで検出した。VI①層は黄灰砂質土、VI②層は黄灰砂質土 VI①層より砂が細かい。VII層オリーブ黑色砂質土。VI・VII層はI区南西トレチで検出した。

調査では、弥生時代から近世までの遺構と遺物を検出した。検出した遺構には、弥生時代後期の土坑（SK101）と、中世の溝（SD101・102・103）、柱穴（SP）がある。遺物では、高壙形土器、石包丁、支石、鉄滓がある。

小結 旧地形：遺構検出面の測量と南側トレチの土層堆積状況から、東から西に緩やかに傾斜し、西側は砂層が隆起しており不安定な堆積状況である。調査区の東側が安定した地形であり遺跡が広がっている可能性が高いと思われる。

遺構：弥生時代では、SK101からは弥生時代後期の土器が出土し、土坑と同じ黒褐色土の埋土を持つ柱穴をI区東部から20基検出した。中世では、I区から溝3条、II区から溝1条、III区から柱穴11基を検出した。

遺物：弥生時代の遺物では、高壙形土器があげられる。高壙形土器は、SK101内から7個体分が出土し1つの土坑としては出土量が多い。

中世の遺物では、SP310から出土した石には、受熱による破損、変色、炭化物の付着がみられる。これは、土鍋や三足がつかない羽釜を使用する際に、支石として用いられていた可能性を示唆するものである。このような出土例は、松山市樽味に所在する樽味遺跡2次調査地がある。

今回の調査により、東石井遺跡3次調査地が弥生時代後期から中・近世にかけての複合遺跡であることが判明した。また、弥生時代後期から中世の遺跡が西石井遺跡から荒神堂遺跡、東石井遺跡3次調査地までの北側に800m、大きく広がることが明らかになった。（高尾）



写真1 遺構完掘状況（南より）

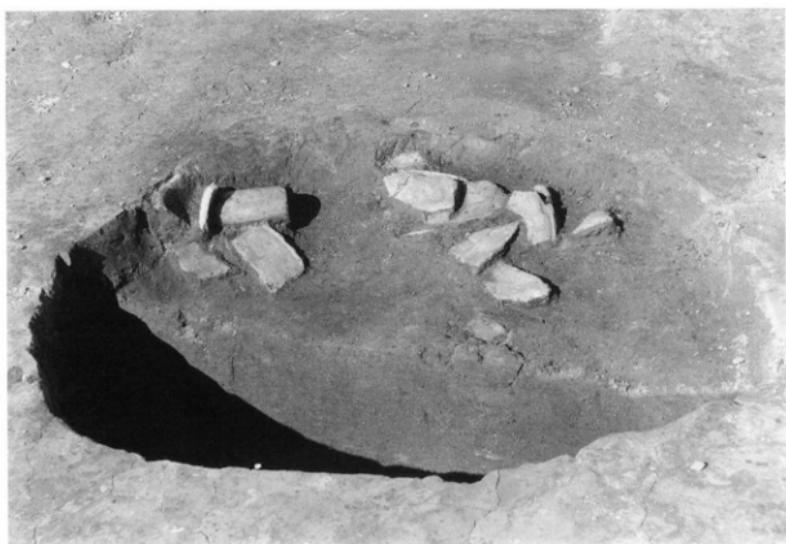


写真2 SK101遺物出土状況（南より）

は ざ い け
葉佐池古墳 3次調査

所在地 松山市北梅本町甲2455番地
期 間 平成18年2月1日～同年2月28日
面 積 40m²
担 当 栗田茂敏



図1 調査地位位置図

経過 葉佐池古墳では、平成4年の不時の発見以来、平成5年から平成6年にかけて実施した1次調査、また平成8年から平成9年の間実施された2次調査により多大な成果が上がっている。1次調査では、発見の契機となった1号石室の調査とともに墳丘の調査を、2次調査では同一墳丘内に存在する2号石室の調査を行った。その成果については、平成14年度刊行の報告書に詳しいので割愛するが、墳丘形態・規模については全長50mを越える前方後円形と推定されることが報告されている。この古墳は標高約120mの独立丘陵上に築かれているが、果樹園として造成された際、あるいはそれ以前に盛土がかなり流失したものと考えられ、また、丘陵南半に存在する墓地によっても旧地形がかなり変更されているのが現況である。盛土の遺存状況や地山整形痕から、墳形は北に後円部、南に前方部を持つ前方後円形であり、前方部の一部が、松山市有地の範囲を越え、墓地にまでひろがっていると推定された。しかしながら、報告されたように、丘陵上に築かれたという立地上の制約もあって、墳丘は精美な形態の前方後円形にはならず、全長も推定の域を出ていない。数々の貴重な情報を持つ2基の横穴式石室をはじめとする埋葬施設や祭祀痕を内包しているながら、不確定要素の強い墳丘の規模や形態の現状では、古墳としての総合的な評価が下しにくいというのが現在の葉佐池古墳の置かれた状況である。したがって、墳形・規模をより確度の高いものにする目的に、再度、墳丘確認調査を実施することになった。

遺構・遺物 1次調査において、墳丘が松山市有地内だけではおさまらず、さらに南の墓地にまで延びると判断したことにはいくつかの理由があるが、市有地内の最南端に設けたトレンチ、T28において盛土と考えられる土層が確認されたこと、さらに東側くびれ部に設けたZ調査区の南端においてこれも盛土と判断される土層がさらに南へ続く様相が確認されたことが大きな理由のひとつであった。そこで、今年度はT28の土層を再確認し、必要に応じて、未掘であったこのトレンチ周辺に調査区を設定し、また地区の許可を得て、市有地外の墓地内で掘削可能な部分にもトレンチを設定して掘削することとした。

T28の土層を確認した結果、墳丘の各所で盛土として用いられる明橙色微粒土など、1次調査で盛土と判断した土層を再確認した。しかし、5m東の墳丘長軸ラインのT17では表土直下で地山の岩盤が検出されており、このT28検出の土層のひろがりと地山との関係を明らかにしておく必要があると判断し、T28とT17との間のエリア、1次調査でS4W1としたグリッドとS4W2グリッドの一部を掘削することとした。この掘削の結果、この調査区には東西幅4m程度の地山の窪みがあり、この窪みに局所的に上述の層が存在していることがわかった。深さは最深で0.6mを測る窪みである。さらにT28を墓側に4.5m延長して掘削したが、延長部分ではこの表土・流土の直下で地山が検出され、上述の土層は検出されなかった。

小 結 今回のこの調査区において得られた結果によると、1次調査で盛土と判断された土層は地山の窪みに局部的に存在するものであり、上方墳丘からの流土の可能性もある。仮に人為的に形成された土層であるとしても、窪みを整地した層であり、この部分の所見ひとつをもって墳丘が南側の墓地にまで及んでいると明言することは難しいことがわかった。次年度は継続して、くびれ部Z区の再精査、あるいは拡張による追試、さらに必要であれば新たなトレンチ掘削も行っていく予定である。（栗田）

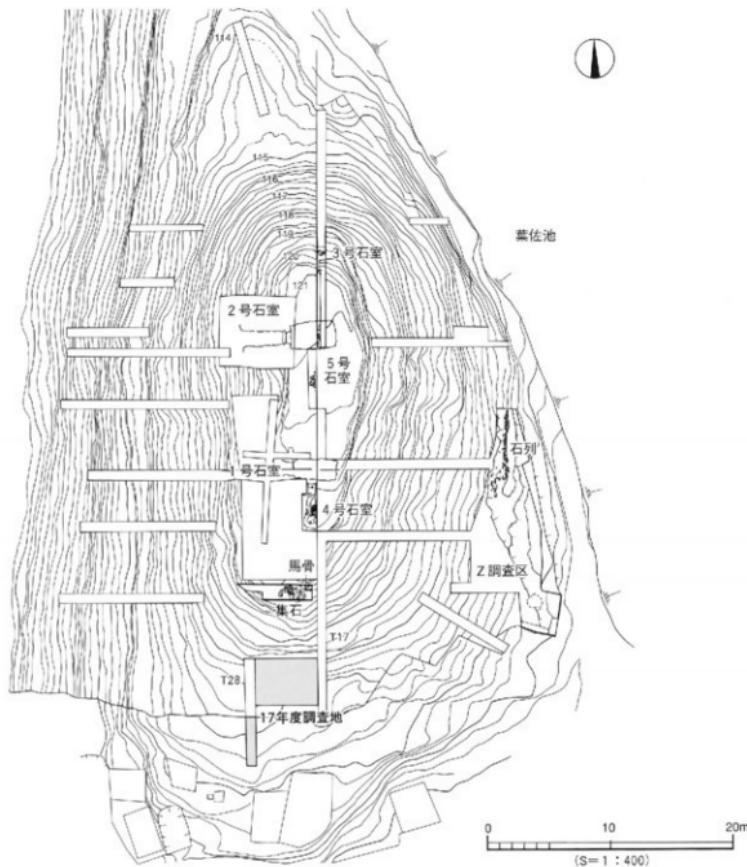


図2 調査区と主要遺構配置図

みなみ うめ もと ながひろ

南梅本長広遺跡 2次調査地

所在地 松山市南梅本町甲527-2外
期 間 平成17年8月1日～同年9月30日
面 積 370.15m²
担 当 小笠原善治・河野史知

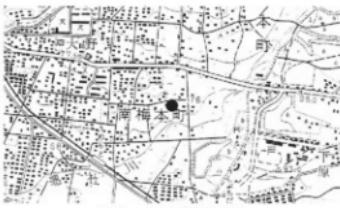


図1 調査位置図

経過 本調査は、松山市指定の埋蔵文化財包蔵地『No.107播磨塚古墳群』と『No.142水泥遺物包含地』に挟まれる埋蔵文化財包蔵未指定地での「市道南北梅本線道路改良工事」に伴う事前調査である。申請地の小野地区は、重信川の支流である小野川、悪社川及び内川によって形成された扇状地が広く分布する地域である。調査地は昨年に調査された「南梅本長広遺跡」が南に隣接する。また、悪社川を挟んで南に14～15世紀代の中世集落関連遺跡である「南梅本上方遺跡」、「南梅本上方遺跡2次調査地」が所在し、近年一連の本格調査により悪社川流域の中世～近世集落関連遺跡が見つかり、その集落構造が明らかにされつつある。本遺跡では、調査の都合上調査区をA区・B区に分けている。

遺構・遺物 基本層序は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層灰黄褐色土（明黄褐色土粒含む）、第Ⅲ層灰黄褐色土（明黄褐色土粒を多く含む）、第Ⅳ層黒褐色土（小礫含む）、第Ⅴ層明黄褐色砂質土（小～中礫混含む）である。遺構は、A区では土坑（SK）1基、溝（SD）4条、性格不明遺構（SX）1基、建物を構成しない柱穴が10基、そして石列1条が検出された。B区では、土坑（SK）4基、建物を構成しない柱穴が32基、石列2条、石敷遺構1条を検出した。以下、主な遺構について概略を述べる。

A区：SD 1は東西に走り、規模は検出長7.82m、幅2.28m、深さ約17cm、土師質土器の口縁部が出土している。埋土は黒褐色土と灰黄褐色土に明褐色粒が混じる。その他の溝は浅く、深さ5～6cm内外を測る。また、SD 1に切り込む形で近世の暗渠を検出。規模は、検出長5.2m、幅約0.38m、深さ22cmを測る。暗渠の石列内に備前焼の窯形土器胴部片が1点出土している。B区：楕円形のSK3からは、弥生土器小片数点の他、繩文土器片が多数出土した。円形を呈するSK 4からは弥生土器片数点が出土。集石遺構の規模は0.95m×0.64mで拳大～人頭大の円礫をほぼ円形に配置されている。高さ22cmを測る。床面での遺構検出はなく、付近より弥生土器底部片が数点出土している。その他、石列2条・石敷2条を検出した。石敷遺構は石列とセットで構築されたと考えられ、層位的に新旧関係が見られる。また両石列ともに並行して東西に走る。出土遺物は「開元通宝」、繩文土器片と弥生土器片、須恵器片、土師皿片、および陶器片が出土している。遺構の時期は中世～近世に比定される。

小結 今回の調査では、繩文、弥生、中世～近世の遺構遺物を主に検出した。B区検出の繩文時代の土坑は、当地周辺では検出例が少ないとからも貴重な成果である。また、南に隣接する「南梅本長広遺跡」に引き続き、石材使用遺構関連の検出は、当地の中世～近世における土地利用に関して興味深いデータとなる。石敷は調査区外南部に展開するが、南に隣接する「南梅本長広遺跡」では石敷延長部分は未検出である事からも小規模なものと思われる。遺構の性格は土層観察より2組の遺構が若干の時期差を伴うことから境界的なものと考えられ、今後の周辺での調査が期待される。（小笠原）

南梅本長広遺跡 2次調査地

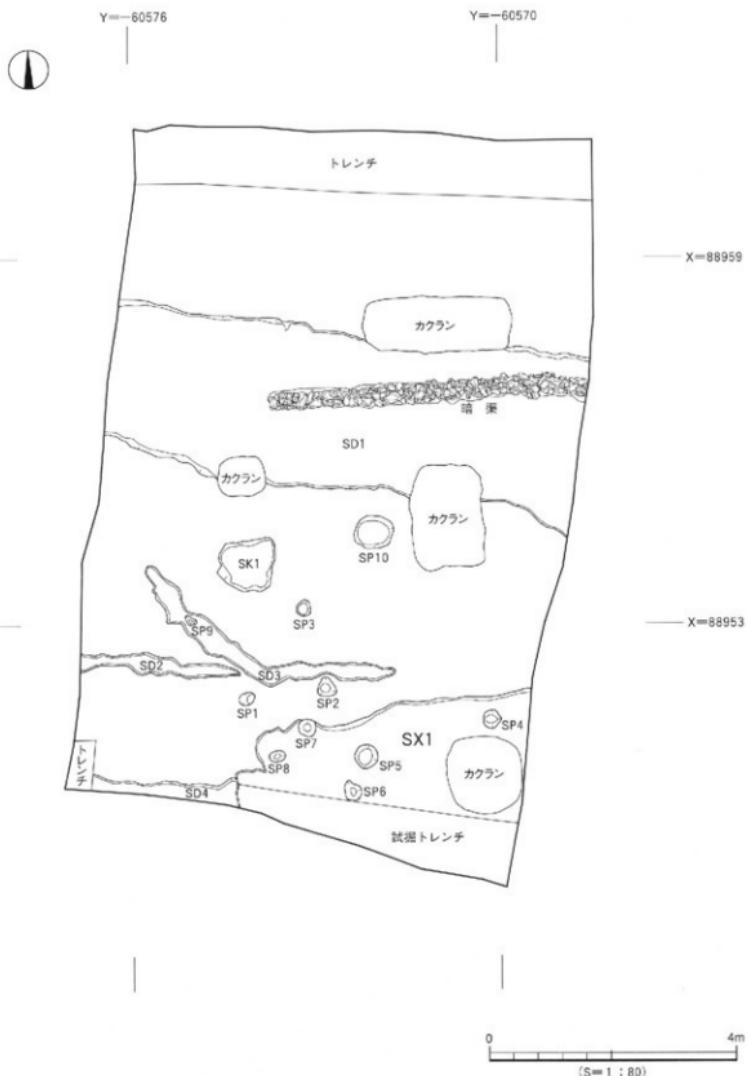


図2 A区遺構配置図

南梅本長広遺跡 2次調査地

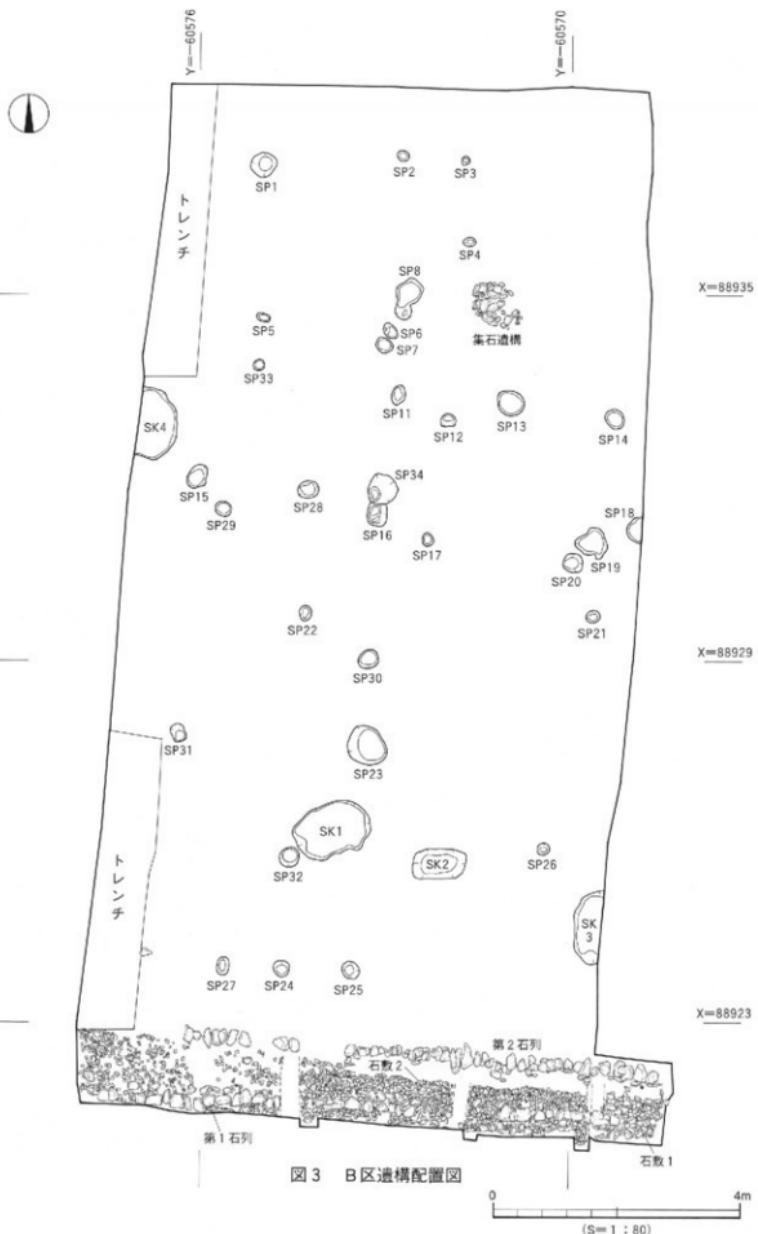


図3 B区遺構配置図



写真1 B区遺構完掘状況（北より）



写真2 B区石列と石敷き遺構検出状況（北西より）

水泥遺跡3次調査地

所在地 松山市水泥町405外
 期 間 平成17年1月20日～同年8月12日
 面 積 1,275.20m²
 担 当 水本完児・宮内慎一



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南東部、標高50.0～51.6mに立地する。調査地の北側には水泥遺跡1・2次調査地と平井遺跡1・2次調査地、南側には高井遺跡があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や、縄文時代晚期から中世までの遺物が確認されている。

遺構・遺物 調査地の基本層位は第I層表土（造成土・耕作土）、第II層水田床土、第III層灰黄褐色土、第IV層鈍い黄橙色土、第V層灰白色土、第VI層暗褐色土、第VII層淡黄色土、第VIII層暗褐色砂質土、第IX層淡黄色砂質土、第X層淡黄色土である。第III層と第IV層上面で中世の遺構と遺物を確認し、第VII層と第X層上面で古代の遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、経塚1基、溝（SD）3条、畝状遺構7条、鏽跡状遺構19条、柱穴（SP）5基、性格不明遺構（SX）1基である。

経塚は、調査前の現状では中央部に木が1本植わっており、南部には祠と湯呑みが1点づつ祭られていた。平面形態は円形を呈し、規模は南北長3.6m、東西長4.5m、地表面より上に1m露出し、地表面より下に20cmの掘り込みを測る。露出した南東部には5～20cm大の礫を並べて、周りを囲んでいる。床面には土を5cmの厚みで敷いている。遺物は、須恵器片と骨が1点出土した。時期は出土遺物より中世とする。

SD203は調査区南東部で検出した東西方向の溝で、規模は検出長3.6m、幅0.8～1.4m、深さ5.5～25.5cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は暗褐色土に灰色砂が混じるものである。遺物は、土師器片と須恵器片とが出土した。時期は出土遺物より古代とする。

小結 今回の調査では、古代から中世までの集落や生産地の存在を推測される資料が得られた。今後は、調査地周辺の遺跡との関係を検討し、古代から中世までの集落範囲や構造、生産域の範囲を究明しなければならない。（水本）



写真1 1区遺構完掘状況（北より）



写真2 石室完掘状況（南西より）

みなみたか い
南高井遺跡 2次調査地

所在地 松山市南高井町116外
期間 平成17年8月1日～同年11月30日
面積 1,638.04m²
担当 水本完児・宮内慎一



図1 調査地位置図

経過 本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南東部、標高48.0～49.2mに立地する。調査地の北には高井遺跡、水泥遺跡1次～3次調査地、平井遺跡1・2次調査地があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や、縄文時代晩期から中世までの遺物が確認されている。また、西には南高井遺跡1次調査地があり、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されている。

遺構・遺物 調査地の基本層位は第I層表土（耕作土）、第II層水田床土、第III層鈍い黄褐色土、第IV層灰黃褐色土、第V層灰褐色粘質土、第VI層黒褐色粘質土、第VII層褐色砂質土である。第IV①層、第IV②層、第V層、第VI層上面で中世の遺構と遺物を確認し、第VII層上面で古代の遺構と遺物を確認した。検出した遺構は、竪穴式住居址1棟、溝8条、自然流路1条、土坑7基、鏽跡状遺構54条、柱穴53基、性格不明遺構2基である。

SK202は調査区北部中央に位置する梢円形土坑で、規模は検出長90cm、幅80cm、深さ3.0cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は暗灰黄色砂質土である。遺物は土師器、炭、焼土が出土した。時期は出土遺物より中世、12世紀以前に比定される。

SK203は調査区北東部東側に位置する梢円形土坑で、規模は検出長90cm、幅70cm、深さ13.0cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は黒褐色土である。遺物は土師器が出土した。時期は出土遺物より古代、7世紀代に比定される。

SB601は調査区中央部で検出した方形住居址で、規模は検出長6.2m、検出幅1.0m、壁高9.7cmを測る。埋土は濃灰黄褐色砂質土である。遺物は埋土中より須恵器と土師器とが出土した。時期は出土遺物より古代、7世紀代に比定される。

小結 今回の調査では、古代から中世までの集落や生産地の存在を推測される資料が得られた。とりわけ、竪穴式住居址の検出は、調査地近隣地域に古代集落が展開している可能性が高く、今後、調査地周辺は集落構造や範囲など慎重な調査研究が必要とされる地域である。（水本）



写真1 2区造構完掘状況（南より）



写真2 土坑203遺物出土状況（南より）

みなみたか い
南高井遺跡 3次調査地

所在地 松山市南高井町173-4外
期間 平成17年12月1日～平成18年3月31日
面積 1,646m²
担当 水本完児・宮内慎一



図1 調査地位図

経過 本調査は、松山市道水泥南高井線道路改良工事に伴う事前発掘調査である。調査地は松山平野南東部、標高50.10～50.32mに立地する。調査地北側180mの地点には2級河川の内川が東西方向に流れている、調査地周辺では、南高井遺跡2次調査地、高井遺跡、水泥遺跡1・2・3次調査地、平井遺跡1・2次調査地があり、弥生時代から中世までの集落関連遺構や縄文時代晚期から中世までの遺物が確認されている。また、西には南高井遺跡1次調査地があり、弥生時代から古墳時代までの集落関連遺構や遺物が確認されている。

遺構・遺物 調査地の基本層位は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層水田耕作土、第Ⅲ層水田床土、第Ⅳ層明灰黃褐色土、第Ⅴ層純い黃橙色土、第Ⅵ層灰黃褐色土、第Ⅶ層砂礫層である。第Ⅷ層上面にて古墳時代の遺物と中世の遺構と遺物を確認し、第Ⅸ層及び第Ⅹ層上面にて古代の遺構と遺物を検出した。検出した遺構は自然流路4条、土坑2基、鏽跡状遺構75条、柱穴13基、性格不明遺構1基である。

SK201は調査区北部に位置する楕円形土坑で、規模は東西検出長75cm、南北長120cm、深さ17.7cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は灰黃褐色砂質土である。遺物は上師器と須恵器とが出土した。時期は出土遺物より古代、7世紀代とする。

SK202は調査区南東部に位置する楕円形土坑で、規模は東西長80cm、南北長70cm、深さ24.1cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は灰黃褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、石器が出土した。時期は出土遺物より古代、7世紀代とする。

小結 今回の調査では、古代から中世までの集落関連遺構や生産遺構を確認した。飛鳥期に比定される土坑の検出は、近隣地域に古代集落の存在を示唆するものであり、内川から南側の地域には古代集落が営まれている可能性が高いものと考えられる。(水本)



写真1 2C区遺構完掘状況（北より）



写真2 土坑201遺物出土状況（東より）

鷹子新畠遺跡4次調査地

所在地 松山市鷹子町577番1の一部、582番1、
582番6の一部、582番10
期 間 平成18年3月1日～同年3月17日
面 積 155m²
担 当 加島次郎



図1 調査地位置図

経過 本調査は分譲宅地造成を目的とした土木工事等に伴う事前の発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財保有地の「Na129 鷹ノ子遺物包含地2」内にあり、周知の遺跡として知られている。本調査地は松山平野東部を流れる堀越川と小野川によって形成された洪積台地上に立地し、標高49.4mを測る。調査以前は水田であった。周辺における既往の調査では、繩文時代後期の久米窪田森元遺跡、繩文時代晩期の久米高畑遺跡36次調査地、弥生時代前期末～中期初頭の大溝が検出された久米高畑遺跡22・23・28次調査地、来住廃寺20次、弥生時代中期後葉～後期の円形竪穴式住居跡が検出された久米高畑遺跡35次調査地などがある。さらに古墳時代では後期の群集墳・五郎兵衛谷古墳群、古代には白鳳期の創建として知られる国指定史跡の来住廃寺、久米官衙遺跡群がある。また、久米窪田遺跡からは木簡の出土をみており、古代においては久米地域が松山平野の政治的・歴史的な中心を占めていたことが継続的な調査・研究により次第に明らかになりつつある。

今回、土木工事対象地に対して試掘調査を実施した結果、対象地の西半部で埋蔵文化財の存在が確認されるに至り、原因者の多大なご理解とご協力を得て、本格調査を実施する運びとなった。調査は工事対象予定地の西に敷設する進入路部分で、対象地は長さ35m、幅4.3mの細長いものとなった。

遺構・遺物 本調査の基本層位はⅠ層造成土・現耕作土（層厚40～60cm）、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層明黄褐色土（層厚25～30cm）である。このうち、Ⅱ層は調査区の北東部と西端部に分布が限られ、黄色土ブロックの有無を基準として①と②とに細分でき、②には黄色土ブロックを含むとともに、わずかに遺物を包含する傾向にある。遺物には弥生土器、土師器、須恵器の小片がある。弥生土器には前期末～中期初頭の連鎖状刻目の突縁をもつ壺や後期の壺小片、須恵器には6世紀後半～8世紀代に帰属するものがあることから、Ⅱ②層は少なくとも古代までに堆積した遺物包含層と理解することができよう。

検出遺構には溝2条、竪穴式住居跡2棟、土坑1基、柱穴11基がある。これらは北東から南西にかけての緩斜面に構築されている。遺構確認面にはⅡ②層上面とⅢ層上面とがあるものの、確認面の相違が帰属時期の先後関係を必ずしも反映するものではない。調査区西端部における遺構の重複関係からは、SB2（古）→SD1・SD2（新）の先後関係があることを確認している。以下では、主要遺構をとりあげてその概要を述べておきたい。

SD1：調査区を縦断する形で検出したほぼ東西方向に延びる溝である。検出時は幅1.1～1.6mを測り、埋土は黒色土（N1.5/0）で、遺物は認められなかった。精査の結果、横断面形態は逆台形を呈し、検出面からの深さは48cmを測る。埋土は4層に大別でき、初期埋土は南方向から流入しており、径2～3cm大の礫をわずかに含むものであった。遺物はわずかな量であるものの、須恵器の皿と壺の小片

が認められた。なお、SD 1は西端付近で幅1.1mを測る溝（SD 2）がほぼ直交して取り付く。交点における溝底のレベル測量値に大差はなく、埋土は類似し、平面面観察において溝には重複関係が確認できなかったこと等から、両遺構は同時併存と判断され、一連の施設の可能性が高いものと考えられる。

小 結 今回の調査では古代に構築された生活関連遺構を多数確認することができた点が最大の成果となる。これにより当該期の遺跡は本調査地にまで広がっていたことが明らかとなった。さらに、古代に帰属する遺構を検出するとともに、これらの先後関係を確定することができたことで、土地利用の実態を知る手がかりを得られた点は興味深い。

すなわち、主要遺構が方形（あるいは長方形）の竪穴式住居跡から区画の機能を有した溝へと変遷すること、この溝への転換が8世紀あるいは7世紀代に渦る可能性の高いことが調査により判明した。この溝は当地一帯に展開する大規模な区画施設である可能性が高く、近接地で確認・調査される蓋然性は高いものとみられる。今後の試掘と本格調査の際には、留意すべき課題のひとつとして指摘しておきたい。なお、包含層から弥生時代前末期～中期初頭と後期に帰属する土器片が出土したことから、当該期の生活関連遺構が当地周辺、すなわち北あるいは北東方向の微高地上にも存在する可能性が高いものとみられる。既往の調査成果からは当該期の生活関連遺構は大溝や土坑（貯蔵穴）で構成されることが判明しているものの、配置や変遷、当該期の居住域さらに居住に関わる遺構については未だ不明な部分がある。これらについては、今後実施される試掘と本格調査、さらに本格調査後の整理と分析の際にも留意すべき事項であることを指摘しておきたい。（加島）

調査区西壁

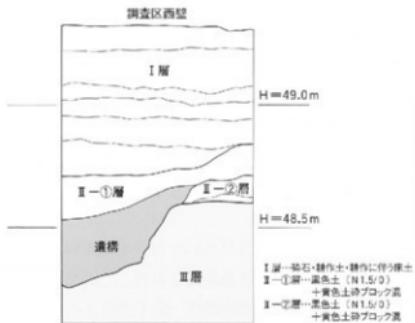
図2 土層柱状模式図
(縦S=1:20、横S=1:40)写真1 SD 1 検出状況
(北東より)写真2 調査区西半部遺構
完掘状況 (南東より)

写真3 SD 1 完掘状況 (東より)

きし まち
来住町遺跡14次調査地

所在地 松山市来住町953番、954番
期 間 平成17年10月1日～同年11月30日
面 積 1,297.56m²のうち240m²
担 当 相原浩二・山之内志郎



図1 調査位置図

経過 調査は、個人住宅建設に伴い国庫補助により実施した。調査地は、久米官衙遺跡群や来住廐跡の所在する来住台地の南側縁辺部、標高34mに立地する。調査地の北方約200mには、国指定の史跡である来住廐跡があり、同跡や周辺地においては精力的に調査が行われている。

今回の調査地は、これら遺跡の展開する来住台地南側の低地部にある。調査地周辺についてはこれまでに調査例が少なく、遺跡の情報が不足している地帯となっている。試掘調査によって、弥生時代の遺物と中世～近世の遺構・遺物が確認されたため本格調査を行う事となつた。調査は、試掘調査の成果をふまえ弥生時代～中世の集落構造の解明を主目的として行った。なお、調査区については宅地予定地をA区、浄化槽の設置予定地をB区とし二区に分けて調査を行つた。

遺構・遺物 調査前の現況は、水田耕作地で南側と北側に分かれる2枚の棚田である。地形は、北西方向に低くなっている。このため南側の田が高く、北側の田との比高差は約30cmを測る。

基本層位は、第I層灰色土（現代耕作土）～、第II層橙灰色土（床土）～、第III層灰色土、第IV層明黄灰色土、第V層黒褐色土、第VI層黄色粘質土（砂礫混じり）である。第III層は、調査区東側の北部に遺存する。この層は、近世以降に一段低い水田を現在の水田面まで地上げした時の造成土と考えられる。第IV層は、調査区の東側に遺存し弥生時代～近世の遺物が出土する。第V層は、中世の遺物包含層で調査区の北側にわずかに遺存する。第VI層は、地山と呼ばれる層である。遺構の検出は、第VI層上面で行った。調査の結果、中世と近世の遺構・遺物を検出した。検出した遺構はA区とB区を合わせ土坑12基、溝6条、柱穴126基である。

中世の主な遺構は土坑SK 3, 5, 8, 12、溝SD 3, 4, 5, 6、柱穴SP18, 19, 24, 59などがある。遺構の埋土は、黒褐色土と茶褐色土の2種類に分けられる。主な出土遺物にはSK 3より土師器皿、壺、用途不明鉄製品、SK 8からは土師器のほか青磁碗の破片、SP24からは黒色土器などが出土している。このほか、遺構中や表採品として布目瓦の破片が多く出土している。

近世の遺構は土坑SK 1, 2、溝SD 1, 2がある。遺構の埋土は、黄灰色土である。主な出土遺物にはSD 1より砥部焼きと思われる碗の破片、SK 1からは肥前系陶磁器片、瓦などが出土している。その他の出土遺物として、SK 11よりガラス小玉が一点出土している。

小結 今回の調査では、中世と近世の遺構・遺物を検出した。弥生時代については、土器片が少量出土したもののが検出しなかつた。中世の遺構は土坑、溝、柱穴が多数検出された。この事は、調査地内において集落域の一画を形成していたものと推察される。遺構の時期は、出土遺物より13世紀代と考えている。このほか、中世遺構の埋土色は、黒褐色土と茶褐色土の2種類に分けられたが、

来住町遺跡14次調査地

出土した土器に形態差はみられなかった。また、中世の遺構内と包含層中からの出土遺物には、布目瓦片が比較的多く出土しており、近隣に瓦を使用した建物の存在を示すものとして注目される。近世遺構の時期は、出土遺物より18世紀以降に時期比定できるものであった。（相原）

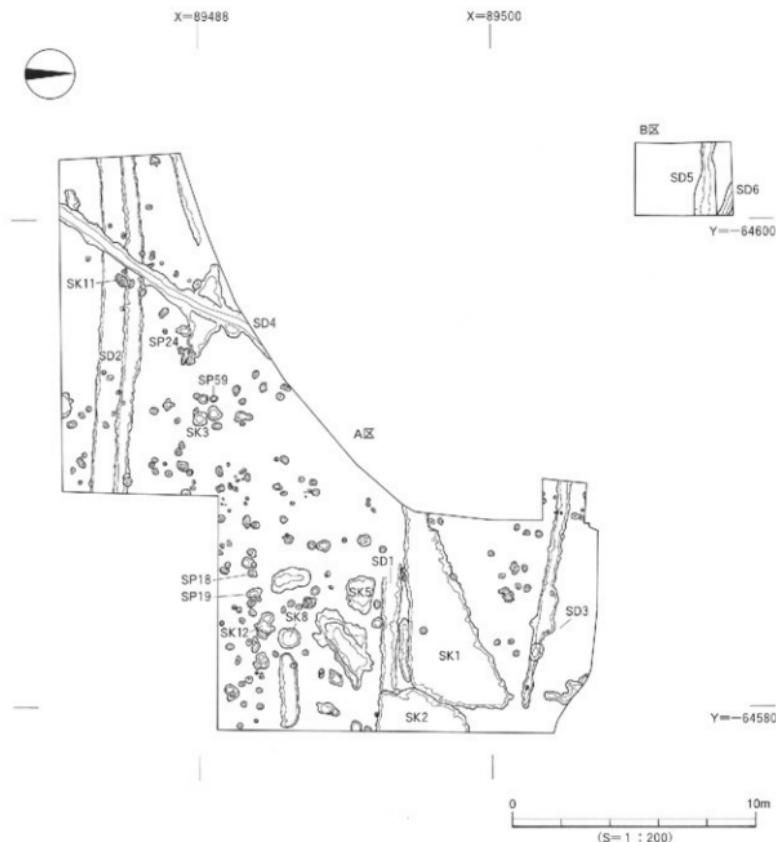


図2 遺構配置図

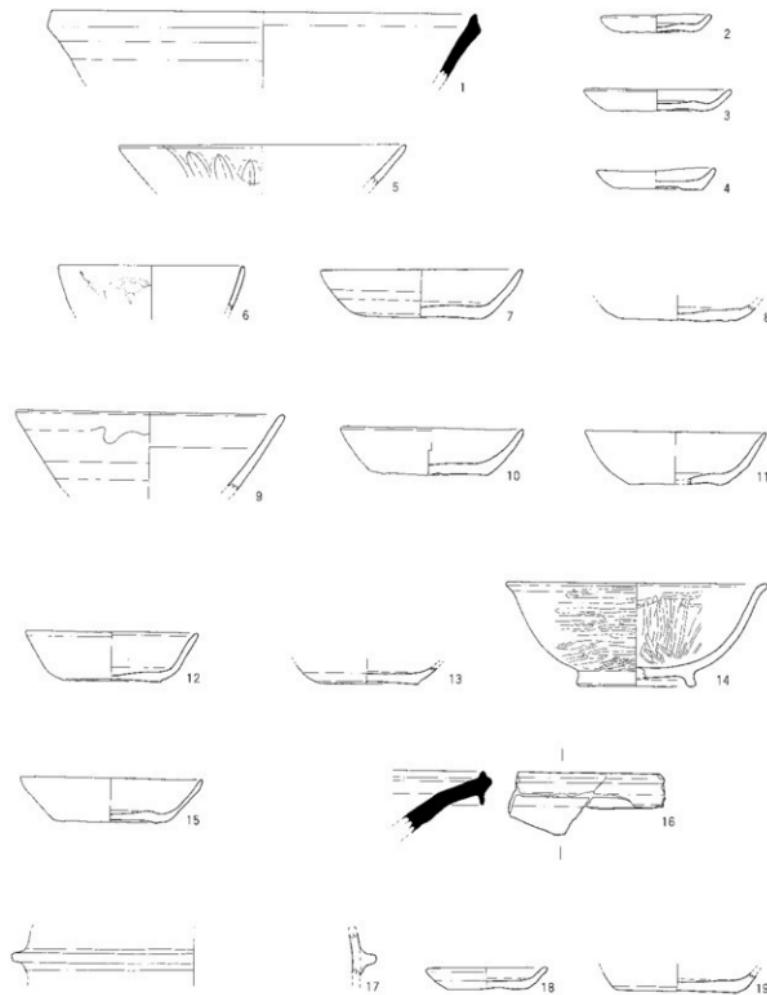


図3 出土遺物実測図

1:SK1 2:SK3 3:SK5 4:SK12 5:SK8 6:SD1
7~9:SD5 10:SP18 11~13:SP19 14:SP24 15:SP59
16, 17:A区 18, 19:B区

0 5 10cm
(S=1:3)



写真1 調査地より来住庵寺跡方面を望む（南西より）



写真2 遺構検出状況（東より）

久米高畠遺跡65次調査地

所在地 松山市来住町1150番
 期 間 平成17年6月1日～同年9月30日
 面 積 約900m²
 担 当 橋本雄一・栗田茂敏

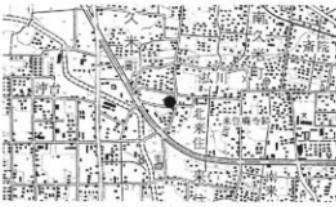


図1 調査位置図

経過 久米官衙遺跡群を構成する官衙施設である正倉院の南面において、重要遺跡の確認調査として、国からの補助を受けて発掘調査を実施した。調査地の北辺においては、正倉院南濠の一部が検出されるものと予想されていた。

遺構・遺物 正倉院南濠（SD020）のほか、官衙関連施設である可能性のある遺構として、調査地中央部においてSD021と022、また、南部において掘立001を検出した。これら以外の遺構は、大半が弥生時代前期末から古墳時代後期にかけての集落に関するものが主体を成している。

大半の土坑は、弥生前期末から中期初め頃の貯蔵のための土坑である。SK003は、古墳時代以降の土坑であると考えられるが、住居址との関係も含めて詳細は不明である。

SB002・003は、古墳時代初頭以降の竪穴式住居址である。SB001は、東西と北壁の3方にベッド状の段が造り付けられた弥生時代後期の住居址である。ベットの幅は0.7～0.8m程度で、厚さは数cm～10cmほどが遺存。住居址中央部の床面には、焼土と炭化物の分布が認められた。火災によって焼失したものか、あるいは、住居廃絶時の片付けもしくは、それに伴う祭祀行為として火が放たれたことを示すものと考えられる。

掘立001は、官衙関連の施設である可能性も想定している。桁行2間（4.15m）、梁行2間（3.30m）。方位はN-95.5°-Eで、7世紀代の官衙施設と共通である。

1区北西角で検出されたSD009からSD019の各溝は、底に砂利状の小礫と須恵器を含む土器片が敷きつめられている点において共通の特徴を示す。付近の調査の中で関連性が指摘できる遺構としては、平成16年に調査が行なわれた同62次調査地のSD001をあげることができる。小礫が敷きつめられた状況が共通であることから、SD009、010、011の3条は、62次SD001の東への延長にあたるものと考えられる。

正倉院南濠については、その南辺を東西約15mに渡って検出した。北壁を拡張した箇所において、濠幅を確認している。幅は検出面で約2.7m、深さ約1.1m、断面逆台形に掘られた底の幅は約0.9mを測る。なお、南濠における過去の調査成果によると、東部と西部の敷地内側に、幅1m程度の浅い段が付くことが知られている（久米高畠31次・32次、『年報IX』）。今回検出された濠幅の北辺を示す掘り込みの縁の高さが、南辺の掘り込み位置に比べておよそ25cm低い点は、この段差と関係があると考えられる。土層の堆積状況は大きく3つに区分される。下部には、敷地の外側からの流れ込みの要素が大きい比較的黒色の度合いが強い土層が堆積している。中程は、敷地内側から流れ込んだ、部分的に黄色地山や礫を多く含む細かな堆積層によって構成される。この土層の存在が土壘等の存在を示

久米高畠遺跡65次調査地

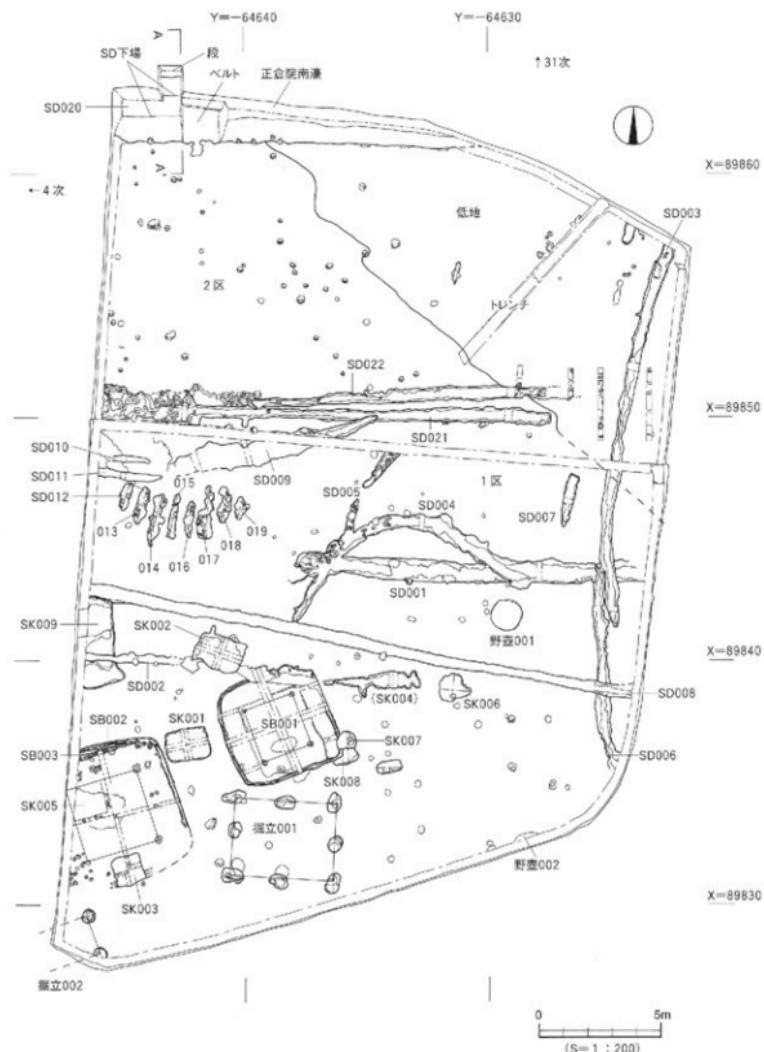


図2 遺構配置図

久米高畠遺跡65次調査地



図3 正倉院

すものであるのか明らかにはなっていない。一方、上部は、拳大の縁と弥生土器を多く含む灰褐色土で埋まっている。濠からは、従来の他の地点と同様、9世紀末から10世紀前半ころの土師器の壺が少量出土している。（橋本）

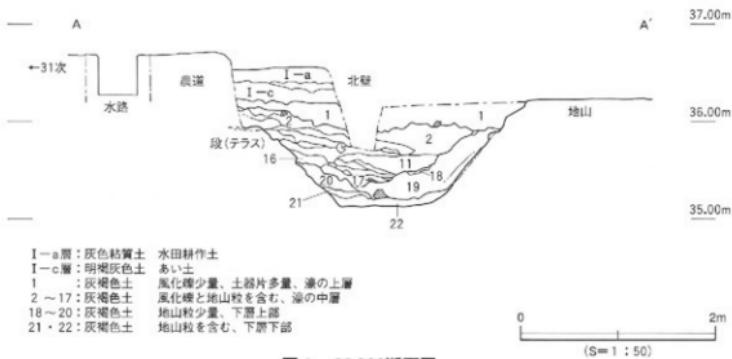


図4 SD020断面図



写真1 正倉院南濠（西より）

く め たかばたけ
久米高畠遺跡66次調査地

所在地 松山市来住町1147番
 期間 平成17年10月17日～同年12月28日
 面積 約300m²
 担当 田城武志、栗田茂敏、吉岡和哉

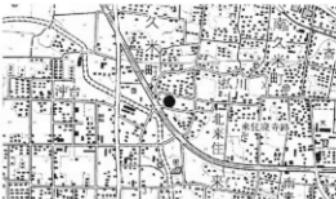


圖 1 調查地位置圖

経過 調査地は「史跡久米官衙遺跡群」を構成する役所施設のひとつである正倉院の南側、約20m離れた場所に位置している。調査地の周辺には史跡やそれに関連する遺跡および、弥生時代から古墳時代にかけての土坑及び堅穴式住居址等が多く分布する。松山市教育委員会は史跡の近隣における重要遺跡を確認するために発掘調査を計画し、また調査を効率的に遂行するために財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターと委託契約を交わした。調査は当初、平成17年10月中旬から2ヶ月間の予定で行ったが、現地説明会を開催する日程等の都合より12月末まで実施する結果となった。

遺構・遺物 今回の調査で確認した遺構は、竪穴式住居址（SB）3基、掘立柱建物跡（掘立）1棟、土坑（SK）32基、溝状遺構（SD）4条、柱穴（SP）121基、性格不明遺構（SX）2基である。古墳時代後期の遺構にはSB 2および一部の柱穴、古墳時代末～古代に属する遺構には掘立1、SD 1・2、一部の柱穴などがあり、その他大半の遺構は弥生時代前中期～中期あるいは弥生時代後期に属すると考えられる。以下、主な遺構について記述する。

【SB 1】床面に周壁溝を有する方形の竪穴式住居址で、SB 2 よりも旧くまたSK 8 よりも新しい時期の建物であることが判明している。出土遺物には弥生時代中期～後期の土器片がある。

【SB 2】規模は南北方向の長さが7.4m以上で、検出面からの深さが10~20cmを測る。出土遺物には弥生土器、須恵器、石器などがあり、特に砥石の出土が多い。

【SB 3】方形の堅穴式住居址で、住居址の規模は一辺約3.7～4.2mを測る。周隙溝の状況や土層の堆積状況等より、旧い住居址の柱穴（柱）を引き続いて利用しながら居住域の改変が行われた可能性が高い。また改変後の住居址床面より焼土と共に、強い熱を受けた粘土塊および少量の炭化物が出土した。出土遺物には弥生土器、石廻工、土製鍛錬車などがある。

【掘立1】久米高畠遭跡62次調査地で確認した掘立002と一連の遺構であり、3間×3間（東西棟）の建物であることが確定した。出土遺物には弥生土器の小片がある。

【SD1・SD2】SK21の表層に混入する須恵器やSK17上面を覆う埋土、須恵器の存在より、本来は東西方向にのびていたと考えられる。その方向から考えて宮衛と闕沖をもつた遺構である可能性が高い。

【SK21】床面のレベルが安定しない不整形の土坑で、内部より多くの弥生土器の破片および石器片が出土していることから廃棄土坑である可能性が高い。

小 結 史跡の近隣における重要遺跡の確認調査を実施した結果、弥生時代前期末～中期の土坑群及び弥生時代後期の住居址を検出し、また古墳時代後期の住居址や古代以前の掘立柱建物跡、古代の溝状遺構などを部分的に確認することができた。（吉岡）

久米高畠遺跡66次調査地



図2 遺構配置図

きしはいじ
来住廃寺32次調査地

所在地 松山市来住町850の一部
 期 間 平成17年10月3日～同年12月27日
 面 積 約200m²
 担 当 岸見泰宏・大庭美鈴（文化財課）

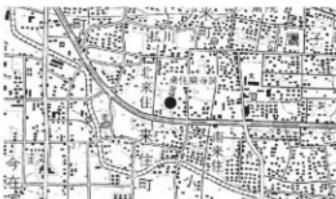


図1 調査地位位置図

経過 本調査は、史跡久米官衙遺跡群の整備・公開・活用に向けた計画策定にあたっての基礎資料を得るために実施した。調査地は来住廃寺塔基壇跡と呼ばれている箇所で、これまで2度の確認調査が行われたが、礎石配置、基壇規模等が不確定であった。そこで、本調査では基壇本体の全面を検出し、これらの問題の解決を図ることとした。

遺構 【基壇】基壇は、目の粗い黄色土（地山由來）と黒色土（弥生～古墳時代の包含層由來）を5～6層積み重ねた版築によって構築されており、弥生～古墳時代の包含層上面に直接構築されている。版築の厚さは最大90cm程度であった。礎石はこれまでの調査で確認されている8石のうち7石を再確認した。礎石はNa14を除き全て現位置を保っている。また、3箇所で根石の配置を確認し、2箇所で抜取り痕を検出した。また、3箇所で根石の一部と考えられる川原石を検出した。これらの成果から礎石配置は身舎2間×3間、庇4間×5間の建物に復元できる（表1参照）。

基壇北西部では端部を北方向にそろえて重なった状態で瓦が出土した。これらの埋土は基壇とは異なり、上下の瓦同士に隙間が開くことから、瓦積基壇外装の崩落したものと考えられる。また、瓦積の下部には川原石が並んで出土しており、瓦積の基礎である可能性もある。この北側約90cmの箇所では、基壇東西軸と並行する溝（SD01）を確認した。幅は50～80cmで、深さは5cm程度しか残存していない。埋土には粒状になった土器や磨耗した瓦の小片が大量に含まれている。雨落ち溝である可能性があるが、断定することは困難である。瓦積及びSD01の出土状況から、表1の通りの基壇規模が復元できる。

	実測数値	高麗尺(35.6)	唐尺(29.7)
柱間（身舎）	193	5.4	6.5
柱間（庇）	252.5	7.1	8.5
梁行	891	25	30
桁行	1084	30.4	36.5
高さ	90	2.55	3
基壇規模（東西）	1304	36.6	43.9
基壇規模（南北）	1111	31.2	37.4
軒の出（雨落中輪）	84	2.4	2.8

表1 基壇計測表（単位はcm、尺）

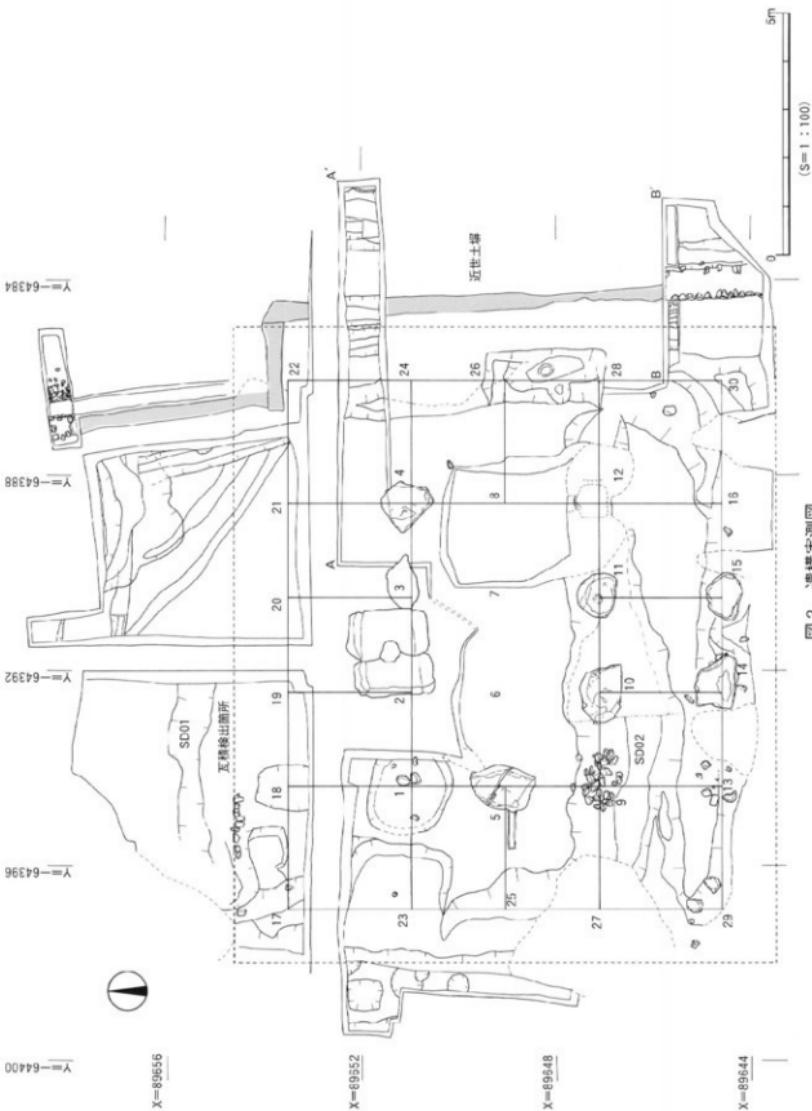


図2 遺構実測図



図3 瓦積出土状況実測図及び土層断面図

【溝状造構SD02】身合南面の礎石配置に並行するように東西方向に掘削されている。溝は基壇を東西に貫いており、検出長は10.5mを測る。幅は最大で2.4m、深さは53cmである。埋土からは近世の遺物が出土しないことや、中世の銅鏡（永楽通宝など）が出土していることから、中世に掘削されたと考えられる。

【近世土塙・造成土】

基壇北半と東半には、砂岩塊を含む黄褐色土が厚く堆積しており、厚さは最大1.5mを測る。黄褐色土の直下からは19世紀中頃までの陶器が多量に出土しており、江戸末期以降に盛られたことがわかる。基壇東部では、この黄褐色土によって埋められた状態で、土塙本体と基礎が出土した。土塙内部には、近世瓦と古代の瓦が多数埋め込まれており、高さ約1.2mが残存していた。この土塙の兩落ち溝は基壇東面から約20cm東側に位置しており、地山に達する深さまで掘削されている。なお塔露盤石はこの造成土の上に載っており、基壇に伴うものではないことが改めて確認された。

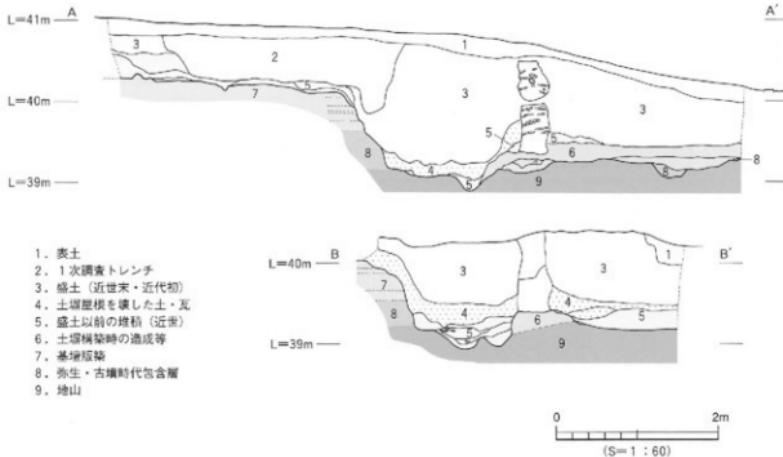


図4 土壌土層断面図

【軒丸瓦A種】調査区全体から多量の近世瓦と古代瓦が出土した。また、弥生土器、石器、須恵器、土師器、近世陶磁器等が出土している。特筆すべき遺物として、新形式の軒丸瓦が2種類出土した。軒丸瓦A種は、有子葉單弁八葉蓮華紋を内区に配し、「×」と「！」を交互に組み合わせた紋様帶を外区に配する。紋様はすべて凸線で表現される。丸瓦は外縁から約2cmの位置に取り付けられ、瓦当裏面外縁を周堤状に突出させる個体もある。瓦当面径は17cmとやや小振りである。

【軒丸瓦B種】複弁七葉蓮華紋を内区に配し、外区紋様は持たない。蓮弁、間弁は立体感に富み、弁端が強く反転する。双方共に細長く先端は丸くなる。技法上では、瓦当裏面の丸瓦取り付け位置に棒状工具によって溝を彫ったのち丸瓦を取り付けるものや、瓦当裏面中央部が凸レンズ状に膨らむ個体が確認されている。丸瓦取り付け位置は高く、丸瓦凹面の補充粘土が薄い。瓦当面径は19.5cmと大振りである。

【まとめ】今回確認された建物の礎石配置は、2間×3間で四面底を持つ建物であり、金堂と考えられる。基境外装は瓦積基壠である可能性が高い。中・近世にかく乱を受け、端部はごく一部しか残存していないとはいえ、検出された礎石のほぼ全てが現位置を保っており、建物方位は真北方向を探る。遺物については、2種の軒丸瓦が新たに出土した。A種は類似する瓦当紋様を持つ瓦が他で確認されていないことから慎重な判断が必要であるが、周堤造りを呈することから川原寺造営以降で藤原宮期以前までの時期に納まる可能性がある。B種についても、断面形状が凸レンズ状を呈する個体があることや丸瓦取り付け位置が高い点から、藤原宮期以降に位置づけることは難しい。B種は今回の調査では法隆寺式軒丸瓦よりも多く出土していることから、創建瓦の一部である可能性が高い。

今回の調査で塔ではなく金堂跡であることが確認されたことによって、伽藍配置や中心伽藍の規模等を再検討する必要が生まれた。今後の調査の中で検討していきたい。(岸見)



写真1 軒丸瓦A種出土状況（北東より）



写真2 軒丸瓦B種出土状況（南西より）



写真3 磁石配置状況（南より）



写真4 瓦積出土状況（北より）

松山市埋蔵文化財調査報告書

この度、松山市埋蔵文化財調査報告書として、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表する。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。

II 平成17年度 松山市埋蔵文化財調査関係資料

この度、松山市埋蔵文化財調査報告書として、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表する。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。

この度、松山市埋蔵文化財調査報告書として、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表する。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。

この度、松山市埋蔵文化財調査報告書として、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表する。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。

この度、松山市埋蔵文化財調査報告書として、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表する。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。

この度、松山市埋蔵文化財調査報告書として、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表する。本報告書は、松山市埋蔵文化財調査報告書の調査結果を公表するものである。

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例 言

1. 本編は、松山市教育委員会文化財課・財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査及び本発掘調査資料である。
2. 埋蔵文化財確認調査は平成17年度（申請番号1～292号）、平成17年4月1日～平成18年3月31日受付迄の資料を取り扱う。なお、平成16年度以前の資料については、『埋蔵文化財調査年報』～X（昭和60～平成9年度）、同年報11～17（平成10～16年度）』を参照されたい。
3. 資料作成（一覧表・付録図）は、高尾和長、武正良浩、國田克彦、大庭美鈴、堀眞也、戸川安子、山口由浩、浅井茂之が行った。
4. 表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本発掘調査については、平成17年度に行った調査を取り扱う。
5. 付録図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用し、7万5千分の1の縮尺で記載した。
6. 一覧の略記について
①標高：地表面、（ ）は調査地内平均値。②調査目的：公＝施主公共団体、私＝施主一般。
③調査方法：空白は未調査等。④緊急：記録保存を目的とした調査。国補：国庫補助事業調査。

埋蔵文化財の保護について

文化財は、わが国の歴史・文化等を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上、発展の基礎をなすものです。それら文化財の保存・活用による国民の文化的向上を目的として昭和25年に制定された文化財保護法には、国民の心構えとして、「政府及び地方公共団体がこの目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない」こと、「文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、その文化的活用に努めなければならない」ことが記されています。また同時に政府及び地方公共団体は、関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならないこととなっています。

●周知の埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等届出および確認調査について

埋蔵文化財包蔵地とは、貝塚、古墳、城跡等はもとより、土器片等の地表面での散布が認められる場所（散布地）、並びに土中での包含が認められる場所（包含地）をいいます。

埋蔵文化財は、遺物等の他の文化財と違って土に地下に存在するため、土木工事等による破壊を免れない場合があります。そのため、地図1に示された「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事等を行なう場合は、60日前までに愛媛県教育委員会への届出が義務付けられています。また、その届出に伴い埋蔵文化財の有無を確認するための調査（踏査、試掘等）を行いますので、土木工事等の計画がある場合は事前に松山市教育委員会文化財課へご相談ください。

註1. 地図（松山市埋蔵文化財包蔵地図）は、文化財課にて配布しております。

松山市域包蔵地

1 お稲荷さん古墳	2 天の神様古墳	3 じんうわ古墳	4 大池古墳
5 衛手洗遺跡	6 あさ子谷山古墳	7 砥波古墳	8 せいじ坊古墳
9 のぼりを山古墳	10 片桐遺跡 太寺山古墳群	片桐古墳群 素鷦神社	
11 不鳳呂町遺物包含地・古墳群	岩木山古墳群	12 和気支所遺物包含地	13 高山遺跡
14 梅津寺古墳群	15 三光田地遺跡	16 新ヶ谷古墳群 北山古墳群	17 東山町古墳群
18 久万ノ台古墳群・遺物包含地		19 衣山遺跡 衣山古墳群B 東仙寺古墳群	
20 木塚古墳	21 衣山古墳群 うまや古墳・遺物包含地		22 山西遺物包含地
23 忽那山古墳群	24 弁天山古墳群 鶴崎遺物包含地		25 生石八幡神社古墳群
26 南斎院遺跡	27 津山古墳群 遺物包含地	28 八反地遺跡	29 北斎院遺物包含地
30 -①御座所古墳群①	30 -②御座所古墳群②	31 岩子山遺跡・古墳群	

32 大峰ヶ台遺跡A、大峰ヶ台古墳群A	33 大峰ヶ台遺跡B、大峰ヶ台古墳群B
34 萩美町遺跡	35 古瀬遺跡
38 北谷・権現山遺物包含地・古墳群	39 ろうそく山古墳
41 漢原古墳群・遺物包含地	42 久保山古墳
45 姫原古墳群	46 長建寺古墳
49 長谷遺跡	50 祝谷古墳群
53 土居の段遺物包含地	54 常徳寺山古墳群
57 下居座遺物包含地	58 桜谷古墳群
61 義安寺遺物包含地	62 石手寺古墳群
65 水庭谷古墳群	66 満吉古墳群
68 今市遺物包含地	69 水口遺跡
72 桑山町遺物包含地	73 堀之内遺物包含地
76 湯山古墳	77 銀塚古墳
80 東野池古墳群	81 桜味遺物包含地
84 經石山古墳	85 三島神社古墳跡
88 桑原古墳群	89 芝ヶ崎古墳群
91 久米山田池遺物包含地・古墳群	92 たんち山古墳
94 大池古墳群	95 大門遺物包含地・古墳群
98 かないな古墳群	99 平井谷古墳群
101 親音山古墳群・親音山遺物包含地・鹿寺跡	102 駄馬窟跡群
104 上居瀬池古墳群	105 潤見山古墳群・愛宕山古墳・山越古墳
107 濁河深古墳群	108 中村町遺跡
111 小坂五丁目遺物包含地	112 天山町遺物包含地
115 上亀山墳墓群	116 川村遺物包含地
119 西石井遺物包含地	120 屋井遺物包含地
123 武勇神社古墳	124 北久米遺物包含地
127 末庄庵寺跡	128 鳳ノ子遺物包含地①
131 久米畠田遺物包含地	132 中ノ子庵寺遺物包含地
135 高尾山古墳群	136 遺物包含地
137 南ヶ丘遺跡・古墳群	138 八塚古墳群
141 佐原城跡	142 水泥遺物包含地
145 長生池の上遺物包含地	146 夫婦池の上遺物包含地
149 津吉上古墳群	150 北谷窓跡
153 道後公園遺物包含地	154 久枝遺物包含地
157 桑原遺物包含地	158 北上居墳墓
161 中村二丁目遺物包含地	162 霊薙神社往遺物包含地
164 土用池の上遺物包含地・新浜池の上遺物包含地	163 南中学校遺物包含地
167 久ノ台遺物包含地	168 姫原遺物包含地
170 -②権現遺物包含地②	170 -③後醍醐遺物包含地③
173 大瀬遺跡	174 明沢城跡
177 花見山(楓角)城跡	178 清水山(港山)城跡
181 奥の城(城山さん)	182 形山城跡
185 菖蒲城跡(城ヶ台)	186 重松城跡
189 高井城跡	190 高山城跡
193 新堀(縫針)城跡	194 百之谷城跡
197 森の城(古野森城)跡	198 義安寺跡跡
201 親音山	202 松木館跡
205 仙波跡跡	206 横山城跡
36 正永遺跡	37 南江戸町遺跡
39 ろうそく山古墳	40 堂ヶ谷古墳
43 沢ノ谷古墳	44 みのこじ遺跡
47 横谷丸塚古墳	48 神幸寺山古墳
51 山田池(祝谷)遺物包含地	52 鶴戸風林古墳群
55 北代遺物包含地	56 紫竹遺物包含地
59 桜谷本郷古墳	60 冠山遺跡
63 石手寺古墳第1号	64 石手寺古墳第2号
67 文京遺跡(櫻又遺跡・元練兵場遺物包含地)	71 上器棚(かみけいとう)遺物包含地
70 通町遺物包含地	75 寺山古墳
74 松山城跡・城ノ内古墳群	79 お茶屋台古墳群
78 東野古墳群	83 枝松遺物包含地
82 東木遺物包含地	87 知守古墳群
86 赤坂古墳	93 鷹ノ子古墳・五郎兵衛谷古墳
97 今吉古墳群	103 烏越古墳
106 明神ケ森古墳群	110 爹ノ口遺跡
114 松木遺物包含地	118 東山古墳群・遺物包含地
122 星ノ岡古墳群・遺物包含地	126 高畠遺物包含地
130 単ヶ森千人塚古墳	134 浮穴小学校遺物包含地
136 ドンダ原坂古墳群	139 西野古墳群
140 松ヶ谷古墳群	143 可祖遺物包含地
144 矢谷古墳群	148 伴吉古墳群
152 平井遺物包含地	156 北斎院遺物包含地
160 山越遺物包含地	166 北極木遺物包含地
166 北極木遺物包含地	170 -①権現遺物包含地①
172 竹が谷遺跡	176 上居城跡
177 蔔葛城跡	180 大友(大和)城跡
184 菊ヶ森城跡	188 新(真)城跡
192 耐の(忍)城跡	196 松船城跡
200 鶴山城跡	204 賀牛(加名山)城跡

北条地区包蔵地

1 名石古墳	2 丸山古墳	3 高山古墳	4 家の谷古墳	5 打越A古墳	6 打越B古墳
7 離波奥谷古墳（県指定文化財）	8 小坂古墳	9 小原古墳	10 同の上古墳	11 萩尾古墳群	16 新城古墳群
12 宮内馬場古墳	13 辻の内古墳群	14 才の谷古墳	15 鶴王比光命神社古墳	21 夏狩遺跡	22 池の奥遺跡
17 駒徳寺山谷古墳群	18 釋佐古遺跡	19 女夫池遺跡	20 棚が内遺跡	27 天狗谷古墳群	
23 安養寺遺跡	24 垣の内遺跡	25 常竹大谷古墳群	26 速台寺跡	27 天狗谷古墳群	
28 南宮の戸貝塚（市指定文化財）	29 大遊寺古墳群	30 波雨神田古墳群	31 地蔵堂古墳群	32 別府遺跡包蔵地	
33 夏口古墳群	34 榛之原古墳群	35 明見神社古墳群	36 七森ボ山古墳群	37 宇佐八幡神社古墳	
38 上難波古墳群	39 上難波箱式石棺墓	40 下難波古墳群	41 小山田古墳群	42 小山田遺跡	
43 浦田箱式石棺群	44 浦田（烏谷池）遺跡	45 善応寺跡	46 日浦経塚	47 マス池遺跡	48 前田池遺跡
49 恵良山遺跡	50 萬葉谷遺跡	51 榛之原山遺跡	52 高山遺跡	53 片山池遺跡	54 常竹遺跡
55 老僧庵遺跡	56 西久保遺跡	57 平山池遺跡	58 二ヶ谷山遺跡	59 大成遺跡	60 陣屋遺跡
61 平原遺跡	62 上居遺跡	63 稲原堂遺跡	64 上竹遺跡	65 神田遺跡	66 八竹山遺跡
67 善応寺遺跡	68 東禅寺遺跡	69 河野御跡	70 米烏一族宝印塔	71 福性寺跡	72 ~77 「久」
78 山の神古場跡（市指定文化財）	79 犀大師境内（-八人塚）（市指定文化財）	80 「久」	81 和田池遺跡	84 サオ池遺跡	85 阿部ヶ谷池遺跡
81 茶臼権現遺跡（市指定文化財）	82 河原池遺跡	83 和田池遺跡	84 サオ池遺跡	85 阿部ヶ谷池遺跡	
86 秋原遺跡	87 鹿島遺跡	88 羅折山東遺跡	89 上難波奥遺跡	90 上難波奥弥生墳墓	
91 安養寺谷（新酒池）遺跡	92 「久」	93 恵良城跡（県指定文化財）	94 施島城跡		
95 十二台（神途）城跡	96 高穴城跡	97 宅並城跡	98 日高山城跡	99 桜山城跡（県指定文化財）	
100 浅海城跡	101 雄申城跡	102 鹿根山城跡	103 須保木城跡	104 十九地山城跡	105 桂尾城跡
106 雄申城跡	107 丸山城跡	108 長正寺遺跡	109 新日高城跡	110 高子山城跡	111 旗樂寺遺跡
112 高麗城跡	113 犀折山城跡	114 新城山城跡	115 神途城跡	116 新高手山城跡	117 朝ノ森城跡
118 名石城跡	119 桑尾城跡	120 丸ケ城跡	121 波妻城跡	122 小新城野跡	123 八舟山城跡
124 栗井坂遺跡	125 古日高城跡	126 鹿島神社前遺跡	127 依原池遺跡	128 エギ谷古墳	129 善応寺駐地遺跡

中島地区包蔵地

1 城の台砦跡	2 河野様積石造構	3 野忽那立場墳墓群	4 丸山古墳（市指定文化財）	
5 梅の子島砦跡（市指定文化財）	6 梅の子遺跡	7 梅の子本城跡（市指定文化財）	8 中島東井坂遺跡	
9 吉木遺跡	10 神浦神社遺跡	11 宮野神社遺跡	12 宮野櫻堤山古墳	13 小長郎古墳
15 大瀧仙田遺跡	16 大瀧さこの奥遺跡	17 泰山堂山遺跡	18 泰山城跡（市指定文化財）	19 むかい山遺跡
20 泊古墳跡	21 照田城の山遺跡	22 大串古墳群	23 濱木戸古墳	24 かがり山1号墳
26 中山古墳（市指定文化財）	27 五本松遺跡	28 宮浦西遺跡	29 宮浦遺跡	30 竹の浦遺跡
31 竹の浦西遺跡	32 泊跡	33 二神社墓地遺跡	34 二神城の山1号墳	35 由利島遺跡
37 由利島長者屋敷遺跡	38 刺場ヶ嶽城跡	39 長崎道跡	40 九多尾城跡（市指定文化財）	36 由利島大谷遺跡
41 本山城跡（市指定文化財）	42 竹の上城跡	43 黒岩城跡	44 高木佐渡守館跡	45 旗山城跡
46 泊城跡	47 旗殿砦跡	48 元怒和寺の下遺跡		

表1 平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(1)

No	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
1	衣山2丁目	452.89	24.9	No20	私	試掘			
2	北斎院町	765.65	8.6	No29	私	試掘			
3	道後北代	1,272.48	32.9	No55-56-57	私	試掘			
4	占三津3丁目	133.66	10.1	No19	私	試掘			
5	朝日ヶ丘2丁目	336.41	38.6	No33	私	試掘			
6	姫原2丁目	310.83	21.6	No168	私	試掘			
7	北斎院町	974.88	80	No29	私	試掘			
8	末住町	330.00	40.3	No127	私	試掘			
9	平井町甲	173.39	57.3	No152	私	試掘			
10	西石井5丁目	995.07	20.5	No119	私	試掘			
11	祝谷4丁目	635.68	40.3	No55-56-57	私	試掘			
12	桑原6丁目	766.45	31.7	No83	私	試掘			
13	桑原5丁目	650.29	34.5	No82	私	試掘			
14	小坂2丁目	173.21	29.2	No110	私	試掘			
15	通寺4丁目10番1外9筆	8,253.00		No88	公				
16	平井町	862.57	69.7	No80	私	試掘			
17	桜味2丁目	185.12	42.7	No81	私	試掘			
18	桜味2丁目	138.00	40.3	No81	私	試掘			
19	谷町	231.92	14.6	No41	私	試掘			
20	木屋町	198.34	22.3	No67	私	試掘			
21	北条560番1の一部外	1,416.86	22.1	包蔵地外	公				
22	北久米町	255.61	35.5	No126	私	試掘			
23	西石井6丁目	138.07	21.1	No119	私	試掘			
24	郷原1丁目	188.41	27.5	No168	私	試掘			
25	南久米町	239.01	36.9	No126	私				H115-172 試掘 未調査部分意見書
26	鷹子町	348.70	45.9	No129	私	試掘			
27	道後湯月町甲1651番地外	300.00	45.8	包蔵地外	公	試掘			
28	南久米町	189.28	39.9	No127	私	試掘			
29	鷹子町	652.07	44.5	No129	私	試掘			
30	北久米町	122.67	31.9	No124	私	試掘			
31	久万ノ台	380.52	19.6	No20	私	試掘			
32	平井町甲	165.39	59.5	No152	私	試掘			
33	七手内16番9外	4,900.00	2.5	包蔵地外	公	試掘			
34-①	小坂2丁目210番1外	3,000.00	29.6	No110	公	試掘			
34-②	小坂2丁目210番1外		30	No110	公	試掘			
35	平井町甲	195.10	47.7	No90	私	試掘			

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(2)

No.	所在地	面積(nD)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
36	北土居町	4.83	28.2	No120	私	既済			H11-303-H13-156 H16-234 試掘
37	祝谷2丁目	131.77	35.6	No55-56-57	私	試掘			
38	鷹子町乙	5,065.00		No94	私	踏査			
39	平井町甲	136.00	21.8	No152	私	試掘			
40	北瀬院町	662.00	11.1	No35	私	試掘			
41	平井町甲	994.28	63.5	No152	私				H16-202 試掘 未調査部分見書き
42	桑原2丁目	139.15	37.9	No82	私	試掘			
43	北瀬院町	266.15	9.9	No156	私	既済			H16-147 試掘
44	道後一萬	149.04	33.4	No68	私	試掘			
45	来住町	284.00	40.9	No127	私	試掘			
46	北井門町	2,154.00	23.5	No120	私	試掘			
47	道後今市	1,547.33	32.2	No68	私	試掘			
48	祝谷2丁目	138.84	34.7	No55-56-57	私	試掘			
49	桑原7丁目	319.11	31.2	No85	私	試掘			
50	道後善多町	112.39	35	No68	私	試掘			
51	山西町	2,490.00	10.7	No21	私	試掘			
52	祝谷5丁目	239.03	49.9	No55-56-57	私	試掘			
53	道後一萬	186.33	33	No68	私	試掘			
54	桑原7丁目	123.01	32.4	No85	私	試掘			
55	北梅木町	568.39	115.9	No166	私	試掘			
56	小坂2丁目	192.71	29.8	No110	私	既済			H10-107 試掘
57	小坂2丁目	259.59	29.9	No110	私	試掘			
58	西行井6丁目	956.00	21.4	No119	私	試掘			
59	愛光町	116.58	14.8	No34	私	試掘			
60	福音寺町	1,464.93	23.5	No116	私	既済			H16-44 試掘
61	平井町甲	243.03	47.7	No131	私	試掘			
62	小坂4丁目	258.58	25.3	No110	私	試掘			
63	朝生田町3丁目	204.15	18.5	No109	私	試掘			
64	小坂4丁目	245.95	26.2	No110	私	試掘			
65	桑原2丁目	456.38	38.3	No157	私	試掘			
66	松山市長野817番地	6,814.20	5.5	包蔵地外	公	試掘			
67	枝松4丁目	291.29	30.8	No83	私	試掘			
68	来住町895番地・895番地先	1.70	37.8	No127	公	既済			H16-251 試掘
69	平井町甲	750.95	63.3	No152	私	試掘			
70	南久次町352番地先～ 北久次町329番地先	160.60		No126	公				申請取り下げ
71	西石井5丁目	4.00	59.1	包蔵地外	私	既済			H11-296 試掘

(3)

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含物・遺構	遺物	備考
72	道後一万	174.28	33.4	No68	私	試掘			
73	煙寺町	133.29	161.4	No88	私	試掘			
74	桑原4丁目	182.96	38.7	No85	私	試掘			
75	北斎院町	206.72	8	No27	私	試掘			
76	麿子町	527.82	44.7	No91	私	試掘			
77	道後喜多町	339.04	34.6	No68	私	試掘			
78	麿子町	1,578.00	48.4	No129	私	試掘			
79	道後今市	167.76	31.8	No68	私	試掘			
80	山西町	1,049.00	2.5	No22	私	試掘			
81	小坂5丁目	605.51	22.83	No111	私				H14-88 試掘済 未調査部分意見書
82	麿子町	566.09	48.2	No129	私	試掘			
83	南土居町	836.22	36.6	No132	私	試掘			
84	水泥町	454.48	67.4	No142	私	試掘			
85	南上居町	935.04	40.4	No132	私	試掘			
86	桜谷6丁目	260.41	50.4	No55-56-57	私	試掘			
87	道後町2丁目	259.20	34	No68	私	試掘			
88	清水町2丁目	141.54	23.6	No67	私	試掘			
89	辻町	62.80	14.4	No34	私	試掘			
90	太山寺町中	490.00	3.7	No173	私	試掘			
91	東野5丁目中	708.00	57.9	No79	私	試掘			
92	山越2丁目中	132.26	49.9	No160	私	試掘			
93	小坂2丁目	278.00	27.4	No110	私	試掘			
94	高砂町1丁目	49.59	22.75	No67	私	試掘			
95	小坂4丁目	768.22	25	No110	私	試掘			
96	天山1丁目	112.02	21.6	No117	私	試掘			
97	麿子町	359.52	48.4	No129	私	既坑			H17-78-82 試掘済
98	久米塙田町	341.76	45.6	No129	私	試掘			
99	東石井6丁目	744.99	22.1	No119	私	試掘			
100	麿子町	579.20	45.7	No129	私	試掘			
101	天山2丁目	188.84	27	No117	私	試掘			
102	別府町	445.16	4.6	No30-1	私	試掘			
103	衣山	478.55	24.4	No20	私	試掘			
104	山越1丁目	208.31	18.4	No160	私	試掘			
105	桜谷2丁目	357.00	35	No55-56-57	私	試掘			
106	麿子町	841.84	44.4	No129	私	試掘			
107	辻町	214.91	15.6	No34	私	試掘			

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(4)

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
108	山西町	1,024.00	3.7	No.22	私	試掘			
109	大山町	613.86	22.9	No.112 No.117	私	試掘			
110	柿味4丁目	120.30	42.7	No.81	私	既済			H16-25 試掘済
111	祝谷4丁目	1,500.00	48.95	No.55-56-57	私	試掘			
112	中村2丁目	198.60	26.4	No.162	私	既済			H16-348 試掘済
113	善応寺甲107番1地先 外	496.50		包蔵地外	公				
114	善応寺甲62番地先 外	671.50		包蔵地外	公				
115	善応寺甲425番地先 外	470.80		包蔵地外	公				
116	善応寺甲1180番3地先 外	547.00		包蔵地外	公				
117	善応寺甲1228番1地先 外	417.70		(北条地区) No.31	公				
118	西石井2丁目	923.00	19.7	No.118	私	試掘			
119	来住町	1,297.56	35.3	No.127	私	試掘			
120	佐古甲408番1地先 外	637.50		包蔵地外	公				
121	佐古	665.90		包蔵地外	公				
122	佐古乙60番5地先 外	648.00		包蔵地外	公				
123	佐古乙61番1地先 外	655.80		包蔵地外	公				
124	佐古	59.30		包蔵地外	公				
125	祝谷5丁目	154.87	45.68	No.55-56-57	私	試掘			
126	南梅本町甲773番-774番1-774番2- 776番2-801番-802番-803番-804番	2,817.00	69.4	包蔵地外	公	試掘			
127	来住町	581.74	41.1	No.127	私	試掘			
128	平井町甲	459.84	85.7	No.90	私	試掘			
129	煙寺3丁目	1,476.00	32.7	No.85	私	試掘			
130	小坂3丁目	697.10	27.4	No.110	私	試掘			
131	西石井6丁目	703.27	21.4	No.119	私	既済			H17-58 試掘済
132	水蛇町	172.55	49.5	No.131	私	試掘			
133	来住町	134.16	37.6	No.127	私	試掘			
134	枝松3丁目	1,540.00	32.6	No.83	私	試掘			
135	枝松3丁目	917.82	32.7	No.83	私	試掘			
136	船ヶ谷町	186.88	21.5	No.17	私	試掘			
137	道後今市	227.90	32.3	No.68	私	試掘			
138	吉藤5丁目	609.79	40.2	No.41	私	試掘			
139	小坂5丁目	1,160.70	23.4	No.111	私	試掘			
140	鷹子町	180.77	48.5	No.129	私	試掘			
141	久米塙出町	508.03	46.7	No.129	私	試掘			
142	南久米町	98.28	39.9	No.127	私	既済			H17-28 試掘済
143	祝谷6丁目	1,696.24	68.2	No.49 No.51	私	試掘			

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(5)

No	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
144	黒河町	353.00	28.1	No116	私	試掘			
145	南上居町	991.00	37.8	No132	私	試掘			
146	錦町1丁目	121.51	28.4	No74	私	試掘			
147	北久米町	535.47	31.9	No126	私	試掘			
148	鹿子町	290.47	45.21	No129	私	試掘			H15-331 試掘済 未調査部分意見書
149	道後今市	284.28	32	No68	私	試掘			
150	平井町甲	558.42	76.4	No90	私	試掘			
151	廣子町	104.36	42.9	No128	私	既済			H16-342 試掘済
152	山西町903番4番地～ 山西町983番地先	301.40		No22	公	既済			意見書
153	南久米町 南久米町乙	942.06	52	No91	私	既済			H14-16 試掘済
154	平井町甲	1,088.69	68.7	No90	私	試掘			
155	小坂5丁目	1,321.50	25.4	No111	私	試掘			
156	西石井5丁目	233.95		No119	私				H16-219一部調査済
157	若草町3番6先	58.20		包蔵地外	公				意見書
158	南江戸5丁目	197.03	13.4	No35	私	試掘			
159	西石井6丁目	823.51	22.1	No119	私	試掘			
160	南江戸5丁目	690.74	14.1	No34	私	試掘			
161	道後橋又	331.02	29.7	No67	私	試掘			
162	今在家2丁目	311.92	31.3	No125	私	試掘			
163	山西町	1,701.13	2.3	No22	私	既済			H13-85・H14-242- H16-300 試掘済
164	米住町	550.65	40.9	No127	私	既済			H17-127 試掘済
165	沢谷町1丁目乙	347.54	61.3	No53	私	試掘			
166	桑原7丁目	343.00	32.3	No85	私	試掘			
167	柳味4丁目	2,238.00	40.4	No81	私	試掘			
168	逆後音多町	339.04	34.4	No68	私	既済			H17-77 試掘済
169	煙寺町824番地先～ 煙寺町238-134番地先	646.00	56.3	包蔵地外	公	立会			
170	煙寺町238-134番地先～ 8番地先	612.00	56.3	包蔵地外	公	立会			
171	煙寺町235番地～ 煙寺町826番地	273.40	56.3	包蔵地外	公	立会			
172	北梅本町甲	232.73	76.4	No107	私	試掘			
173	新浜町	412.30	5.5	No11	私	試掘			
174	久米桜田町	137.62	45.7	No129	私	試掘			
175	久谷町甲	316.74		No71	私				
176	祝谷2丁目	210.11	47.6	No55-56-57	私	試掘			
177	桑原4丁目	156.05	36.7	No85	私	試掘			
178	東石井5丁目	223.37	22.1	No119	私	試掘			
179	北斎院町	156.71	7.9	No27	私	試掘			

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(6)

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
180	東石井6丁目	744.99	22.1	No.119	私	既済			H17-99 試掘済
181	平井町甲	315.79	69.7	No.90	私	試掘			
182	小坂2丁目	255.26	29.7	No.90	私	試掘			
183	北斎院町	430.55	8.6	No.29	私	試掘			
184	小坂3丁目	278.53	27.4	No.110	私	既済			H17-93 試掘済
185	桑原2丁目	268.31	39.1	No.157	私	既済			H16-233 試掘済
186	南久米町	98.24	39.7	No.127	私	既済			H17-28 試掘済
187	平井町甲	14.61	60.9	No.95	私	試掘			
188	鷹子町	896.24	44.2	No.129	私				H17-105 試掘済 未調査部分立見書
189	南久米町701番5地先	26.40		No.127	公	既済			H13-296 試掘済
190	鷹原1丁目乙	25.00	70.2	No.45	私	試掘			
191	小川乙	25.00	77.3	包蔵地外	私	試掘			
192	久米通出町	1,033.00	44.7	No.131	私	試掘			
193	東石井5丁目	2,516.00	21.3	No.119	私	試掘			
194	柳味4丁目	62.68	49.8	No.81	私				
195	畠寺2丁目	1,895.33	39.8	No.85	私	試掘			
196	北土居町	280.09	23.8	No.120	私	試掘			
197	鷹子町乙	330.58	78.1	No.94	私	試掘			
198	南江戸6丁目	154.00	45	No.32	私	試掘			
199	来住町	1,459.07	38.6	No.127	私	試掘			
200	南江戸5丁目	227.88	24	No.33	私	試掘			
201	祝谷2丁目	216.08	37.2	No.55-56-57	私	試掘			
202	北斎院町	165.84	9.1	No.29	私	試掘			
203	平井町甲	52.80	82.6	No.90	私	試掘			
204	朝生田町2丁目	165.51	19.1	No.109	私	試掘			
205	南久米町	194.73	38.8	No.127	私	既済			H16-363 調査済
206	南久米町	148.79	38.8	No.127	私	既済			H16-363 調査済
207	平井町∠185番4	2,952.00		No.97	公	踏査			
208	柳味2丁目86番2地先から正川寺1丁目341番1地先迄	378.10		No.81	公				
209	南斎院町乙	333.83		No.30-2	私	踏査			
210	太山寺町甲	1,039.96	4	No.173	私	試掘			
211	柳味4丁目	0.29		No.81	私				
212	久米通出町1130番5地先 外	86.50		No.128	公				
213	桑原4丁目	156.05	36.5	No.85	私	既済			H17-177 試掘済
214	道後善多町	100.83	34.8	No.68	私	既済			H17-50 試掘済
215	南久米町442番1・372番1 南久米町375番2・633番1先	350.00		No.126 No.127	公				意見書

(7)

No	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
216	東石井5丁目	768.92	21	No119	私	試掘			
217	桑原2丁目	37.90	38.9	No157	私	試掘			
218	南江戸5丁目1463番	1,380.87	24.2	No33	公	試掘			
219	大街道3丁目	4,140.00	37.8	No74	私	試掘			
220	桑原2丁目	266.21	39.1	No157	私	調査			H16-233 試掘済
221	小坂2丁目	1,030.27	29.1	No110	私	試掘			
222	道後極又	115.66	27	No67	私	試掘			
223	善光寺甲	2,734.00		(北条地区) No108	私	踏査			
224	道後町1万9番11地先② 道後町2丁目3番18地先①	63.20		②工区-No68 ③工区-包蔵地外	公				意見書
225	久米塙田町	357.98	46.3	No131	私	試掘			
226	北斎院町	76.04	10	No156	私	試掘			
227	平井町	38.47	72.2	No90	私	試掘			
228	東石井5丁目	468.10	21.7	No119	私	試掘			
229	猿川町295番1 猿川町甲296番の各一部	500.00		(北条地区) No29	公				
230	平井町甲	237.93		No131	私				意見書
231	久米塙田町	657.00	43.1	No128	私	試掘			
232	山越3丁目	137.31	22.2	No168	私	試掘			
233	鳶子町	1,483.27	48.2	No129	私	調査			H17-78・82 試掘済
234	祝谷3丁目	683.66	36.4	No55-56-57	私	試掘			
235	久万ノ台1749番1 久万ノ台公園	47.00		No167 一部包蔵池外	公	踏査			
236	久米塙田町	298.70		No128	公				H13-246・H14-136 試掘済
237	北斎院町	151.25	9.6	No156	私	試掘			
238	道後極又	833.00	27	No67	私	試掘			
239	平井町2349番1 外	7274	57.8	包蔵地外	公	試掘			
240	東野5丁目甲	432.28	59.2	No79	私	試掘			
241	南土居町	330.59	38.4	No132	私	試掘			
242	桑原7丁目	348.74	32	No85	私				H17-166 試掘済 未調査部分意見書
243	北斎院町	135.50	8.9	No29	私	試掘			
244	衣山2丁目	158.00	27.6	No20	私	試掘			
245	安城寺町	326.00	2.8	No12	私	試掘			
246	久米塙田町	1,038.88	44.7	No131	私				H17-192 試掘済 未調査部分意見書
247	道後今市	563.95	31.5	No68	私	試掘			
248	山越1丁目甲	198.80		No160	私				
249	柳原4丁目	829.00		No81	私				
250	桑原4丁目	170.37	38.2	No85	私	試掘			
251	小坂4丁目	329.38	25.4	No110	私	試掘			

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(8)

No	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
252	末住町237番・530番地先 南久米町631番地先	19.40		No127	公	試掘			意見書
253	桑原4丁目	236.79	38.6	No82	私	試掘			
254	小坂2丁目	224.73	28.9	No110	私	試掘			
255	森松町	204.78	34.8	No134	私	試掘			
256	恵原町印	803.00	57.3	No138	私	試掘			
257	由良町	102.70	31	No2	私	試掘			
258	久刀ノ台乙	5,229.39	11.6	No18	私	試掘			
259	来住町	13.81		No127	私	試掘			意見書
260	北久米町	965.56		No124	私	試掘			申請取り下げ 平成18年4月7日判明
261	瀬江戸町4丁目	1,192.00	10.7	No35	私	試掘			
262	烟寺3丁目	427.42	49.7	No87	私	試掘			
263	枝松3丁目	1,698.69	32.4	No83	私	既済			H17-134 試掘済
264	北久米町	303.32	29.5	No124	私	試掘			
265	小坂4丁目	300.00	49.7	No110	私	試掘			
266	衣山15丁目	433.30	30	No32	私	試掘			
267	柳味2丁目	75.67	42.8	No81	私	試掘			
268	椎現町印	214.94	26.5	No170-3	私	試掘			
269	小坂4丁目	1,678.00	27.5	No110	私	試掘			
270	鷹子町	147.76	44.3	No128	私	試掘			
271	樋ヶ丘	571.88	18.1	No17	私	試掘			
272	北条辻	1,933.00	2.1	包蔵地外	私	試掘			
273	今在家	572.38	30	No125	私	試掘			
274	道後喜多町	631.88	34	No68	私	試掘			
275	壹町6丁目100番	2,738.62	18.5	包蔵地外	公	試掘			
276	和田甲	515.80	11.6	(北高地区) No83	私	試掘			
277	東石井2丁目乙	216.99	25.8	No118	私	試掘			意見書
278	末住町	844.24		No127	私	試掘			意見書
279	今在家2丁目	503.00		No125	私	試掘			
280	小坂2丁目	90.84	29.2	No110	私	試掘			
281	南久米町	1,061.00		No126	私	試掘			
282	北久米町573番地先～ 北久米町538番2地先	14.60	31.7	No126	公	既済			H17-147 試掘済
283	清水町2丁目	737.58		No67	私				
284	今在家3丁目	312.35		No125	私				
285	東石井5丁目	864.76	20.9	No119	私	既済			H17-193 試掘済
286	立花6丁目	353.91	20.8	No109	私	試掘			
287	朝天2丁目	145.04		No34	私	試掘			

平成17年度松山市埋蔵文化財確認調査一覧

(9)

No.	所在地	面積(m ²)	標高(m)	包蔵地名	調査目的	調査方法	包含層・遺構	遺物	備考
288	中村3丁目	149.64	25.9	161	私	試掘			
289	辻町	976.00		34	私	試掘			
290	高岡町乙	24.00		26	私				
291	清水町2丁目	141.54	23.4	67	私	既済			H117-88 試掘済
292	獅子町	517.47	44.5	91	私	既済			H117-76 試掘済

埋蔵文化財が存在した確認調査地（1）

申請番号 H15-39
 所在地 南高井町160-2 外
 包蔵地名 包蔵地外
 調査日 平成17年6月1～7日
 開発面積 17,200.00m²の内2,732.00m²
 調査費 原因者負担
 検出遺構 土坑・柱穴
 出土遺物 土師器・須恵器
 遺跡の時代 中世
 遺跡の種類 集落関連
 処置 発掘調査（南高井遺跡2次調査）
 担当者 水本 完児・宮内慎一
 最寄の遺跡 —



遺跡位置図 (S-1/25,000)

申請番号 H15-39
 所在地 南高井町160-2 外
 包蔵地名 包蔵地外
 調査日 平成17年11月7～11日
 開発面積 17,200.00m²の内3,254.20m²
 調査費 原因者負担
 検出遺構 土坑・柱穴
 出土遺物 土師器・須恵器・陶磁器（15世紀）
 遺跡の時代 古代～中世
 遺跡の種類 集落関連
 処置 発掘調査（南高井遺跡3次調査）
 担当者 水本 完児・宮内慎一
 最寄の遺跡 —



遺跡位置図 (S-1/25,000)

申請番号 H15-41
 所在地 南梅本町甲527-2 外
 包蔵地名 包蔵地外
 調査日 平成17年6月1・3日
 開発面積 14,044m²の内699.85m²
 調査費 原因者負担
 検出遺構 土坑・柱穴
 出土遺物 弥生土器・須恵器
 遺跡の時代 古墳時代～中世
 遺跡の種類 集落関連
 処置 発掘調査（南梅本長広遺跡2次調査）
 担当者 小笠原 善治
 最寄の遺跡 南梅本長広遺跡



遺跡位置図 (S-1/25,000)

申請番号 H16-363
 所在地 来住町
 包蔵地名 No.127 来住庵寺跡
 調査日 平成17年4月11日
 開発面積 283.97m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 溝・土坑・柱穴
 出土遺物 弥生土器・土師器
 遺跡の時代 弥生時代以降
 遺跡の種類 集落関連
 処置 遺構保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 来住庵寺



遺跡位置図 (S-1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地（2）

申請番号 H17-14
 所在地 小坂2丁目
 包蔵地名 No.110 釜ノ口遺跡
 調査日 平成17年4月25日
 開発面積 173.21m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 溝
 出土遺物 弥生土器・土師器
 遺跡の時代 弥生時代以降
 遺跡の種類 集落関連
 処置 遺跡保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 釜ノ口遺跡 7次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号 H17-17
 所在地 椿味2丁目
 包蔵地名 No.81 椿味遺物包含地
 調査日 平成17年5月6日
 開発面積 185.12m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 土坑・柱穴
 出土遺物 弥生土器・土師器・須恵器
 遺跡の時代 弥生時代・古墳時代以降
 遺跡の種類 集落関連
 処置 遺跡保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 椿味四反地遺跡 8次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号 H17-20
 所在地 木屋町2丁目
 包蔵地名 No.67 文京遺跡（樋又遺跡元練兵場遺物包含地）
 調査日 平成17年5月10日
 開発面積 198.34m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 一
 出土遺物 繩文土器
 遺跡の時代 繩文時代晩期以降
 遺跡の種類 遺物包含層
 処置 遺跡保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 文京遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号 H17-21
 所在地 北条560番1の一部 外
 包蔵地名 包蔵地外
 調査日 平成17年6月13～14日
 開発面積 1,416.86m²
 調査費 原因者負担
 検出遺構 土坑・柱穴・溝
 出土遺物 土師器・須恵器
 遺跡の時代 中世
 遺跡の種類 集落関連
 処置 発掘調査（北条片町遺跡）
 担当者 吉岡 和哉
 最寄の遺跡 一



遺跡位置図 (S=1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地（3）

申請番号	H17-27
所在地	道後湯月町甲1651番地 外
包蔵地名	包蔵地外
調査日	平成17年5月6日
開発面積	約300.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	池跡
出土遺物	土師器・木片
遺跡の時代	古代～中世
遺跡の種類	古代庭園
処置	遺跡保護中
担当者	相原 秀仁
最寄の遺跡	湯築城跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-34
所在地	小坂2丁目210番1 外
包蔵地名	No.110 釜ノ口遺跡
調査日	平成17年12月8～9日
開発面積	3,000.00m ² の内約600m ²
調査費	原因者負担
検出遺構	土坑・柱穴
出土遺物	土師器・須恵器・青磁
遺跡の時代	古代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	発掘調査（小坂遺跡）
担当者	相原 浩二
最寄の遺跡	釜ノ口遺跡 7次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-34
所在地	小坂2丁目210番1 外
包蔵地名	No.110 釜ノ口遺跡
調査日	平成18年3月14～15日
開発面積	3,000.00m ² の内約600m ²
調査費	原因者負担
検出遺構	竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器・青磁
遺跡の時代	弥生時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	発掘調査予定
担当者	相原 浩二
最寄の遺跡	釜ノ口遺跡 7次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

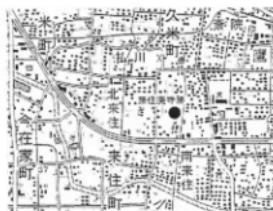
申請番号	H17-42
所在地	桑原2丁目
包蔵地名	No.82 束本遺物包含地
調査日	平成17年6月6日
開発面積	139.15m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	竪穴住居址
出土遺物	弥生土器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	桑原遺跡 5次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

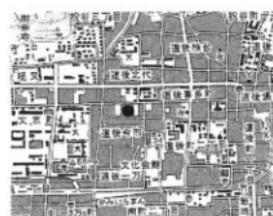
埋蔵文化財が存在した確認調査地（4）

申請番号	H17-45
所在地	来住町
包蔵地名	No.127 来住庵寺跡
調査日	平成17年6月10日
開発面積	284.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴
出土遺物	土師器
遺跡の時代	古墳時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	来住庵寺



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-47
所在地	道後今市
包蔵地名	No.68 今市遺物包含地
調査日	平成17年6月13日
開発面積	1,547.33m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴
出土遺物	土師器（中世）
遺跡の時代	古墳時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	道後今市遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-78
所在地	鷹子町
包蔵地名	No.129 鷹ノ子遺物包含地2
調査日	平成17年7月19日
開発面積	1,578.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴・溝
出土遺物	弥生土器・土師器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落
処置	一部発掘調査（鷹子新畑遺跡4次調査）
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	鷹子新畑遺跡2次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-82
所在地	鷹子町
包蔵地名	No.129 鷹ノ子遺物包含地2
調査日	平成17年7月19日
開発面積	566.09m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴・溝
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落
処置	一部発掘調査（鷹子新畑遺跡4次調査）
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	鷹子新畑遺跡2次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地（5）

申請番号 H17-83
 所在地 南土居町
 包蔵地名 No.132 中ノ子廃寺遺物包含地
 調査日 平成17年7月21日
 開発面積 836.22m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 竪穴住居址・土坑・柱穴
 出土遺物 弥生土器・土師器・須恵器
 遺跡の時代 弥生時代・古墳時代以降
 遺跡の種類 集落関連
 処置 遺跡保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 開遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号 H17-118
 所在地 西石井2丁目
 包蔵地名 No.119 西石井遺物包含地
 調査日 平成17年10月3日
 開発面積 923.00m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 竪穴住居址
 出土遺物 弥生土器・土師器
 遺跡の時代 弥生時代・古墳時代以降
 遺跡の種類 集落関連
 処置 遺跡保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 石井幼稚園遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号 H17-119
 所在地 来住町
 包蔵地名 No.127 来住廃寺跡
 調査日 平成17年9月7日
 開発面積 1,297.56m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 竪穴住居址・土坑・柱穴・溝
 出土遺物 弥生土器・土師器・須恵器・瓦
 遺跡の時代 弥生時代・古代
 遺跡の種類 集落関連
 処置 一部発掘調査（来住町遺跡14次調査）
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 来住廃寺



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号 H17-127
 所在地 来住町
 包蔵地名 No.127 来住廃寺跡
 調査日 平成17年9月8日
 開発面積 581.74m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 竪穴住居址・土坑・柱穴
 出土遺物 弥生土器・土師器
 遺跡の時代 弥生時代・古代以降
 遺跡の種類 集落関連
 処置 遺跡保護中
 担当者 武正 良浩
 最寄の遺跡 来住廃寺



遺跡位置図 (S=1/25,000)

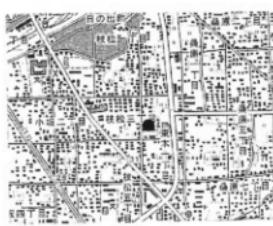
埋蔵文化財が存在した確認調査地（6）

申請番号	H17-133
所在地	来住町
包蔵地名	No.127 来住廃寺跡
調査日	平成17年9月14日
開発面積	134.16m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴
出土遺物	土師器
遺跡の時代	古墳時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	来住廃寺



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-135
所在地	枝松3丁目
包蔵地名	No.83 枝松遺物包含地
調査日	平成17年9月26日
開発面積	917.82m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	竪穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物	弥生土器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	枝松遺跡 8次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-141
所在地	久米窪田町
包蔵地名	No.129 鹿ノ子遺物包含地
調査日	平成17年9月27日
開発面積	508.03m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・性格不明遺構
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器・木片
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	久米窪田遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-144
所在地	星岡町
包蔵地名	No.116 川附遺物包含地
調査日	平成17年10月5日
開発面積	353.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴
出土遺物	土師器
遺跡の時代	古墳時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	福音小学校構内遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

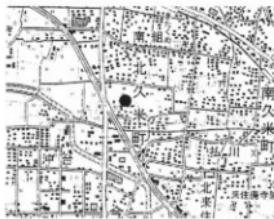
埋蔵文化財が存在した確認調査地（7）

申請番号	H17-146
所在地	緑町1丁目
包蔵地名	No.74 松山城跡・城ノ内古墳群
調査日	平成17年10月7日
開発面積	121.51m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑
出土遺物	土師器・須恵器（中世）
遺跡の時代	中世以前
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	松山城跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-147
所在地	北久米町
包蔵地名	No.126 高畠遺物包含地
調査日	平成17年10月6日
開発面積	535.47m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器（中世）
遺跡の時代	弥生時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	南久米才歩行遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-155
所在地	小坂5丁目
包蔵地名	No.111 小坂5丁目遺物包含地
調査日	平成17年10月11日
開発面積	1,321.50m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・溝
出土遺物	弥生土器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	釜ノ口遺跡 8次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-159
所在地	西石井6丁目
包蔵地名	No.119 西石井遺物包含地
調査日	平成17年10月18日
開発面積	823.51m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器（中世）
遺跡の時代	弥生時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	石井幼稚園遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地（8）

申請番号	H17-167
所在地	樽味4丁目
包蔵地名	No.81 樽味遺物包含地
調査日	平成17年10月27日
開発面積	2,238.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	堅穴住居址・土坑・柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代・古墳時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	樽味四反地遺跡 8次調査



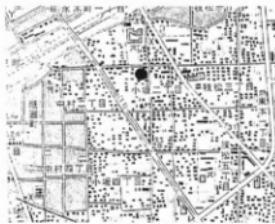
遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-176
所在地	祝谷2丁目
包蔵地名	No.55・56・57 北代・緑台・土居窪遺物包含地
調査日	平成17年11月2日
開発面積	210.11m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴・自然流路
出土遺物	弥生土器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	祝谷畑中遺跡 2次調査
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	祝谷畑中遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-182
所在地	小坂2丁目
包蔵地名	No.110 釜ノ口遺跡
調査日	平成17年11月24日
開発面積	255.26m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	釜ノ口 7次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-193
所在地	東石井5丁目
包蔵地名	No.119 西石井遺物包含地
調査日	平成17年11月28日
開発面積	2,516.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴
出土遺物	土師器
遺跡の時代	古墳時代～古代
遺跡の種類	集落関連
処置	東石井遺跡 3次調査
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	石井幼稚園遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地（9）

申請番号	H17-198
所在地	南江戸6丁目
包蔵地名	No.32 大峰ヶ台弥生遺跡A・古墳群A
調査日	平成17年12月12~16日
開発面積	154.00m ²
調査費	原因者負担（一部国庫補助）
検出遺構	古墳
出土遺物	須恵器・鐵鑓
遺跡の時代	古墳時代後期
遺跡の種類	古墳
処置	遺構保護中
担当者	山之内 志郎
最寄の遺跡	大峰ヶ台遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-199
所在地	来住町
包蔵地名	No.127 来住廃寺跡
調査日	平成17年12月2日
開発面積	1,499.07m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	一
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代～古代
遺跡の種類	遺物包含層
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	来住廃寺



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-210
所在地	太山寺町甲
包蔵地名	No.173 大沢遺跡
調査日	平成17年12月14日
開発面積	1,039.96m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	一
出土遺物	縄文土器（晩期）
遺跡の時代	縄文時代以降
遺跡の種類	遺物包含層
処置	遺構保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	大沢遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-218
所在地	南江戸5丁目1463番
包蔵地名	No.33 大峰ヶ台遺跡B・大峰ヶ台古墳群B
調査日	平成18年1月10日
開発面積	1,380.87m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	竪穴住居址・柱穴
出土遺物	土師器・須恵器
遺跡の時代	古墳時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	大峰ヶ台遺跡10次調査
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	大峰ヶ台遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地（10）

申請番号	H17-219
所在地	大街道3丁目
包蔵地名	No.74 松山城跡・城ノ内古墳群
調査日	平成18年1月16日～23日
開発面積	29,790.96m ² の内4,140.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴・礎石・溝
出土遺物	土師器・瓦・陶磁器
遺跡の時代	近世
遺跡の種類	武家屋敷
処置	発掘調査（東雲遺跡）
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	松山城跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-221
所在地	小坂2丁目
包蔵地名	No.110 釜ノ口遺跡
調査日	平成18年1月6日
開発面積	1,030.27m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	—
出土遺物	弥生土器・土師器
遺跡の時代	弥生時代・古代以降
遺跡の種類	遺物包含層
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	釜ノ口7次調査



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-226
所在地	北斎院町
包蔵地名	No.156 北斎院遺物包含地
調査日	平成18年1月19日
開発面積	76.40m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	—
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代～古墳時代以降
遺跡の種類	遺物包含層
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	斎院茶臼山古墳



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-228
所在地	東石井5丁目
包蔵地名	No.119 西石井遺物包含地
調査日	平成18年1月23日
開発面積	468.10m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器
遺跡の時代	弥生時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	石井幼稚園遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

埋蔵文化財が存在した確認調査地 (11)

申請番号	H17-234
所在地	祝谷5丁目
包蔵地名	No.55・56・57 北代・緑台・土居窪遺物包含地
調査日	平成18年1月26日
開発面積	683.66m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	-
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	遺物包含層
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	祝谷畠中遺跡



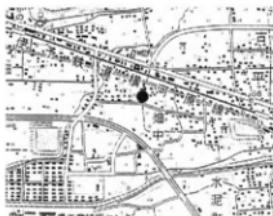
遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-238
所在地	道後樋又
包蔵地名	No.67 文京遺跡（樋又遺跡元練兵場遺物包含地）
調査日	平成18年1月30日
開発面積	833.00m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器・石器
遺跡の時代	弥生時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	道後城北 R N B 遺跡



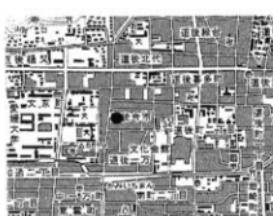
遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-239
所在地	平井町甲2349番1 外
包蔵地名	包蔵地外
調査日	平成18年2月8～9日
開発面積	7,274.00m ² の内549.94m ²
調査費	原因者負担
検出遺構	竪穴住居址・土坑・柱穴・溝
出土遺物	土師器・須恵器・石器
遺跡の時代	古墳時代～中世
遺跡の種類	集落関連
処置	平井遺跡 3次調査
担当者	河野 史知
最寄の遺跡	平井遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

申請番号	H17-247
所在地	道後今市
包蔵地名	No.68 今市遺物包含地
調査日	平成18年2月8日
開発面積	563.95m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	竪穴住居址・土坑
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器・瓦
遺跡の時代	弥生時代～古代
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	道後今市遺跡



遺跡位置図 (S=1/25,000)

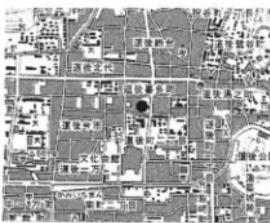
埋蔵文化財が存在した確認調査地（12）

申請番号	H17-267
所在地	樽味2丁目
包蔵地名	No.81 樽味遺物包含地
調査日	平成18年3月16日
開発面積	75.67m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器・須恵器
遺跡の時代	弥生時代・古墳時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	樽味四反地遺跡8次調査



遺跡位置図 (S-1/25,000)

申請番号	H17-274
所在地	道後喜多町
包蔵地名	No.68 今市遺物包含地
調査日	平成18年3月17・27日
開発面積	631.88m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴・溝
出土遺物	土師器（中世）
遺跡の時代	中世以降
遺跡の種類	集落関連
処置	遺跡保護中
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	道後今市遺跡



遺跡位置図 (S-1/25,000)

申請番号	H17-280
所在地	小坂2丁目
包蔵地名	No.110 釜ノ口遺跡
調査日	平成18年3月16日
開発面積	90.84m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑
出土遺物	弥生土器・土師器
遺跡の時代	弥生時代以降
遺跡の種類	集落関連
処置	一部発掘調査（小坂七ノ坪遺跡4次調査）
担当者	武正 良浩
最寄の遺跡	釜ノ口7次調査



遺跡位置図 (S-1/25,000)

表2 平成17年度本格調査一覧

平成17年度 松山市埋蔵文化財本格調査位置図



要録の整理と出土品(1次平成17)

要録の整理と出土品(1次平成17)は、主に出土品の整理と要録の整理である。出土品の整理は、出土品の分類と、各部類の山川等の調査である。要録の整理は、各部類の調査結果と、出土品の分類結果をもとに、各部類の要録を作成する。

III 平成17年度 保存処理及び出土遺物整理

本年度は、主に出土品の整理と、要録の整理を行った。出土品の整理は、出土品の分類と、各部類の調査である。要録の整理は、各部類の調査結果と、出土品の分類結果をもとに、各部類の要録を作成する。

本年度は、主に出土品の整理と、要録の整理を行った。出土品の整理は、出土品の分類と、各部類の調査である。要録の整理は、各部類の調査結果と、出土品の分類結果をもとに、各部類の要録を作成する。

本年度は、主に出土品の整理と、要録の整理を行った。出土品の整理は、出土品の分類と、各部類の調査である。要録の整理は、各部類の調査結果と、出土品の分類結果をもとに、各部類の要録を作成する。

1. 平成17年度出土遺物整理の概要

当理藏文化財センターでは、近年の発掘調査の整理作業と並行して、20年間の調査資料の整理作業をも行なっている。今年度は昨年度に引き続き、膨大になってきた収蔵品の再整理と、保存処理を必要とする資料への対応を重点項目とした。

1. 遺 物

青銅製品：保存処理および復元・科学分析を外部委託しているが、本年度は該当資料がない。

鉄 製 品：収蔵品目録の作成を重点的に行なう。保存処理は基本的に当センターで行なうが、特殊な資料やX線撮影は外部委託している。今年度の重要資料の外部委託は鉄刀2点を株式会社吉田生物研究所、鉄刀1点を財団法人元興寺文化財研究所に依頼した。

植物遺体：木製品や種尖は品種同定を外部委託し、保存処理は当センターで行なっている。今年度の木製品の保存処理及び品種同定の外部委託は桶1点を株式会社京都科学に依頼した。

動物遺体：洗浄や保護の作業を行なう。今年度は、人骨2点（2遺構分）の鑑定と保存処理を十井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム人類学研究室に委託した。

七器・石器：収蔵庫整理では、報告書の刊行された遺跡資料を主体に選別作業をし、収納を行なう。特に、展示や類例調査等で使用頻度の高い資料については、収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に一括保存した。今年度は磨製石剣・磨製石鎌・武器形石製品の整理を進め、台帳作成後に、特別収蔵庫等に保管をした。

2. 写 真

ネ ガ：35mm判と6×7判は、注記や台帳作成作業が終わり次第、写真整理室の所定の場所に収納する。4×5判は写真担当者が整理をする。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをコンテナに収納し、収蔵庫で保管する。

3. 実測図・日誌・報告書原図

遺構測量図、遺物実測図、日誌、報告書原図は収蔵庫の所定の場所に保管する。

(山本・梅木)

2. 保存処理

保存処理室では主に木製品の保存処理（PEG含浸処理）、金属製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺構・遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り作業も行っている。

(山本)

1. 木製品の保存処理

当センターでは、木製品の保存処理はPEG（ポリエチレンゴリコール）含浸処理を行っている。このPEG含浸法は、木製品中の水分をPEGに置き換える方法で、20%の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100%濃度のPEG溶液をしみこませることになる。この処理は1～1.5年位を要する。平成17年度は木製品の保管数が少なく保存処理は行っていない。

2. 金属製品の保存処理（写真1～6）

前処理（脱水・脱塩・安定化処理）を行っていた金属製品は、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壤・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した遺物は、収納システム（三菱ガス科学・RPシステム）により収納後、特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表1 平成17年度金属製品保存処理遺跡名一覧

(1)

No.	遺跡名	点数	作業工程	刊行物
13	久万ノ台古墳	2	脱塩中	松山市文化財調査報告書第9集
14	北久米遺跡群B地区	1	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第17集
14	福音寺遺跡群B地区	4	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第17集
59	東山古墳群1次調査地	5	含浸處理中	松山市文化財調査報告書第15集
60	東山古墳群2次調査地	14	含浸處理中	松山市文化財調査報告書第15集
72	別所竹ヶ谷遺跡	5	脱塩中	未報告
156	勝造G遺跡	2	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第52集
263	葉佐治古墳	23	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第92集
288	乃万の裏遺跡2次調査地	79	処理済・処理室保管	松山市文化財調査報告書第72集
294	来住町遺跡2次調査地	7	脱塩中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報10)
306	岩崎遺跡	4	脱塩中	松山市文化財調査報告書第71集
310-①	五条遺跡A地区	2	脱塩中	松山市文化財調査報告書第103集
313	黒作池古墳2次調査地	2	脱塩中	松山市文化財調査報告書第92集
354	来住町遺跡9次調査地	4	脱塩中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報12)
359	久米高畠廬跡13次調査地	16	処理済・処理室保管	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報12)
368	来本遺跡6次調査地	10	脱塩中	松山市文化財調査報告書第105集
370	船ヶ谷遺跡4次調査地	5	脱塩中	松山市文化財調査報告書第88集・第95集
372	来住町遺跡10次調査地	7	脱塩中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報13)

平成17年度金属製品保存処理遺跡名一覧

(2)

3761-A	桑原遺跡4次調査地(2区)	7	脱塗中	松山市文化財調査報告書第105集
3761-C	桑原遺跡4次調査地(4区)	1	脱塗中	松山市文化財調査報告書第105集
380	久米高畠遺跡49次調査地	1	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報13)
381	東住町遺跡11次調査地	1	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報13)
393	南久米町遺跡4次調査地	6	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報14)
401-1	上菊城遺跡3次調査地	14	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報15)
404 3-A	梅林高木遺跡8次調査地	1	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報16)
404 3-D	東野森ノ木遺跡	21	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17)
404 4-A	東野森ノ木遺跡2次調査地	2	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17)
405 2-B	枝松遺跡9次調査地	1	含浸処理中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17)
408 2-B	高井遺跡	5	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報17)
413	米住庵寺29次調査地	1	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報16)
416	米住庵寺30次調査地	3	脱塗中	未報告(松山市埋蔵文化財調査年報16)
417	番町遺跡	2	脱塗中	松山市文化財調査報告書第109集
443	松山大學構内遺跡6次調査地	30	脱塗中	報告書作成中
445	城の内古墳群	42	脱塗中	未報告
453	柳味山木遺跡12次調査地	12	脱塗中	報告書作成中
	試掘(大峰ヶ台)	1	脱塗中	※H17-198
	寄贈品(7)	12	含浸処理中	※東山古墳群出土
	寄贈品(8)	31	脱塗中	※山西町出土
	寄贈品(13)	18	脱塗中	※南ヶ丘出土
	寄贈品(14)	1	脱塗中	※岩子山1号墳の可能性有り
	寄贈品(15)	1	脱塗中	※鶴産所出土
	出土地不明	3	脱塗中	※出土地不明 項No.17
	出土地不明	5	脱塗中	※出土地不明 項No.20

3. 人骨・獣骨（動物遺骸体）の保存処理（写真7・8）

処理室へは人骨、獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で搬入される。処理室ではこの余分な土を、竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて、徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。脆い状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し濁けして全体（内部まで）を強化し保護する。また、収蔵遺物の再整理を行い収蔵台帳の作成も行っている。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表（表2）に記す。

4. 構造・遺物の取り上げ

発掘調査で検出される遺物には、腐食したり脆弱化しているため、そのまま取り上げることが困難なものがある。また、ほとんどの調査の場合、発掘した構造を現場で保存できない。このような場合

表2 平成17年度動物遺骸体保存処理遺跡名一覧

No	遺跡名	種類	点数	刊行物
404-4-C	梅味高木遺跡11次調査地	獸骨	5	未報告(報告書作成中)
443	松山大学構内遺跡6次調査地	獸骨	3	未報告(報告書作成中)
453	博味高木遺跡12次調査地	獸骨	14	未報告(報告書作成中)

に遺構・遺物の取り上げをおこなう。遺物が小さい場合は簡易な方法で行い(骨を土ごと取り上げること、年報11、保存処理事業I-3参照)、遺物が大きく重量が増す場合は発泡ウレタン樹脂を用いて対象物全体を固めて取り上げる(年報X、保存処理事業I-3参照)。この発泡ウレタン樹脂での梱包は従来使用していた石膏やコンクリートでの梱包より軽く仕上がり、搬出、運搬の作業が軽減される。また、室内に搬入した後、時間をかけて精査することによって、発掘期間中に屋外で調査する以上の成果を期待できることも多い。平成17年度は遺構、遺物の取り上げは行なっていない。

5. 土層の剥ぎ取り転写

上層の剥ぎ取り転写は、転写面にエボキシ系樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い、樹脂が硬化後転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして展示、保管する。また、この土層の剥ぎ取りは、発掘後も室内で実物をあらゆる角度から精査できる効果的な記録保存法ともなる。平成17年度は土層の剥ぎ取り作業は行っていない。

参考文献 1~5 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター『埋蔵文化財ニュース16・24・28・31』

6. 出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

以下の表に平成17年度調査により出土した遺物種類、点数、遺跡名を記す。

表3 平成17年度調査出土木製遺物、金属製遺物、動・植物遺体一覧

No	遺跡名	種類	点数	内訳
438-2	道後湯之町遺跡	金属製品	1	銅製鍛貨
		木製遺物	3	杭など
445	城の内古墳群(2・4・5号墳)	金属製品	42	鉄製釘など
446	博味高木遺跡12次調査地	動物遺骸体	14	獣骨(齒など)
		金属製品	20	鉄製鍼・釘・銅製鍛貨など
448-1	北条片町遺跡	金属製品	4	鉄製釘など
452	久米高畠遺跡66次調査地	木製遺物	1	炭化材
		金属製品	3	鉄片
453	梅味四反地遺跡12次調査地	金属製品	2	鉄製鑿・刀子
454	梅味四反地遺跡13次調査地	金属製品	9	鉄製簾・沖など
455	祝谷信中遺跡2次調査地	金属製品	1	鉄製鍋
458	東石井遺跡3次調査地	金属製品	1	鉄鋤
	試掘(H17~198)	金属製品	1	鉄製鑿?



写真1 乃万の裏遺跡2次調査地出土刀（処理前）写真2 乃万の裏遺跡2次調査地出土刀（処理後）

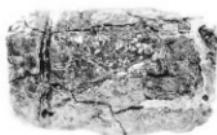
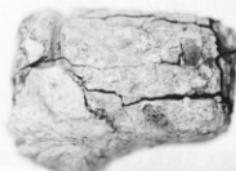


写真3 乃万の裏遺跡2次調査地出土器種不明（処理前）写真4 乃万の裏遺跡2次調査地出土器種不明（処理後）



写真5 久米高畠遺跡43次調査地出土刀（処理前）

写真6 久米高畠遺跡43次調査地出土刀（処理後）

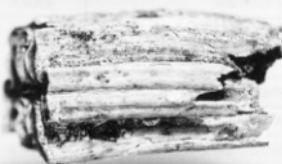


写真7 松山大学構内遺跡6次調査地出土歯（処理前）写真8 松山大学構内遺跡6次調査地出土歯（処理後）

3. 出土遺物整理

磨製石剣・磨製石鎌・武器形石製品一覧

1. 調査の概要

当センターでは、借用や資料調査の希望が多い出土品を年次毎に整理し、迅速に対応可能のように特別収蔵庫で保管している。今年度は、磨製石剣・磨製石鎌・武器形石製品を対象資料とした。

調査は、まず報告書や文献で調べ、つぎに各調査員に対象資料の有無や所属時期の確認等をした。つづいて資料と実測図を一括管理し、未実測品は極力実測を作成し、法量の数量化に努めた。

なお掲載資料は、報告書に掲載している遺物を基本にし、現在整理中の遺物も許される限り取り上げ、未整理の遺跡出土資料は除外した。
(梅木)

2. 掲載文献

- 森 光晴 1984 『国道11号バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書』松山市文化財調査報告書第17集
宮崎泰好 1991 『祝谷六丁場遺跡』松山市文化財調査報告書 第24集
梅木謙一 1992 『桑原地区の遺跡』松山市文化財調査報告書 第26集
梅木謙一・宮内慎一 1993 『山越・久万ノ台の遺跡』松山市文化財調査報告書 第32集
栗田茂敏 1994 『上野遺跡』松山市文化財調査報告書 第39集
梅木謙一・宮内慎一 1994 『桑原地区の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書 第46集
栗山茂敏 1995 『大峰ヶ台遺跡－第4次調査－』松山市文化財調査報告書 第48集
宮内慎一 1995 『松山大学構内遺跡Ⅱ－第3次調査－』松山市文化財調査報告書 第49集
梅木謙一 1996 『福音寺地区の遺跡』松山市文化財調査報告書 第52集
河野史知 1997 『桑原地区的遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書 第58集
宮内慎一 1999 『岩崎遺跡』松山市文化財調査報告書 第71集
梅木謙一 2002 『桑原地区的遺跡Ⅳ』松山市文化財調査報告書 第86集
高尾和長 2002 『船ヶ谷遺跡－4次調査－』松山市文化財調査報告書 第88集
高尾和長 2003 『船ヶ谷遺跡4次調査Ⅱ・福音小学校構内遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書 第95集
梅木謙一 2004 『来住・久米地区的遺跡V』松山市文化財調査報告書 第101集
宮内慎一 2005 『占市遺跡－2次調査－・五楽遺跡－1・3次調査－』松山市文化財調査報告書 第103集
宮内慎一 2005 『東石井遺跡・西石井遺跡－1・2・3次調査地－』松山市文化財調査報告書 第112集
森 光晴 1979 『溝辺遺跡埋蔵文化財調査報告書』愛媛県教育委員会
西尾幸則 1989 『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』
栗田茂敏 1991 『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』
田城武志・小玉亜紀子 1998 『松山市埋蔵文化財調査年報X』

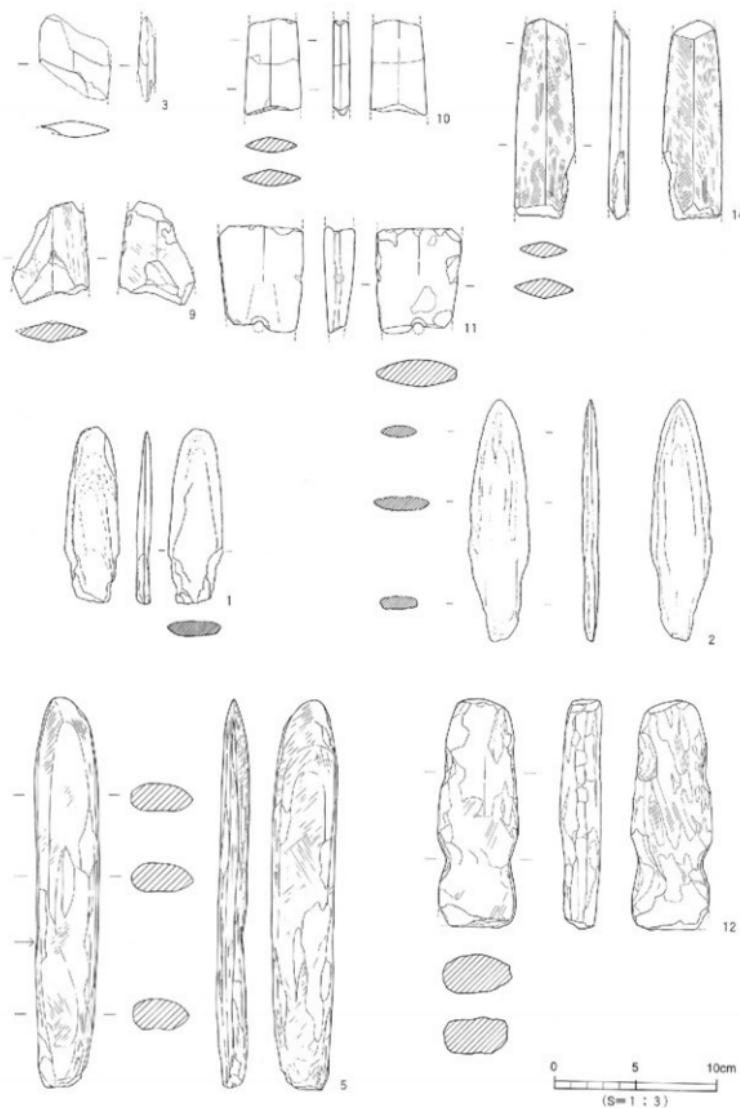


図1 石剣実測図(1)

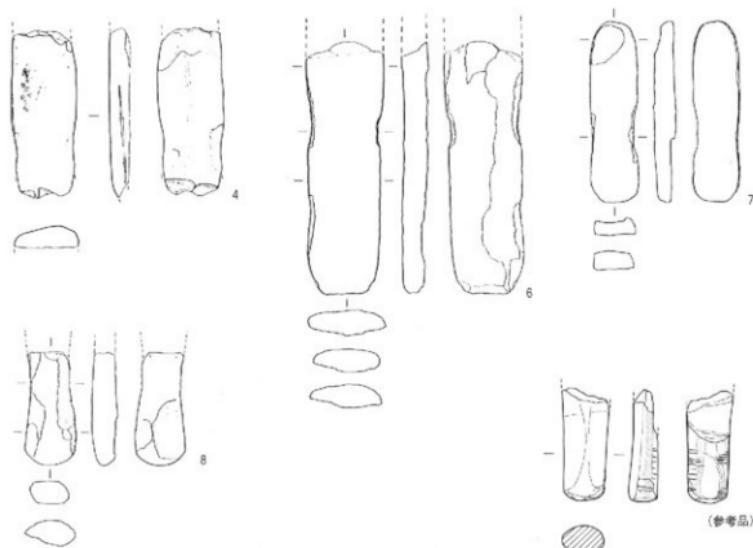


図2 石剣実測図(2)

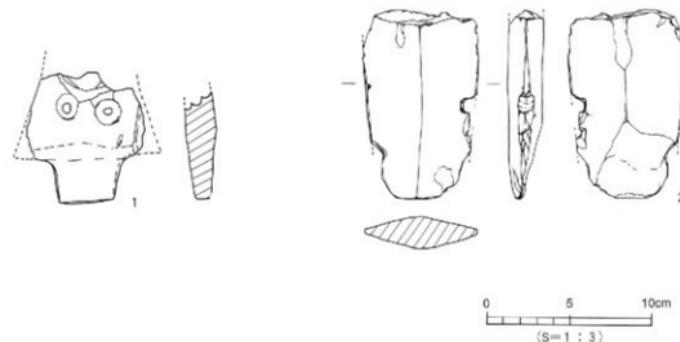


図3 武器形石製品実測図

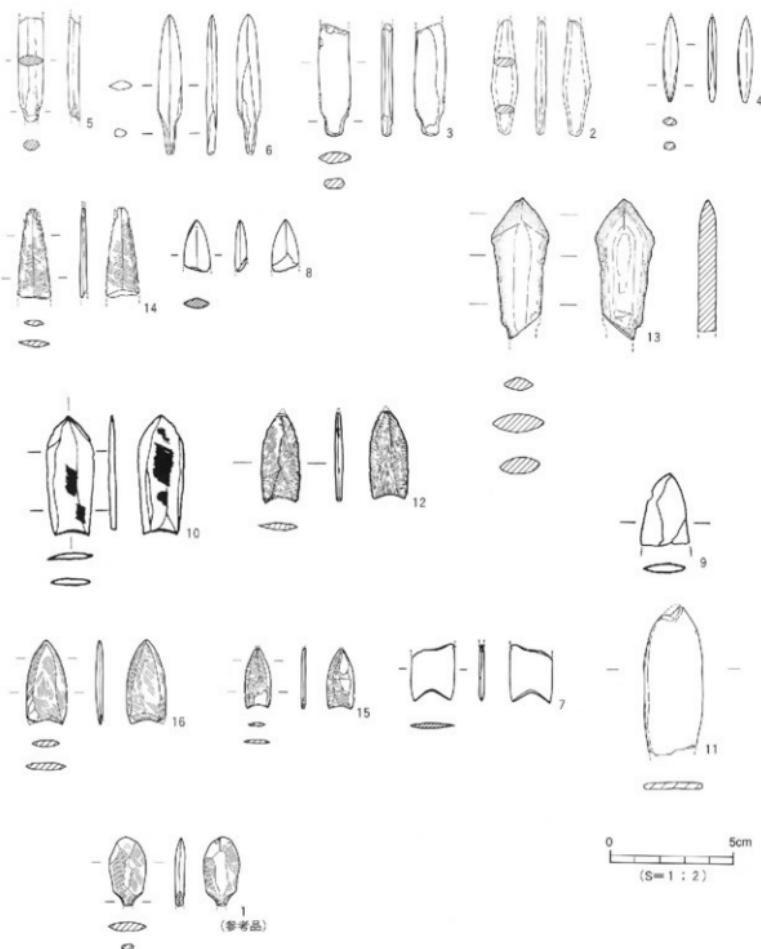


図4 磨製石鎌実測図

表1 石剣一覧

番号	遺跡名	出土地	石材	鍔(cm)	樞(cm)	身(cm)	重さ(g)	時期	文献	備考
1	上野	4区	緑色片岩	10.9	3.3	0.9	19.0	不明	報第39集 図32-56	
2	煙守6号墳	試掘トレンチ	緑色片岩	14.5	3.6	0.9	61.9	不明	報第58集 第82図-19	
3	岩崎	SDV102中層	頁岩	(3.5)	4.5	1.0	(20.8)	弥生後半~中期初頭	報第71集 第91図-V102	
4	岩崎	SDV105中層	緑色片岩	(10.2)	3.9	(1.2)	(84.5)	弥生後半~中期初頭	報第71集 第221図-V1232	
5	古市2次(1区)	C地区SK1	緑色片岩	24.0	3.8	1.7	324.0	弥生前中期~中期初頭	報第103集 第36図-77	
6	船ヶ谷4次	SR1-②層	緑色片岩	(15.5)	4.6	1.3	167.0	不明	報第88-95集 第98図-1060	
7	船ヶ谷4次	SR1-②層	緑色片岩	17.2	2.8	1.3	73.1	不明	報第88-95集 第98図-1061	
8	船ヶ谷4次	SR1-②層	緑色片岩	(7.0)	3.0	1.5	(49.7)	不明	報第88-95集 第98図-1062	
9	久米高畠2次	S2W1	頁岩	(5.7)	4.7	1.2	(31.8)	——	年輪Ⅱ(整理中)	
10	久米高畠11次	2区	頁岩	(5.6)	3.5	0.9	(28.3)	——	整理中	
11	久米高畠13次	A41耕作土	安山岩	(6.4)	5.2	1.9	(87.6)	——	年輪Ⅲ(整理中)	
12	久米高畠27次	SD5	緑色片岩	14.0	4.9	2.3	295.3	不明	報第101集 第67図-157	
13	竹木氏布贈品	不明	頁岩	(2.10)	3.6	1.2	(52.6)	不明		竹コレ 5-218
参考品	鴻臚古墳	1号墳	3B埴丘	(7.0)	2.6	1.8	(40.6)	不明	愛媛県報1979 図8-8	

表2 武器形石製品一覧

番号	遺跡名	出土地	種類	石材	鍔(cm)	樞(cm)	身(cm)	重さ(g)	時期	文献	備考
1	況谷六丁場	一区第6解	戈	緑色片岩	(8.0)	(6.5)	1.8	——	弥生中期中葉	報第24集 図108-910	
2	久米高畠37次	標立005-SP2	矛形	頁岩	(11.3)	7.0	2.1	(173.5)	古墳時代終末	年報X 196 図1-3	

表3 磨製石鎌一覧

番号	遺跡名	出土地	型式	石材	鍔(cm)	樞(cm)	身(cm)	重さ(g)	時期	文献	備考
1参考	福音寺竹ノ下地区	包含層	有茎式	緑色片岩	4.3	2.1	0.6	7.4	(古墳時代か)	報第17集 第21図-16	時期 要判断
2	況谷八丁場	第2剣盒区包含層	有茎式	緑色片岩	(6.6)	1.1	0.3	(2.8)	弥生中期中葉	報第21集 図108-911	
3	況谷六丁場	1区N.E.7	有茎式	緑色片岩	(6.9)	1.9	0.5	(16.7)	弥生中期中葉	報第24集 未掲載	
4	西船塚2次	N3W4 第5層	有茎式	緑色片岩	5.3	0.9	0.5	3.8	不明	報第26集 未掲載	
5	山越2次	SD2	有茎式	緑色片岩	(4.3)	1.0	0.4	(3.4)	弥生前期後半	報第32集 第19図-29	
6	鶴味高木2次	B区 SB2	有茎式	緑色片岩	5.7	0.9	0.4	2.9	(弥生中期後葉 ~後期初期)	報第46集 第33図-77	時期 要判断
7	大峰ヶ台4次	SR16(樹立柱)	凹基無茎式	緑色片岩	(2.4)	1.7	0.2	(1.3)	弥生中期中葉	報第48集 図39-117	
8	大峰ヶ台4次	包含層	有茎式	緑色片岩	(2.1)	1.0	0.4	(1.1)	弥生中期	報第48集 図71-207	
9	松山大学構内3次	SB3	——	緑色片岩	(3.1)	1.9	0.3	(2.6)	(古墳初期)	報第49集 第266頁-2057	時期 要判断
10	松山大学構内3次	SX5	凹基無茎式	緑色チャート	5.0	1.9	0.2	3.9	(弥生後期土器)	報第49集 第277図 2128	
11	鶴邊F	SD5	——	緑色片岩	(6.7)	2.4	0.3	(10.1)	弥生後期後葉	報第52集 第99図-232	
12	東野お茶園台2次	14号墳	凹基無茎式	黒色チャート	(3.4)	1.5	0.2	(1.9)	(6C中葉)	報第86集 第33図-50	起人品
13	西6井2次	SD401	有茎式	頁岩	(5.8)	(2.4)	0.7	(10.9)	(弥生後期後半)	報第112集 第222図-270	時期 要判断
14	来往庵7次?	6AKA-1-G 32	有茎式	緑色チャート	(5.6)	2.0	0.4	(3.8)	——	整理中	
15	小坂3丁目	D5	凹基無茎式	黒色チャート	3.7	1.4	0.2	2.0	——	整理中	
16	平松氏寄贈品	表模	凹基無茎式	緑色チャート	5.2	2.5	0.4	7.6	不明	——	

4. 東方町採集品

平成18年4月、松山市埋蔵文化財センターに市民より、工事中に採取した土器2点の持ち込みがあった。提供者からは、所在地と出土の様子を聞き取りした。ほぼ完形な土器2点は、以前に東方町での工事中に地表下約40cmの地点から出土し、1の碗の上に、2の坏が被さって出土したことを聞いた。出土状況と土器の遺存からは、墓に供獻されたことが推定できた。

そこで、整理と類例調査を進めたところ、松山市の古代墓制や土器研究の数少ない基礎資料と評価出来るため、ここで資料紹介をすることにした。

1の内黒碗は、高台部を欠損する。坏部は深く、丸い形状を呈し、口径15.2cm、坏部高5.0cmである。北久米淨蓮寺遺跡の墓資料（河野1997）に類似形態がある。2の坏は、円盤高台で、回転ヘラ切り手法が見られる。口径は12.0cm、器高は4.2cmである。石井幼稚園遺跡（栗田1994）に類似品がある。1・2の特徴からは、10世紀に時期比定ができる。
(梅木)

栗田茂敏 1994 「石井幼稚園遺跡」『石井幼稚園遺跡・南中学校構内遺跡』

河野史知 1997 「北久米淨蓮寺遺跡 6次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報IX』

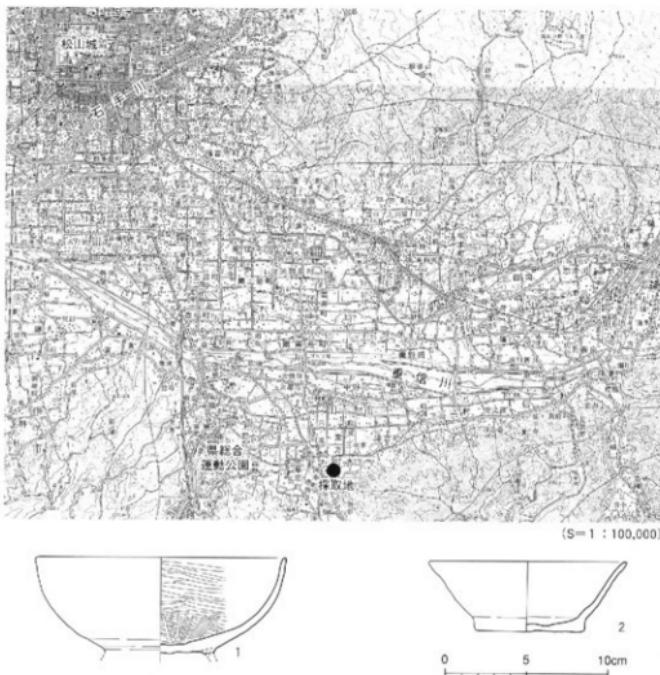


図1 位置図・遺物実測図

(S=1:3)

IV 平成17年度 普 及 啓 発 事 業

平成17年度の普及啓発事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における遺跡の発掘調査を行うとともに、出土遺物や記録資料などを整理・保管している。発掘調査終了後は、隨時現地説明会を開催するとともに発掘調査報告書を刊行することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館は、地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や遺跡めぐり、講演会、体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を支援しながら、埋蔵文化財保護思想の普及啓発に努めている。平成17年度は下記の各種事業を実施した。

- | | | | |
|----------|-------------|------------|------------|
| 1. 展示活動 | 2. 教育普及活動 | 3. 収集・保管活動 | 4. 広報・出版活動 |
| 5. 施設の利用 | 6. 資料の貸出・調査 | 7. 職員研修・会議 | |

一方、埋蔵文化財センターに隣接して設置されている文化財情報館は、松山市内で出土した文化財資料を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場としての充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

1. 展示活動

常設展示室は、「海を媒介とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「触れる」「考える」を展示の基本コンセプトとした立体的な展示を心がけている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,000点である。

また、常設展示室に隣接した特別展示室では、期間を限定し開催する展示会として（1）発掘へんろ展（3）発掘調査速報展（4）特別展（5）企画展を開催するとともに、（2）発掘調査写真展を松山城二之丸史跡庭園・松山市役所・いよてつ高島屋・西郵便局の4か所で開催した。

（1）第2回 四国・埋蔵文化財センター巡回展

「発掘へんろ—遺跡めぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波—」（写真1・表1-①）

この展示会は、四国内の埋蔵文化財センター5団体が合同で開催する巡回展である。5団体が近年、発掘調査して出土した遺物を持ち寄り、今までに蓄積された情報を提供・交換することによって、観覧者の方々に埋蔵文化財の重要性を認識していただこうというものである。

（2）発掘調査写真展「むかし・昔のまつやまを撮る」（表1-②）

この展示会は、後述する（3）発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」の予告を兼ねて前年度に発掘調査された遺跡や遺物の写真パネルを速報的に紹介するものである。当年度は松山城二之丸史跡庭園・松山市役所本館1階ロビー・いよてつ高島屋ふれあいギャラリー・西郵便局の4か所において26遺跡の写真パネルと解説パネル計10枚を設置し、PRに努めた。



写真1 巡回展「発掘へんろ」風景

(3) 発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」(写真2・表1-③)

この展示会は、前年度に松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介し、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。当年度は、前年度に発掘調査された樽味立添遺跡3次調査地や東野お茶屋台遺跡6次調査地、道後湯月町遺跡を含む26遺跡を取り上げ、その出土遺物約100点を展示した。

(4) 特別展「祈り～卑弥呼といのり～」(写真3・表1-④)

この展示会は、考古館最大の事業であり、県内外の博物館等から貴重な遺物を借用し、系統的に展示を展開するものである。当年度は、伊予や西日本地方で出土した縄文時代～現代の代表的な身近な祈りの小道具を展示了。展示点数は約200点である。

(5) 企画展「食と器のものがたり～縄文土器から砥部焼まで～」(表1-⑤)

この展示会は、「食と器」をテーマとし、愛媛県内の遺跡で出土した縄文時代から江戸時代までの食べ物、調理器具、食器などを時代ごとに展示了。展示点数は約100点である。

表1 展示会一覧

No.	展示会名	会期	会場	観覧者数
①	第2回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・瀬戸・阿波～」	平成17年4月23日(土)～7月3日(日)	特別展示室	4票の展示会を 合わせて 7,078人内、 考古館2,370人
②	発掘調査写真展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	①平成17年5月18日(水)～30日(月) ②平成17年6月1日(火)～10日(金) ③平成17年6月15日(水)～20日(月) ④平成17年6月27日(月)～7月1日(金)	①二之丸史跡庭園 ②松山市役所本館 ③いよてつ高島屋 ④松山市西郷便局	一般市民 対象 ①724人 ③358人
③	発掘調査報展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成17年7月16日(土)～8月31日(水)	特別展示室	1,103人
④	特別展 「祈り～卑弥呼といのり～」	平成17年10月22日(土)～12月11日(日)	特別展示室	1,713人
⑤	企画展 「食と器のものがたり～縄文土器から 砥部焼まで～」	平成18年1月21日(土)～3月21日(祝・火)	特別展示室	1,597人



写真2 速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」風景



写真3 特別展「祈り」風景

2. 教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象に埋蔵文化財保護思想の普及啓発を目的とした講演会・体験学習セミナー・考古学講座などがある。

(1) 調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のために各分野での第一人者を招聘し、助言をいただき、職員の資質向上をめざしている。

(2) 講演会・展示解説会

当年度は「発掘へんろ」展示報告会、発掘調査報告会、特別展記念講演会、特別展基礎講座Ⅰ・Ⅱ、企画展記念講演会、企画展基礎講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを行った。

①「発掘へんろ」展示報告会は、「発掘へんろ」展の開催を記念して当館講堂にて、当埋蔵文化財センター調査員が調査概要と遺物の解説を行い、他の埋蔵文化財センター（愛媛県、高知県、香川県、徳島県）分はビデオ上映で解説を行った（表2-①）。

②「発掘へんろ」展示解説会は、展示品の解説を当館学芸員が行った。3回実施し、うち1回は親子解説会とし、火おこしを同時に行った（表2-②）。

③発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまと語る」は、前述の発掘調査速報展の開催初日に統括報告及び調査報告を行った（表2-③）。

④特別展記念講演会は、特別展開催を記念して当館講堂にてフリーランサー木藤たかお先生には考古学の魅力、民族藝術学会員河野正文先生には日本と外国の祈りの比較について実例を挙げながら講演いただいた。また、講師2名と当館主任学芸員梅木謙一とで卑弥呼や祈りについて対談を行った（写真4・表2-④）。

⑤特別展基礎講座は、個別の展示資料を深く知るために2回実施した。講座Ⅰでは、当センター調査員山之内志郎が『祈り～分銅形土製品～』と題して、分銅形土製品の形態的特徴等を語った。講座Ⅱでは、愛媛県歴史文化博物館学芸員大本敬久先生に『祈りの歴史』について講演していただいた（表2-⑤）。

⑥企画展記念講演会は、企画展を記念して当館講堂にて愛媛大学法文学部教授（考古学）田崎博之先生に『食と器の移り変わり』について講演いただいた（表2-⑥）。

⑦企画展基礎講座は、展示資料をより深く理解していただくために3回実施した。1回目は当館学芸員による展示解説『古代松山の食と器』を行い、2回目は（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター調査員柴田圭子先生に『中世武士団と庶民の食と器』、3回目は砥部焼春秋窯元工藤省治先生に『砥部焼の器を知る』と題して講演していただいた（写真5・表2-⑦）。



写真4 特別展記念講演会風景



写真5 企画展基礎講座第2回風景

表2 講演会等一覧

(敬称略)

No.	事業名	日時	会場	講師・報告者	聴講者数
①	第2回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ」 展示解説会	平成17年4月24日(日)	講堂	当センター調査員 他各センターはビデオで解説	75人
②	第2回四国・埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ」 展示解説会	①平成17年5月1日(日) ②平成17年6月12日(日) ③平成17年7月3日(日)	特別展示室	①当考古学芸員 ②当考古学芸員 ③当考古学研究員	13人 15人 6人
③	発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまとある」	①平成17年7月17日(日) ②平成17年8月7日(日)	講堂	①当センター主任調査員 当センター調査員 〃 調査員 ② 〃 調査員 〃 研究員	51人 45人
④	特別展記念講演会 「考古学的魅力～專物語と祈り～」	平成17年11月5日(土)	講堂	フリーアナウンサー 民族藝術学会員 当考古館主任学芸員	53人
⑤	特別展基礎講座 Ⅰ「祈りへ分類形土製品～」 Ⅱ「祈りの歴史」	平成17年10月30日(日) 平成17年12月3日(土)	講堂	当センター調査員 愛媛県歴史文化博物館主任学芸員 大本敏久	49人 58人
⑥	企画展記念講演会 「食と器の移り変わり」	平成18年1月29日(日)	講堂	愛媛大学法文学部教授(考古学) 田崎博之	78人
⑦	企画展基礎講座 第1回「古代松山の食と器－展示解説会－」 第2回「中世より上層と庶民の食と器－湯築城 案内図の研究から－」 第3回「瓶燒の器を知る」	①平成18年1月21日(土) ②平成18年2月18日(土) ③平成18年3月4日(土)	講堂	①当考古館主任学芸員 当考古学芸員 ②(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査員 ③西部使春秋窯窯元	52人 56人 54人
⑧	初心者のための考古学講座 「どことん考古学V」 第1回 食べ物にみる古代の食事 第2回 弥生人の食事－遺跡調査から－ 第3回 発掘現場見学 松山大学構内遺跡 第4回 食の地域性 第5回 日本の食文化	①平成17年5月22日(日) ②平成17年6月5日(日) ③平成17年6月19日(日) ④平成17年6月26日(日) ⑤平成17年7月10日(日)	講堂 〃 現場 講堂 〃	①当センター調査員 当考古学芸員 ②(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 調査係長 ③当センター調査員 〃 研究員 ④愛媛県生涯学習センター研究員 丸岡佳章 ⑤愛媛県埋蔵文化財専門学校副校長 渡邊雅子	48人 46人 45人 42人 35人

(3) 初心者のための考古学講座「とことん考古学V」(写真6・表2-⑧)

当年度は『食べ物の歴史から食文化を考える』をテーマに計5回で弥生時代から現代までを取り扱い、出土品に加え民俗事例を取り入れ、日本の食文化の変遷について理解が深められるように内容を工夫した。また、第3回は発掘調査の現場見学(松山大学構内遺跡)とし、親しみやすい内容を目指している。

(4) クラフト教室「石を磨いて勾玉を作ろう！」（写真7・表3-①）

当教室は、市内の小学生以上の方を対象に勾玉作りをした。特に子供たちには、自由な発想で滑石製勾玉を製作することにより古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的としている。また、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。



写真6 「とことん考古学V」第1回風景



写真7 「石を磨いて勾玉を作ろう！」風景

(5) 大人のための体験学習セミナー

「ガラス勾玉を作ろうV」（写真8・表3-②）

当セミナーは、18歳以上の市民を対象にしたもので、古代風ガラス勾玉を製作することにより、古代人の苦労や知恵を学ぶことを目的に実施したものである。



写真8 「ガラス勾玉を作ろうV」風景

表3 体験講座一覧

No.	事業名	日時	会場	参加者数
①	クラフト教室 「石を磨いて勾玉を作ろう！」	①平成17年4月17日(日) ②平成17年5月15日(日) ③平成17年7月24日(日) ④平成17年8月21日(日) ⑤平成17年9月18日(日) ⑥平成17年10月22日(土) ⑦平成18年3月18日(土)	松山市考古館 屋外	① 20人 ② 28人 ③ 51人 ④ 36人 ⑤ 43人 ⑥ 26人 ⑦ 21人
②	大人のための体験学習セミナー 「ガラス勾玉を作ろうV」	①平成17年11月19日(土) ②平成17年12月10日(土)	講堂 松山市考古館屋外	29人 29人
③	遺跡めぐり 「伊豫のまほろば探訪～Part V～」	平成17年11月12日(土)	北条平野	32人

(6) 遺跡めぐり「伊豫のまほろば探訪～Part V～」(写真9・表3-③)

当事業は、地域に所在する史跡や埋蔵文化財を参加者が身近に感じていただくことを目的として開催するものである。当年度は、平成17年11月12日（土）に32名の参加者とともに北条平野の奥の谷古墳、国津比古命神社古墳、櫛玉姫命神社、北条ふるさと館、茶臼権現、善応寺、風和里を見学した。

(7) 現地説明会（写真10・表4）

遺跡の見学を通して、市民が埋蔵文化財に対する興味や関心をより一層持つてもらうために開催するものである。当年度は、5ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。



写真9 「伊豫のまほろば探訪V」風景



写真10 「樽味四反地遺跡12次・13次調査地」見学風景

表4 現地説明会一覧

No.	遺跡名	日時	遺跡の主な概要	見学者数
①	道後湯月町遺跡	平成17年4月9日（土） 10:30～11:30	河川跡、包含層	80人
②	樽味高木遺跡12次調査地	平成17年8月23日（火） 10:00～11:30	弥生時代後期後、古墳時代中・後期の堅穴住居 古代の鐵冶開発遺構	150人
③	久米高畠遺跡65次調査地	平成17年9月23日（金） 10:00～11:30	弥生時代～古墳時代の堅穴住居、 掘立柱建物など集落開拓遺構、 古代正倉院南庭の塗	130人
④	久米高畠遺跡66次調査地	平成17年12月17日（土） 10:00～12:00	弥生時代、古墳時代の堅穴住居、土坑 古代の掘立柱建物、溝	200人
⑤	樽味四反地遺跡12次・13次調査地	平成18年2月18日（土） 10:00～12:00	(樽味四反地12次) 弥生時代中期の土坑、古墳時代の堅穴住居 (樽味四反地13次) 弥生時代後期～古墳時代の堅穴住居、溝 古墳時代初頭の超大型掘立柱建物	130人

(8) 体験学習（表5）

年間に60件を超える団体が来館され、常設展示や収蔵庫等の施設見学に合わせ、火おこし体験などを実施した。

表5 体験学習一覧（1）

No.	学校名及び団体名	学年	期間	内容	参加者数
1	朝見社町女性部	—	平成17年4月19日（火）	展示見学・火おこし体験	32人
2	松山市立 味生第二小学校	6年生	平成17年4月22日（金）	展示見学・火おこし体験	118人
3	ピーターパン	—	平成17年4月23日（土）	展示見学	14人
4	松山東雲高校	1年生	平成17年4月28日（木）	展示見学・火おこし体験	35人
5	松山市立 宮前小学校	6年生	平成17年5月10日（火）	「社会科の学習」として (展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介)	120人
6	松山市立 小野小学校	6年生	平成17年5月17日（火）	展示見学・火おこし体験	186人
7	松山市立 福音小学校	6年生	平成17年5月25日（水）	「社会科の学習」として (展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介)	121人
8	平成清美中学校	—	平成17年5月26日（木）	展示見学	91人
9	松山市立 味酒小学校	6年生	平成17年5月27日（金）	授業「総合的な学習の時間」の一環として (展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介)	80人
10	松山市立 味酒小学校	6年生	平成17年5月31日（火）	授業「総合的な学習の時間」の一環として (展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介)	82人
11	デイケアセンター 天山竹林館	—	平成17年6月2日（木）	展示見学	34人
12	松山市立 味生小学校	6年生	平成17年6月3日（金）	展示見学・火おこし体験	115人
13	デイケアセンター星岡	—	平成17年6月7日（火）	展示見学	11人
14	デイケアセンター和泉	—	平成17年6月7日（火）	展示見学	28人
15	松山市立 味酒小学校	6年生	平成17年6月16日（木）	展示見学・火おこし体験	23人
16	朝鮮学校	—	平成17年6月21日（火）	展示見学	3人
17	松山市立 新下小学校	3年生	平成17年6月23日（木）	授業「総合的な学習の時間」の一環として (展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介)	12人
18	松山市立 味生第二小学校	3年生	平成17年6月28日（火）	授業「総合的な学習の時間」の一環として (展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介)	22人
19	デイケアセンター安佐荘	—	平成17年7月2日（土）	展示見学	22人
20	デイケアセンター続の里	—	平成17年8月5日（金）	展示見学	27人

体験学習一覧（2）

21	味酒心療内科	—	平成17年8月10日（水）	展示見学	21人
22	宇和島立開公民館	—	平成17年8月18日（木）	展示見学	25人
23	デイケアセンター白寿	—	平成17年8月18日（木）	展示見学	26人
24	デイサービス八食医院	—	平成17年8月23日（火）	展示見学	35人
25	北条ふるさと館 考古めぐり	—	平成17年9月27日（火）	展示見学	36人
26	松山市立 津田中学校	1年生	平成17年9月29日（木）	授業「総合的な学習の時間」の一環として （展示見学・火おこし体験・校区内の遺跡紹介）	42人
27	老人保健施設たかのこ館	—	平成17年10月5日（水）	展示見学	15人
28	松山市立 浅海小学校	5・6年生	平成17年10月11日（火）	展示見学・火おこし体験	30人
29	今治市立 別宮小学校	5年生	平成17年10月12日（水）	展示見学・火おこし体験	63人
30	東アジアの古代文化を考える会	—	平成17年10月14日（金）	展示見学	15人
31	久万高原町立 面河小学校	—	平成17年10月14日（金）	展示見学・火おこし体験	26人
32	子供チャレンジ教室	—	平成17年10月15日（土）	展示見学・火おこし体験	40人
33	松山市立 桑原中学校	1年生	平成17年11月11日（金）	授業「総合的な学習の時間」の一環として （展示見学・松山市の文化財について）	7人
34	松山市立 菊新中学校	2年生	平成17年11月11日（金）	授業「総合的な学習の時間」の一環として （展示見学・遺跡、発掘について）	4人
35	放送大学	—	平成17年11月20日（日）	展示見学	18人
36	環境フェスタ	—	平成17年11月20日（日）	展示見学・火おこし体験	35人
37	デイケアセンターれんげ荘	—	平成17年12月1日（木）	展示見学	33人
38	西条市 岡布小学校	6年生	平成17年12月6日（火）	授業「総合的な学習の時間」の一環として （展示見学・遺跡、发掘について）	37人
39	愛媛大学留学生	—	平成17年12月7日（水）	展示見学	15人
40	ウェルケア重信	—	平成17年12月9日（金）	展示見学	19人
41	デイサービス八食医院	—	平成17年12月13日（火）	展示見学	28人
42	文化財めぐり	—	平成17年12月18日（日）	展示見学	34人
43	愛媛大学	—	平成17年12月20日（火）	展示見学	24人
44	子供チャレンジ教室	—	平成17年12月23日（金）	展示見学・火おこし体験	52人
45	ふくすみデイサービス	—	平成18年1月19日（木）	展示見学	7人

体験学習一覧（3）

46	文化財めぐり	—	平成18年1月20日（金）	展示見学	36人
47	さきゆり句会	—	平成18年1月26日（木）	展示見学	10人
48	耕鮮学校	小1～中3	平成18年2月4日（土）	課外授業のため（展示見学・火おこし体験）	17人
49	松山市立 城西中学校	2年生	平成18年2月7日（火）	授業「総合的な学習の時間」の一環として（車イスの利用について）	8人
50	第一高等学院	—	平成18年2月7日（火）	高等学校の教育課程の一環として（展示見学・火おこし体験・勾玉作り）	8人
51	デイケアセンター桃の里	—	平成18年2月14日（火）	展示見学	24人
52	第1高等学院	—	平成18年2月22日（水）	高等学校の教育課程の一環として（展示見学・火おこし体験・勾玉作り）	2人
53	都市環境センター	—	平成18年2月26日（日）		44人
54	伊予市立 郡中小学校	6年生	平成18年3月2日（木）	展示見学	157人
55	鏡月山句会	—	平成18年3月5日（日）	展示見学	6人
56	松山市立 清水小学校	5年生	平成18年3月8日（水）	展示見学・火おこし体験	82人
57	松山市立 姫山小学校	5年生	平成18年3月9日（木）	展示見学・火おこし体験	114人
58	松山市立 砥部小学校	5・6年生	平成18年3月9日（木）	展示見学・火おこし体験	123人
59	子供チャレンジ教室	—	平成18年3月11日（土）	展示見学	49人
60	都市環境センター	—	平成18年3月12日（日）	展示見学	31人
61	寿楽会	—	平成18年3月17日（金）	展示見学	40人
62	子供チャレンジ教室	—	平成18年3月21日（火）	展示見学	44人

(9) 博物館学芸員実習（写真11）

平成6年度から博物館学芸員資格の取得を希望する学生に対し、実習を実施している。当年度は、9月3～10日（屋外実習）と9月13～17日（屋内実習）の日程で、愛媛大学生8名、神戸女子大学生1名を受け入れた。展示実習（展示解説や来館者案内）、写真実習（機材の取り扱いや撮影技術）、保存処理（技術や工程）などのカリキュラムを実施した。

(10) 職場体験（表6）

当センターでは、中・高校生教育の一環として実施されている「職場体験学習」を受託している。当年度は3校の生徒を受け入れ、埋蔵文化財の発掘調査業務や屋内整理業務等を体験していただいた。

表6 職場体験一覧

No.	学校名・学年	日時	内容	参加者数
①	松山市立南第二中学校（2年生）	平成17年10月20日（木）・21日（金） 9:00～15:00	発掘調査（来住町遭路14次調査地） 特別展示準備	1人
②	松山市立勝山中学校（2年生）	平成17年11月1日（火） 9:00～15:00	発掘調査（勝味四反地遭路12次調査地）	2人
③	松山北高等学校（1年生）	平成17年11月10日（木）・17日（木） 13:30～15:00	総合的な学習の時間	3人 6人

(11) 出前考古学教室（写真12・表7）

「総合的な学習の時間」、「選択教科社会科の授業」、「文化祭」等の利用では、各学校からの要請を受けて、学校や公民館に赴き出前考古学教室を実施した。当年度は30回実施した。



写真11 博物館学芸員実習「展示」風景



写真12 「出前考古学教室」風景

表7 出前考古学教室一覧

No.	学校名及び団体名	期間	内容	参加者数
①	松山市立 味酒小学校	①平成17年 5月12日（木） ②平成17年 6月 9日（木） ③平成17年 6月16日（木） ④平成17年 7月 7日（火） ⑤平成17年 8月 2日（火） ⑥平成17年10月26日（火） ⑦平成17年11月17日（木） ⑧平成17年11月18日（金） ⑨平成17年12月12日（月）	講義 講義 講義 講義 土器燒き 講義 講義 講義 講義	154人 154人 154人 154人 30人 154人 39人 39人 154人
②	松山市立 みどり小学校	①平成17年 5月24日（火） ②平成17年 5月26日（木） ③平成18年 1月12日（木） ④平成18年 1月27日（金）	考古学教室・火おこし体験 考古学教室・火おこし体験 土器作り 野焼き体験	74人 38人 114人 114人
③	石井公民館	①平成17年 7月29日（金） ②平成17年 8月19日（金） ③平成17年 8月26日（金）	火おこし 勾玉作り 土器作り	34人 39人 46人
④	松山市立 域西中学校	①平成17年 8月23日（火） ②平成17年10月26日（水） ③平成17年11月 9日（水） ④平成17年12月 7日（水） ⑤平成18年 3月 2日（木） ⑥平成18年 3月 8日（水）	勾玉の鋳型と土製勾玉の焼成 ガラス勾玉の焼成 講義（勾下の種類や歴史について） 滑石製勾玉・青土・小玉の製作① ガラス勾玉の焼成 講義	49人 49人 49人 49人 49人 49人
⑤	松山市立 北中学校	平成17年 9月30日（金）	総合的学習「ふるさと地域調べ」	190人
⑥	松山市立 桑原中学校	平成17年11月 3日（木）	「桑中 文化の日」 参加体験活動・勾玉づくり	31人
⑦	松山市立 鶴川中学校	平成17年11月 3日（木）	文化祭「講座別学習会・・勾玉づくり	21人
⑧	松山市立 北中学校	平成17年11月 3日（木）	北中文化教室・勾玉づくり	30人
⑨	松山市立 蔚新中学校	平成17年11月 6日（日）	文化祭「文化教室」・勾玉づくり	30人
⑩	松山市立 津田中学校	平成17年11月 9日（水）	文化祭「ふれあい活動」・勾玉づくり	29人
⑪	松山市立 新玉小学校	平成17年11月15日（火）	総合的学習・火おこし体験	50人
⑫	石井公民館	平成17年11月16日（水） ～11月21日（月）	展示	一般市民対象

3. 収集・保管活動

（1）埋蔵文化財関連

当年度は、松山市教育委員会に対し1名の篤志家から考古資料の寄贈願いを受けた。現在は資料調査を進めている。

(2) 大連古代ハス（写真13）

平成10年4月に松山市農業指導センターから古代ハスの株を分けていただき。この古代ハスは、平成8年1月に中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際に、大連市観光局局長の張宏安氏から大連市で出土した1千年前のハスの種子を松山市に寄贈していただいたもので、農業指導センターが育成していたものである。当年度は、昨年度より多い40輪以上が開花した。



写真13 「大連古代ハス」開花風景

4. 広報・出版活動（表8・9）

当センターでは、考古館主催の展示会・講演会などを開催するに先立ち、多くの観覧者を募るためにポスターやリーフレットを発刊している。また、発掘調査の成果を公開する発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより市民の方々においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで埋蔵文化財保護の普及啓発に役立つものと思われる。

表8 考古館出版物一覧

No.	出版物名	発行日	対象	版型・頁	部数
①	発掘へんろ展 ポスター 〃 チラシ 〃 パンフレット	平成17年4月	一般	B2 A4 2頁 A4 8頁	1,300枚 5,000枚 2,000部
②	考古学講座（1）レジュメ 〃 （2）〃 〃 （3）〃 〃 （4）〃 〃 （5）〃	平成17年5～7月	聴講者	A3 3頁 A3 2頁 A3 3頁 A4 1頁 A4・A3 3頁	70部 70部 70部 70部 70部
③	発掘調査速報展 ポスター 〃 はがき	平成17年7月	一般	B2 はがき	200枚 1,000枚
④	発掘調査報告会 レジュメ	平成17年7月 〃 8月	聴講者	A3 7頁 A3 12項	100部 100部
⑤	特別展 ポスター 〃 パンフレット 〃 チラシ	平成17年10月	一般	B2 A4 20頁 A4 2頁	500枚 3,000部 5,000枚
⑥	特別展 紀念講演会 レジュメ 〃 基礎講座① レジュメ 〃 ② 〃 〃 12月	平成17年10月 〃 11月 〃 12月	聴講者	A3 5頁 A3 4頁 A3 4頁	150部 150部 150部
⑦	遺跡めぐり 旅のしわり	平成17年11月	参加者	A4 7頁	50部
⑧	大人のための体験学習セミナー パンフレット	平成17年11月 〃 12月	参加者	A4 4頁	40部
⑨	企画展 ポスター 〃 チラシ	平成18年1月	一般	B2 A4 2頁	500枚 6,000枚
⑩	企画展 紀念講演会 レジュメ 〃 基礎講座① レジュメ 〃 ② 〃 〃 ③ 〃	平成18年1月 〃 1月 〃 2月 〃 3月	聴講者	A4 10頁 A3 2頁 A3 1頁 A3 2頁	150部 100部 100部 100部

表9 調査報告書一覧

No.	報告書名	発行日	対象	版型・頁	冊数
①	松山市文化財調査報告書 第109集 『番町遺跡』	平成18年3月31日	一般	A4 206頁	800冊
②	松山市文化財調査報告書 第110集 『大峰ヶ台遺跡Ⅰ・人峰ヶ台遺跡Ⅲ・南江戸谷遺跡Ⅰ』	平成18年3月31日	一般	A4 206頁	800冊
③	松山市文化財調査報告書 第112集 『東石井遺跡・西石井遺跡 -1・2・3次調査-』	平成18年3月31日	一般	A4 500頁	800冊
④	松山市文化財調査報告書 第113集 『東野お茶盛台遺跡 6次調査場』	平成18年3月31日	一般	A4 104頁	800冊
⑤	松山市埋蔵文化財調査年報17 (平成16年度)	平成17年12月28日	一般	A4 160頁	800冊

5. 施設の利用（表10）

当センターは、考古館主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会会場としても利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。

表10 施設利用一覧

(敬称略)

No.	団体名・テーマ	日時	会場	代表・発表者
①	瀬戸内海考古学研究会 第88回 (10周年記念講演会) 「愛媛県における中世海賊研究の諸問題」	平成17年6月4日(土)	講堂	代表 木暮信行 中川和・田中康
②	瀬戸内海考古学研究会 第89回 「最近の古代山城の削除成果」	平成17年7月30日(土)	講堂	西条市教育委員会 波多芳貴
③	瀬戸内海考古学研究会 第91回 「説明期古墳の学術調査成果～愛媛県四国中央市所在の 向山古墳を素材として～」	平成18年1月28日(土)	講堂	四国中央市教育委員会 中 勇樹
④	瀬戸内海考古学研究会 第92回 「米佐廬寺32次調査の成果と課題」	平成18年3月25日(土)	講堂	松山市教育委員会文化財課 岸見泰宏

6. 資料の貸出・調査（表11・12）

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業への出展や、研究者からの資料調査の要望などに応えるべく、可能な限りの資料の貸出や調査協力をを行っている。

表11 資料貸出一覧

No.	貸出資料名	点数	貸出・利用目的	貸出・利用期間	(敬称略)
①	勝造川遺跡出土 朱付着破片土器 松山大学構内遺跡3次調査出土 棒状石杵 松山大学構内遺跡3次調査出土 朱付着破片土器 宮前用瀬跡出土 朱付着破片土器	1点 1点 1点 1点	文化文教展示「海の道、アジアの路」に展示のため	平成17年6月1日～平成20年3月31日	九州国立博物館
②	樽床四反地遺跡3次出土 分銅形土器品（写真）	1点	香川県独立文化施設共同展示「長良川ミユージアム」に展示のため	平成17年6月20日～6月30日	香川県埋蔵文化財センター
③	御田谷2号墳出土 二糸二眼鏡（写真）	1点	「三角絞神祇鏡の研究」に掲載のため	平成17年6月17日以降	研究者
④	宝剣日遺跡出土 有柄式磨製石劍（写真） 祝谷6丁目遺跡出土 イモガイ製輪輪（写真） 安寺巖山墓出土 大型台座（写真）	1点 1点 1点	「季刊考古学」に掲載のため	平成17年6月20日～7月19日	株式会社 雄山閣
⑤	文京遺跡3次調査光査状況全景（写真）	1点	平成17年夜愛媛大学公開講座「文京遺跡から学ぶ弥生時代のムラ」ボスター・案内に掲載のため	平成17年7月11日以降	愛媛大学理系文化財研究室
⑥	来住魔守出土 崔介八葉蓮華文軒丸瓦 来住魔守出土 紫弁十叶蓮華軒丸瓦 来住魔守出土 三重弧文軒平瓦	1点 1点 1点	特別展「聖徳太子と國宝法隆寺」展に展示・図録等掲載のため	平成17年7月20日～12月28日	愛媛県美術館他
⑦	釜ノ口遺跡6次調査地SB1出土 磁玉製勾玉 釜ノ口遺跡8次調査地SB2出土 ガラス製小玉 釜ノ口遺跡8次調査地SB3出土 ガラス製小玉 勝幡高木遺跡2次調査地出土 磁玉製勾玉 ほか 釜ノ口遺跡6次調査地SB1出土 磁玉製勾玉（写真） 釜ノ口遺跡8次調査地SB2出土 ガラス製小玉（写真） ほか	1点 16点 12点 計187点 1点 計62点	特別企画展「玉作と玉文化～弥生から古代へ～」に展示・図録掲載のため	展示 平成17年10月6日～12月6日 写真 平成17年9月20日～10月21日	熱島市 教育委員会
⑧	船ヶ谷遺跡2次出土 磁 船ヶ谷遺跡4次出土 小型器台 船ヶ谷遺跡4次出土 环身 船ヶ谷遺跡4次出土 盂はか	1点 2点 2点 計50点	堆積文化財総合活用事業 「あるでないで阿波！－吉野川ソラとウミの考古学－」に展示・図録掲載のため	平成17年10月18日～12月13日	財団法人 德島県埋蔵文化財センター
⑨	祝谷六丁場遺跡 平形鋸削出土状況（写真）	1点	「青銅器埋納地調査報告書Ⅱ」に掲載のため	平成18年2月23日～3月31日	鳥取県教育庁 古代文化センター
⑩	市内遺跡出土 絵岡土器 市内遺跡出土 松圓土器（写真）	11点 10点	平成18年春季特別展「芸術曲一弥生人が描いた世界！」に展示・刊行物・HANに掲載のため	写真 平成18年3月2日～4月28日 諸物 平成18年4月10日～7月12日	大阪府 弥生文化博物館

表12 資料調査一覧

No.	調査資料名	点数	調査・利用目的	調査・利用期間
①	発掘へんろ展示品	100点	写真撮影	平成17年4月24日
②	来住磨寺出土 土器 久米高畠遺跡出土 瓦器	30点 20点	修士論文のため実測及び写真撮影	平成17年5月19日 ～5月25日
③	施島県立好都中庄東遺跡出土 『鏡像』	1点	写真撮影	平成17年5月25日
④	松山平野の遺跡	1点	歴史研究のため写真撮影	平成17年5月25日
⑤	考古館常設展示品	30点	研究のため写真撮影	平成17年7月16日
⑥	考古館新設展示品	30点	研究のため写真撮影	平成17年7月16日
⑦	むかし・昔のまつやを据る展示品	100点	写真撮影	平成17年7月20日
⑧	西谷六丁場遺跡出土 分銅形土製品 西谷アリ遺跡出土 分銅形土製品 松山大字横内遺跡 3次調査地出土 分銅形土製品 文京遺跡 3次調査地出土 分銅形土製品 文京遺跡 4次調査地出土 分銅形土製品 道後笠谷遺跡出土 分銅形土製品 久米高畠遺跡22次調査地出土 分銅形土製品 福音小学校内遺跡出土 分銅形土製品 末尾高畠遺跡23次調査地出土 分銅形土製品 来住磨寺遺跡22次調査地出土 分銅形土製品 柳沢四反地遺跡 3次調査地出土 分銅形土製品 久米遺跡出土 分銅形土製品	2点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 1点 2点 1点 1点 1点 1点 1点 1点	松山市「グラフ松山ワクワク」 掲載のため写真撮影	平成17年7月22日
⑨	埴輪 古照遺跡 達原殿 上器	1点 1点 2点	学校の宿題に活用するため写真撮影	平成17年7月26日
⑩	古照遺跡 伊予のあけぼの 道後城北の発生社会 ボックス展示 さまざまな農工具 埴輪の世界	1点 1点 3点 2点 2点 3点	学校の文化祭に出すため写真撮影	平成17年7月27日
⑪	「久米評」刺繡土器 来住磨寺出土 瓦	1点 8点	研究のため実測	平成17年8月12日
⑫	大庭遺跡出土 上器	38点	調査報告書作成のため実測	平成17年8月25日
⑬	吉川遺跡 大弥文化の伝播 松山平野の発生時代 漁式石斧 古墳の出現	2点 1点 2点 2点 2点	大学の課題・実習先の博物館のパンフレット作成のため写真撮影	平成17年9月17日
⑭	特別展「祈り」展示品	100点	写真撮影	平成17年10月30日
⑮	特別展「祈り」展示品 分銅形土製品等	31点	研究のため写真撮影	平成17年12月10日
⑯	特別展「祈り」展示品 分銅形土製品等	2点	学習・研究のため写真撮影	平成17年12月11日
⑰	企画展「食と器のものがたり」展示品	100点	写真撮影	平成18年1月29日

7. 職員研修・会議（表13）

当センターでは、独立行政法人奈良文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修や会議に参加している。こうした研修や会議には、積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

表13 職員研修・会議一覧

No.	研修・会議名	日時	開催地	参加者数
①	第26回全国埋蔵文化財法人連絡協議会	平成17年6月8日(水)～10日(金)	富山県	1名
②	平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック地区委員会	平成17年9月1日(木)～2日(金)	徳島県	1名
③	平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	平成17年9月29日(木)～30日(金)	徳島県	3名
④	平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 研修会	平成17年10月20日(木)～21日(金)	北九州市	2名
⑤	平成17年度第2回埋蔵文化財担当者等 講習会	平成18年1月12日(木)～13日(金)	滋賀県	1名

8. その他（表14）

表14 平成17年度 考古館月別入館者数調（平成17年4月1日～18年3月31日）（単位：人）

月	開館 日数	常設展示室								特別 展示 室	展示室総 入場者数	入館 者 数			
		有料入館者				無料入館者									
		一般	高齢者	団体 各種割引	小計	高校生 以下	身障者	その他	小計						
4	25日	162	49	22	233	209	17	24	250	178	661	607			
5	25日	226	15	0	241	761	10	21	792	1,183	2,216	867			
6	26日	200	90	22	312	258	5	165	428	929	1,669	1,415			
7	27日	167	36	132	335	114	4	41	159	551	1,045	839			
8	27日	203	78	50	331	126	8	0	133	632	1,096	487			
9	25日	84	24	15	123	70	4	0	74	—	197	368			
10	27日	145	24	8	177	193	2	654	849	—	1,026	763			
	特8日	116	11	0	127	27	0	647	674	—	801	—			
11	24日	175	51	0	226	128	6	1	135	—	361	720			
	特24日	301	61	0	362	125	6	120	251	—	613	—			
12	23日	107	62	66	235	75	3	2	80	—	315	621			
	特10日	117	34	0	151	46	3	99	148	—	299	—			
1	23日	91	49	1	141	23	3	0	26	261	428	454			
2	24日	109	24	11	144	76	4	7	87	412	643	505			
3	26日	161	23	0	184	555	2	19	576	924	1,684	1,261			
計		302	2,364	631	327	3,322	2,785	77	1,800	4,662	5,070	13,054	8,907		

*「特」は特別展のこと

松山市埋蔵文化財調査年報 18

平成18年10月31日 発行

編集
発行

松山市教育委員会

〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目6-1
TEL(089)948-6605

財團法人 松山市生涯学習振興財團
埋蔵文化財センター

〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6
TEL(089)923-6363
FAX(089)925-0260

印刷

明星印刷工業株式会社

〒790-0056 愛媛県松山市十居田町500番地
TEL(089)971-7111

